

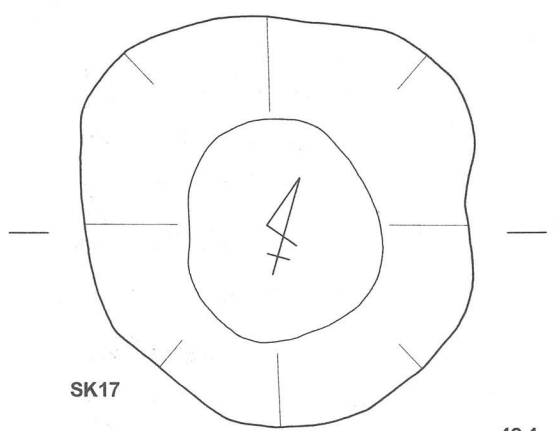
第73図 SK13~16平・断面図 (1/20)

SK16 (第73図)

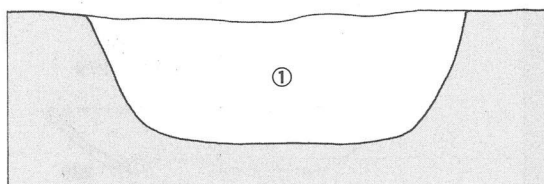
B 3 調査区で確認した不整形な土坑で、断面は皿状を呈する。埋土は3層で、内2層はブロック状の埋土である。層1がほぼ全体を占めるため、短時間に埋められた可能性が高い。出土遺物はない。

SK17 (第74図)

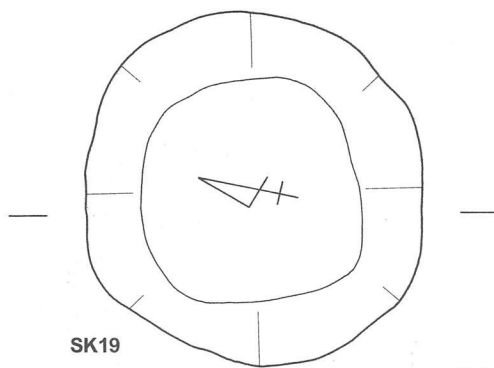
B 3 調査区で確認した円形の土坑で、断面は逆台形を呈する。埋土は1層で、埋められた可能性が高



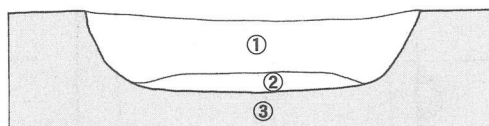
42.1m



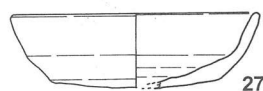
① 灰色砂混じり粘質土



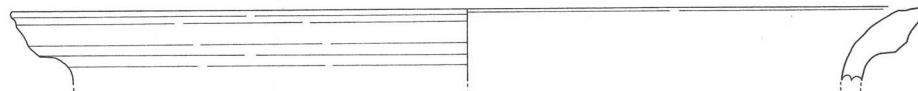
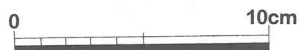
42.3m



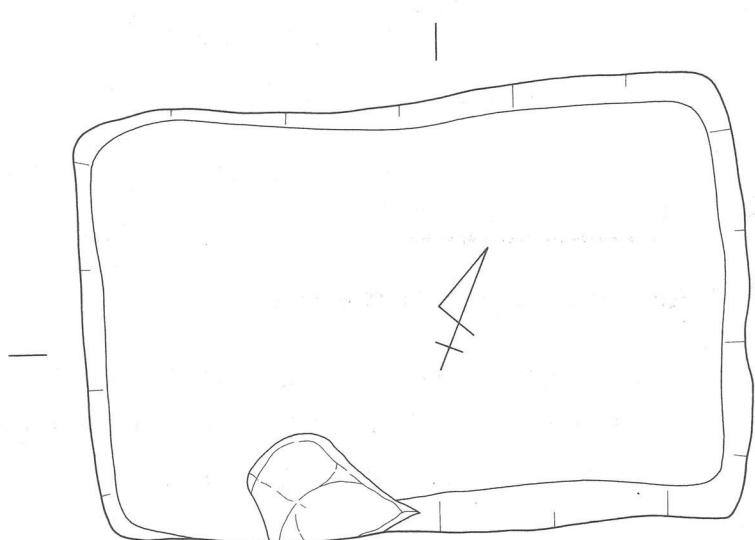
① 淡灰黄色砂質土(3のブロック、Mn、Fe混じる)
② 暗灰色粘質土
③ 暗褐色シルト



271

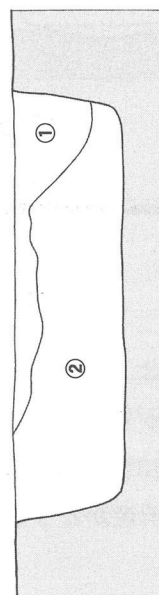


272

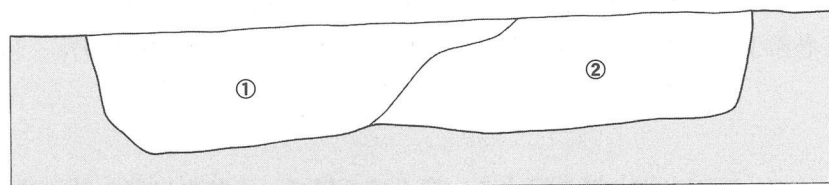


SK18

42.1m

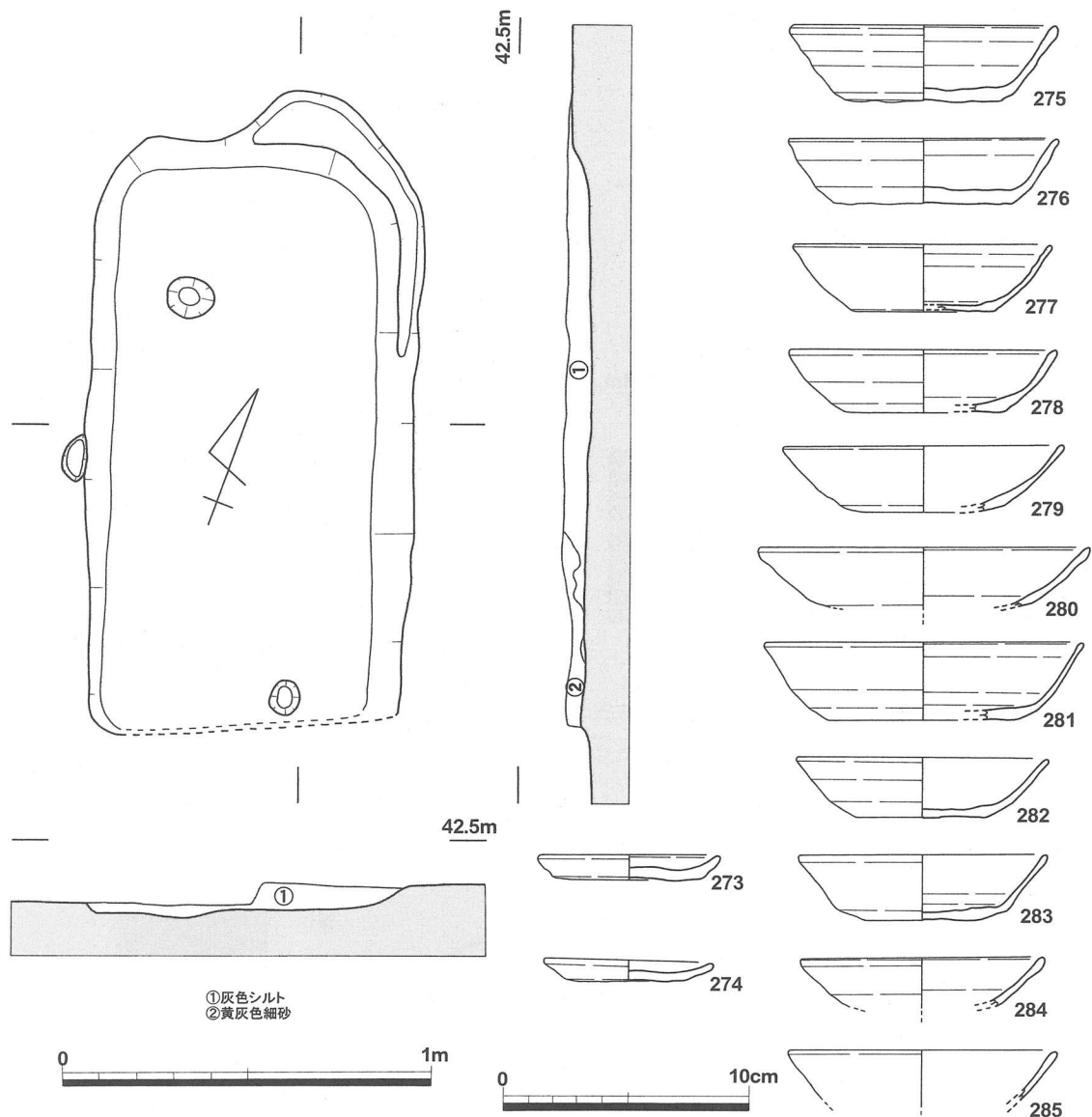


42.1m



① 灰色シルト
(やや粘質、濁灰褐色粘質ブロック混じる)
② 濁灰黄褐色粘質土(Mn)

第74図 SK17~19平・断面図 (1/20)、出土遺物実測図 (1/3)



第75図 SK20平・断面図（1/20）、出土遺物実測図（1/3）

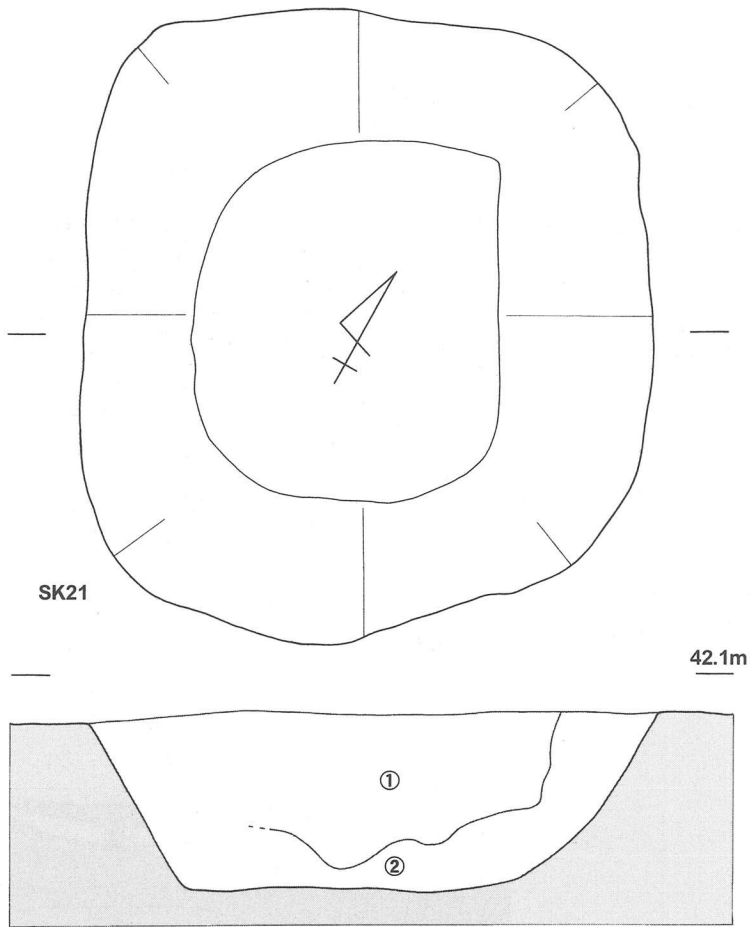
い。出土遺物は、271・272が出土している。271は、土師器杯で底面は糸切りが見られる。272は瓦質土鍋で、口縁部が外反し、外面に肥厚している。271の形態のみでの位置づけは難しいが、本遺跡出土遺物が大きくは13世紀代と14世紀代に分かれることから13世紀後半代の所産と考えておく。ただし、272がこの時期の所産かどうかは不明である。

SK18（第74図）

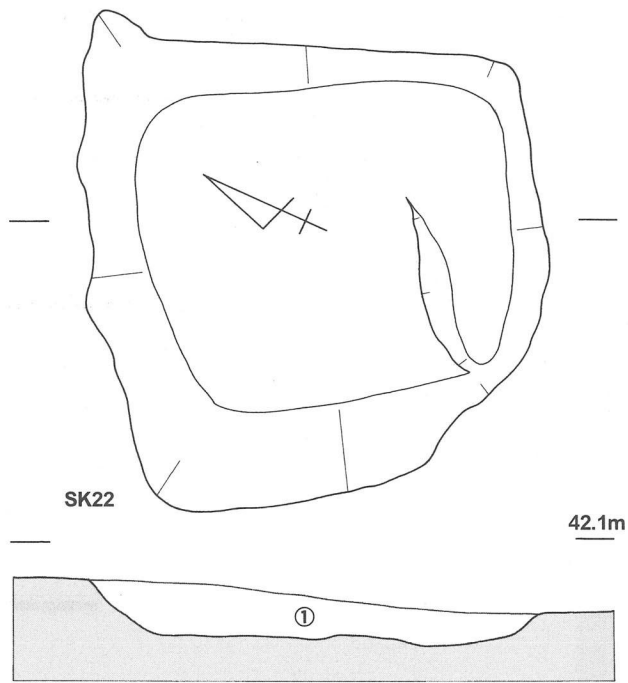
A 2・B 3 調査区で確認した四角形の土坑で、断面は逆台形を呈する。埋土は2層で、東西で大きく分かれる。層2でいったん埋められた土坑を再度掘削しなおした状況を呈する。出土遺物はない。

SK19（第74図）

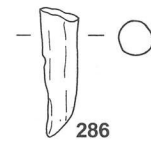
A 3 調査区で確認した円形の土坑で、断面は逆台形を呈する。埋土は2層で、土坑底に薄く層2が確認されるが、大半は層1で埋没しており、埋められた可能性が高い。出土遺物はない。



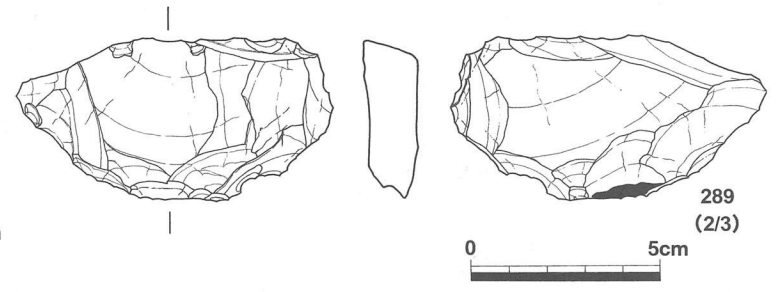
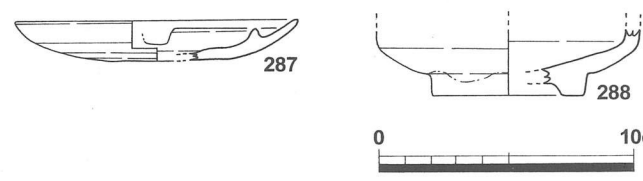
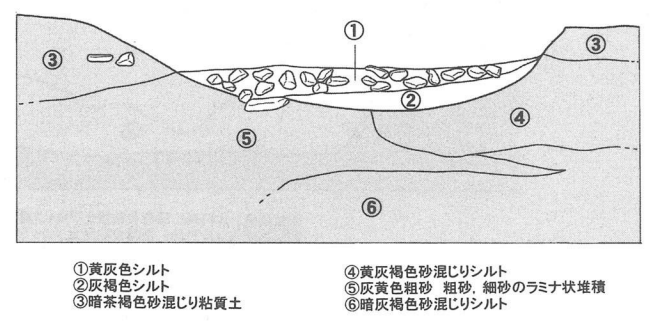
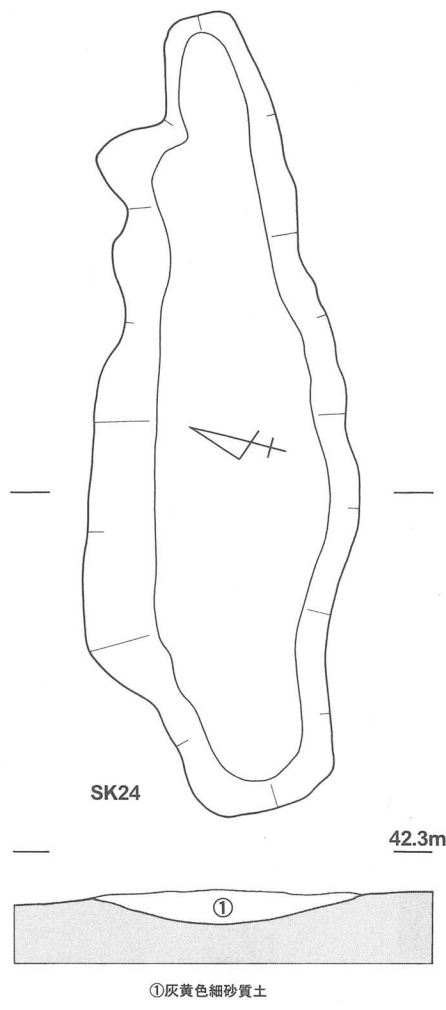
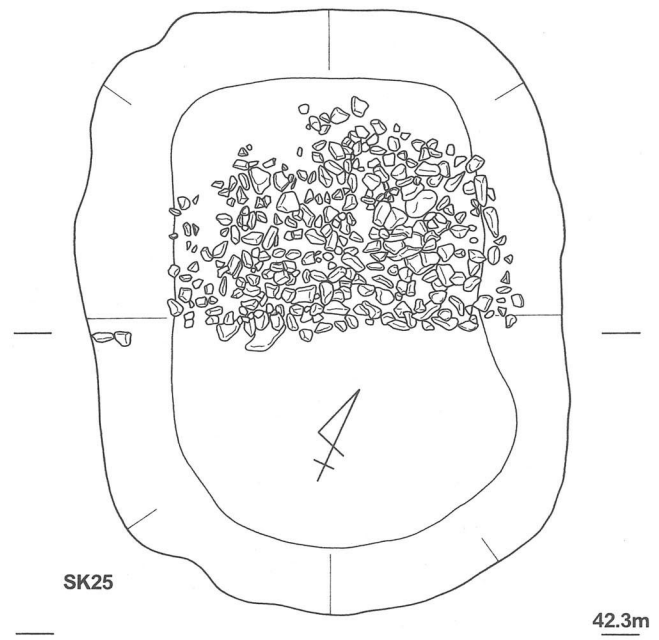
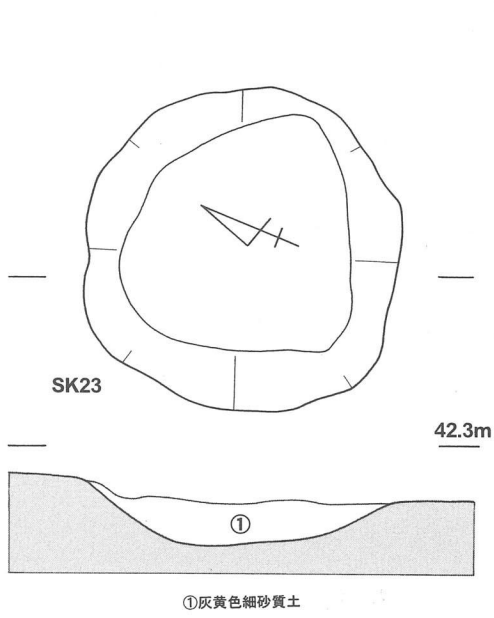
①黄灰色シルト(Mn, 暗褐色粘質土ブロック混じり)
 ②灰茶褐色シルト(Mn, 暗褐色粘質土ブロック混じり)



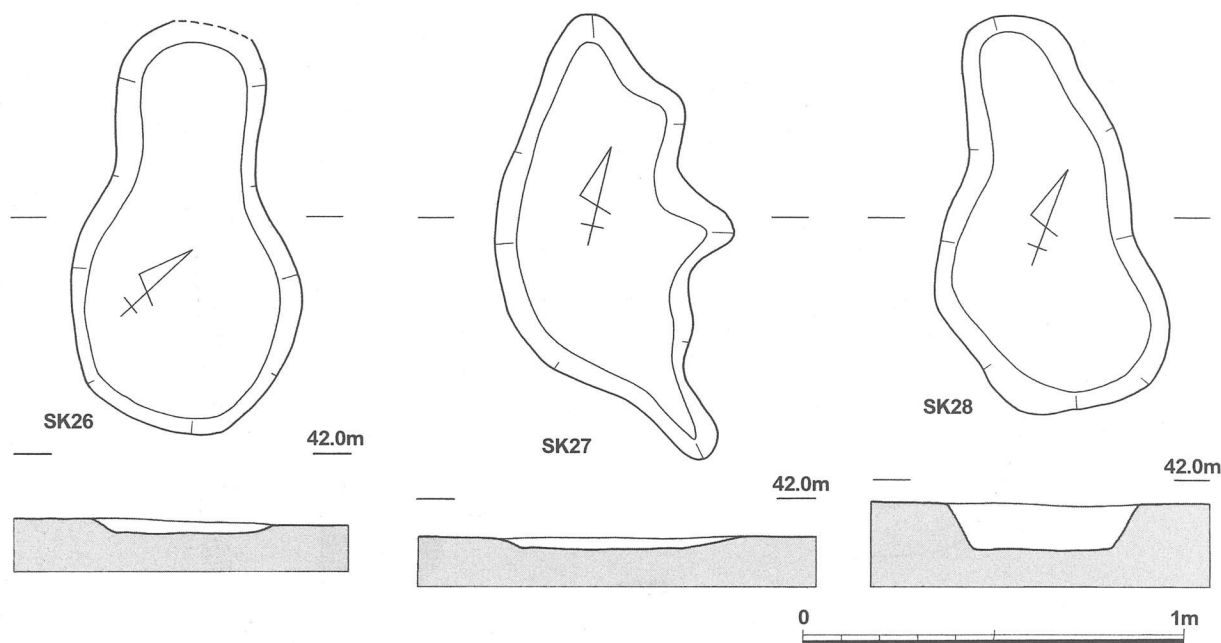
①黄灰色シルト(暗褐色粘質土ブロック混じり)



第76図 SK21・22平・断面図 (1/20)、SK22出土遺物実測図 (1/3)



第77図 SK23~25平・断面図 (1/20)、SK25出土遺物実測図 (1/3)



第78図 SK26～28平・断面図 (1/20)

SK20 (第75図)

A 5 調査区で確認した長方形の土坑で、断面は浅い皿状を呈する。埋土は2層で、大半が1層で構成されている。土坑内に柱穴が2穴確認されるが、土坑に伴うものかどうかは不明である。土坑内からは273～285が出土している。273・274は土師器小皿である。両者ともヘラ切り底である。275～285は土師器杯で、確認できるもの全てがヘラ切りの底部を持つ。形態全体からはⅢ-①～③期、14世紀前半代に位置づけて問題ない。

土坑の形態から、この時期の土坑墓の可能性もある。

SK21 (第76図)

C 5 調査区で確認した方形の土坑で、断面は逆台形を呈する。埋土は2層で、部分的に境目が不明瞭になる。短時間に埋められた可能性が高い。出土遺物はない。

SK22 (第76図)

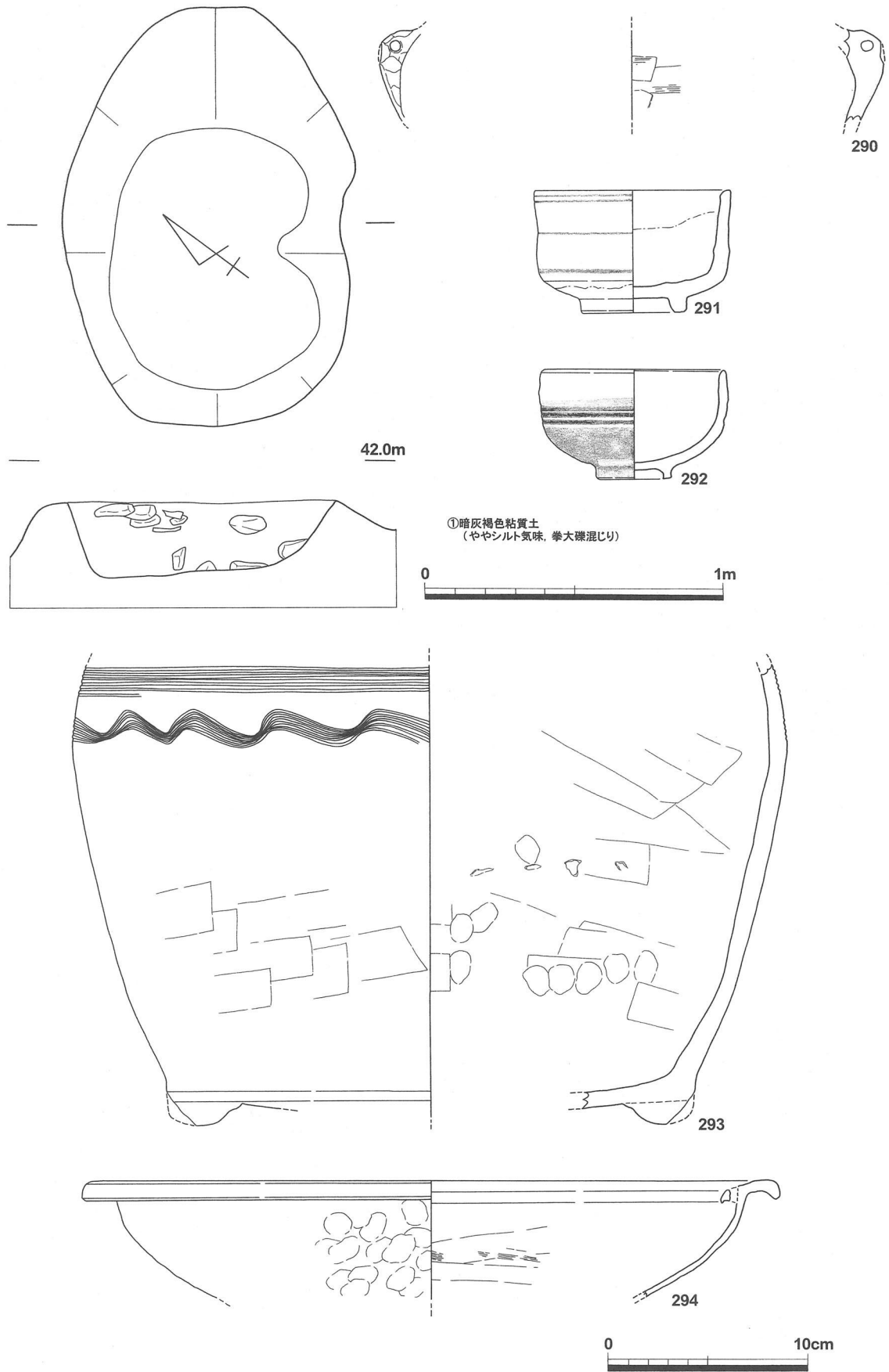
C 5 調査区で確認した方形の土坑で、断面は浅い皿状を呈する。埋土は1層で、埋められた可能性が高い。出土遺物は286、土師質土釜の脚部先端が出土している。中世の範疇で考えられる。

SK23 (第77図)

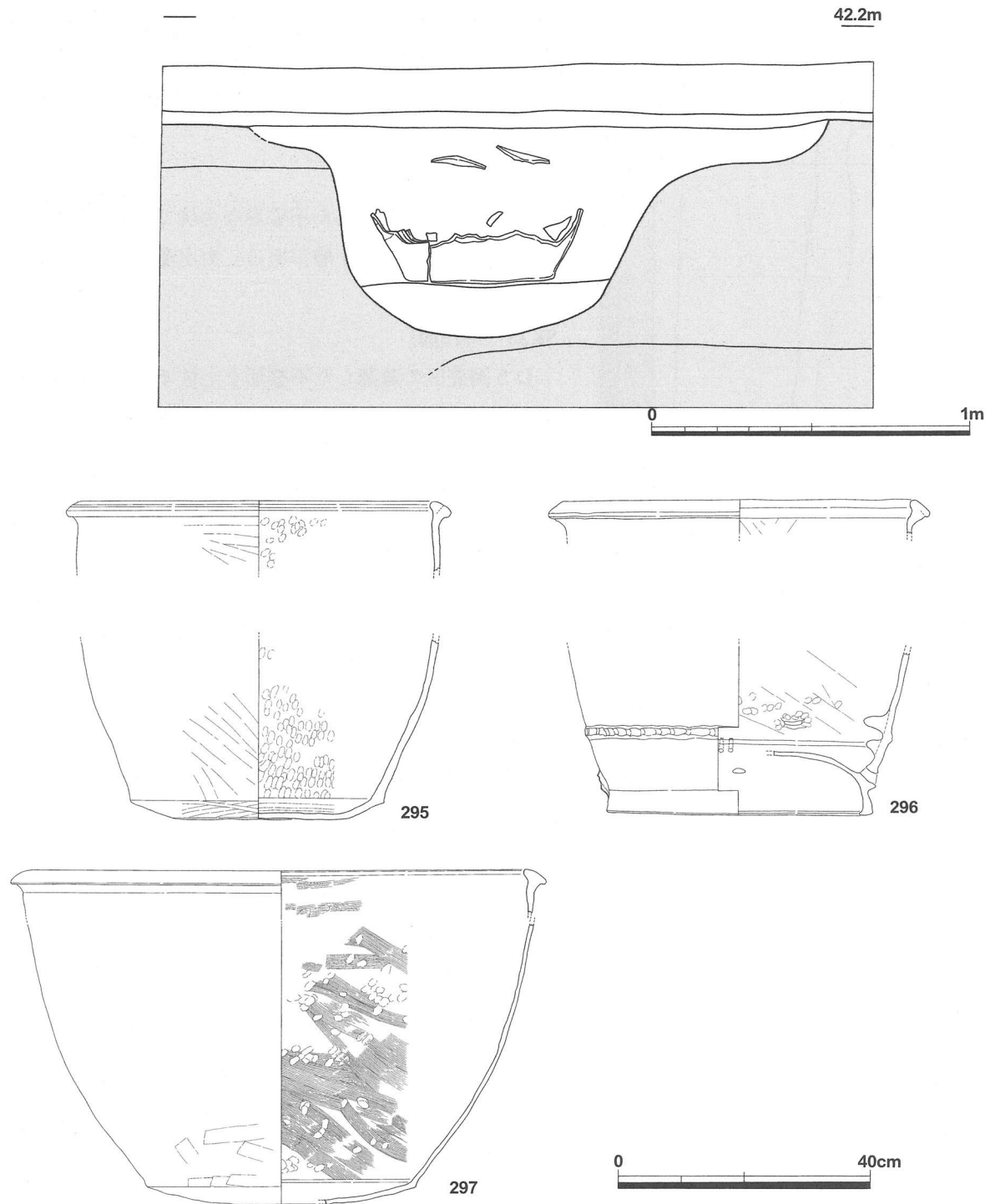
B 5 調査区で確認した円形の土坑で、断面は浅い皿状を呈する。埋土は1層で、埋められた可能性が高い。出土遺物はない。

SK24 (第77図)

B 5 調査区で確認した不整形な土坑で、断面は浅い皿状を呈する。埋土は1層で、埋められた可能性が高い。出土遺物はない。



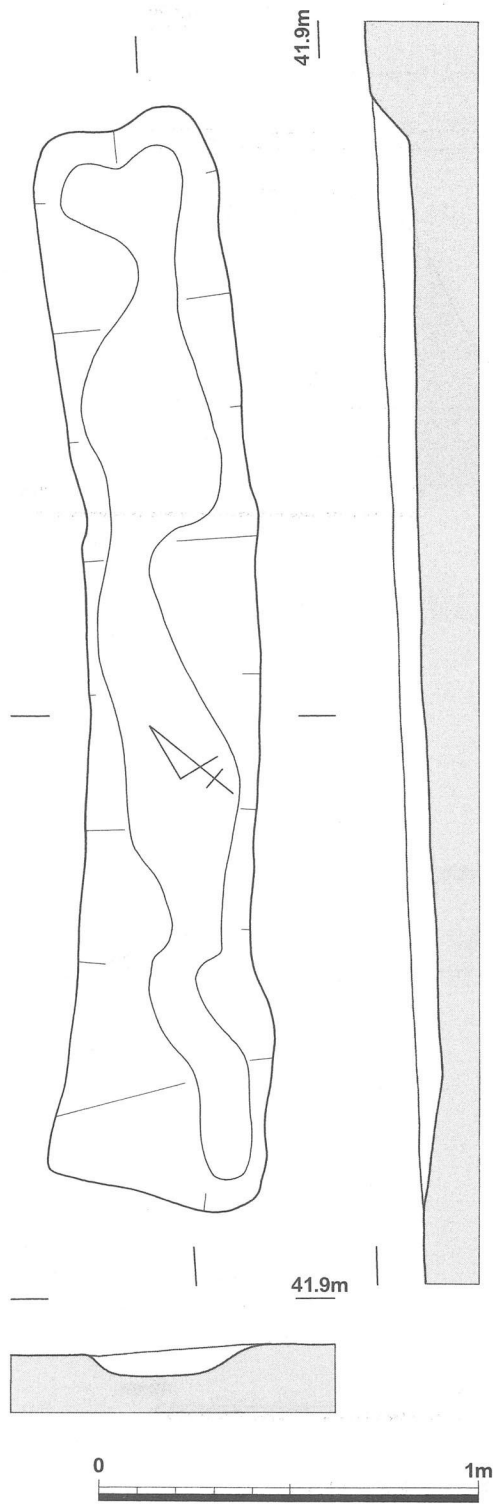
第79図 SK29平・断面図 (1/20)、出土遺物実測図 (1/3)



第80図 SK30断面図 (1/20)、出土遺物実測図 (1/10)

SK25 (第77図)

C 5 調査区で確認した方形の土坑で、断面は浅い皿状を呈する。埋土は2層で、層1には円礫が多数含まれている。性格は不明で、287~289が出土している。287は、備前系陶器の灯明皿である。内面に仕切りがあり、18世紀前半~第3 四半期頃と考えられる。288は肥前系陶胎染付で、外面は灰釉が見られる。18世紀代と考えられる。289はサヌカイト製スクレイパーである。287・288から18世紀代に位置づけられる。



第81図 SK31平・断面図 (1/20)

SK31 (第81図)

C 5 調査区で確認した長方形の土坑で、断面は浅い皿状を呈する。埋土は1層である。出土遺物はない。

SK26 (第78図)

C 5・D 5 調査区で確認した不整形な土坑で、断面は浅い皿状を呈する。埋土は1層である。出土遺物はない。

SK27 (第78図)

C 5 調査区で確認した不整形な土坑で、断面は浅い皿状を呈する。埋土は1層である。出土遺物はない。

SK28 (第78図)

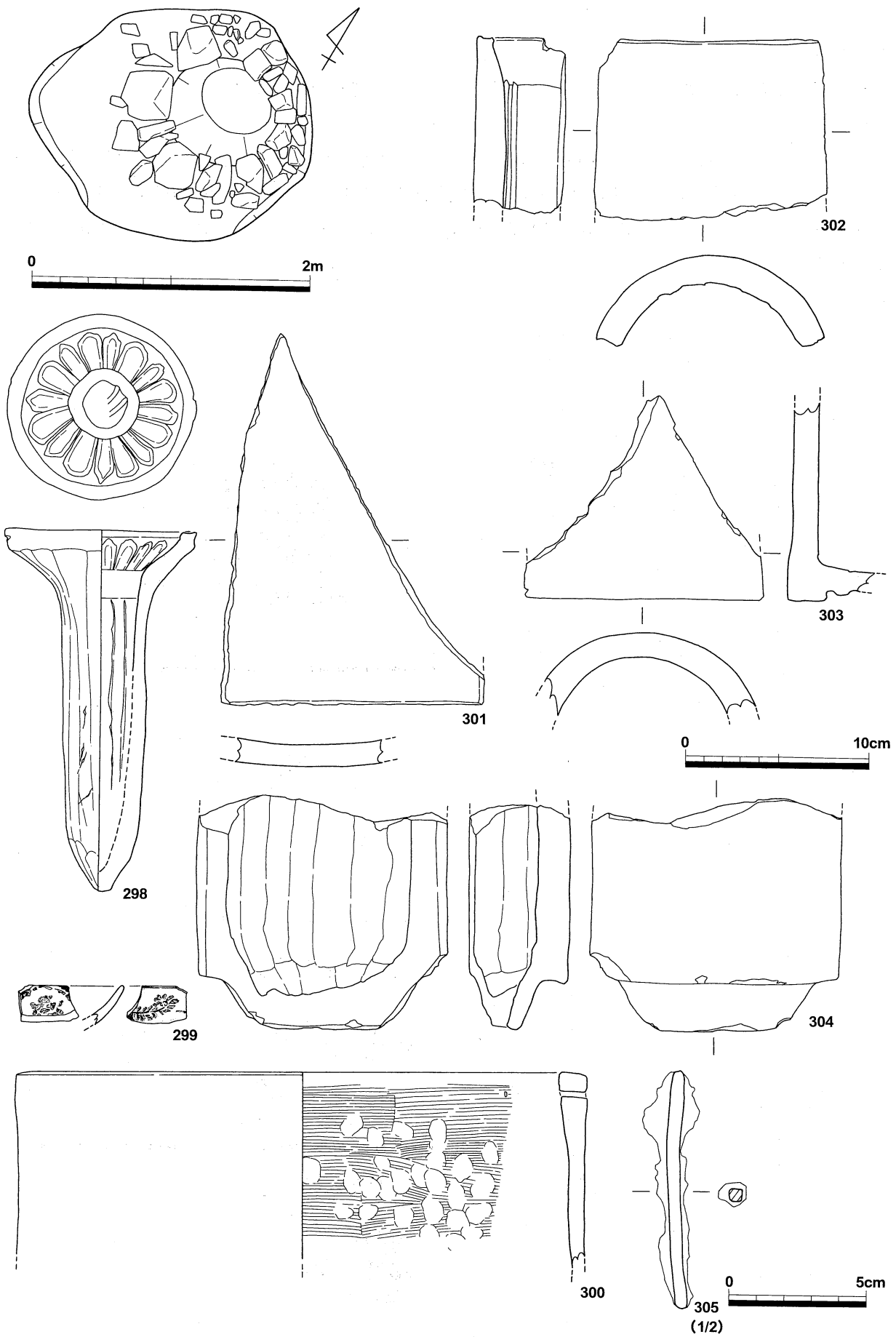
D 5 調査区で確認した不整形な土坑で、断面は逆台形を呈する。埋土は1層である。出土遺物はない。

SK29 (第79図)

D 5 調査区で確認した不整形な土坑で、断面は逆台形を呈する。埋土は1層である。土坑斜面に人頭大の石が見られる。土坑の性格は不明である。出土遺物は、290～294である。290は、羽釜の耳部で体部は確認できていない。291は肥前系陶胎染付で、口縁部に敲打痕が見られる。18世紀代に位置づけられる。292は瀬戸・美濃系の腰鑄碗で、内面及び口縁部外面には灰釉、その他の外面には鉄釉が見られる。外面には櫛描状沈線が施され、18世紀後半に位置づけられる。293は土師質甕の底部で、円球状の足が付いている。294は焙烙である。土坑の埋没年代は、18世紀末～19世紀初頭頃と考えられる。

SK30 (第80図)

F 5 調査区の断面で確認され、平面形態は不明である。断面は上部の広がるU字形を呈し、295～297が出土している。この土坑は、297等を設置するための土坑で、安定性を得るために土坑掘削後、土を平らに引いている。295・296は廃棄段階での投入と考えられる。295・297は土師質甕で、296は土師質風呂である。幕末以降と考えられる。



第82図 SE01平面図(1/20)、出土遺物実測図(1/3)

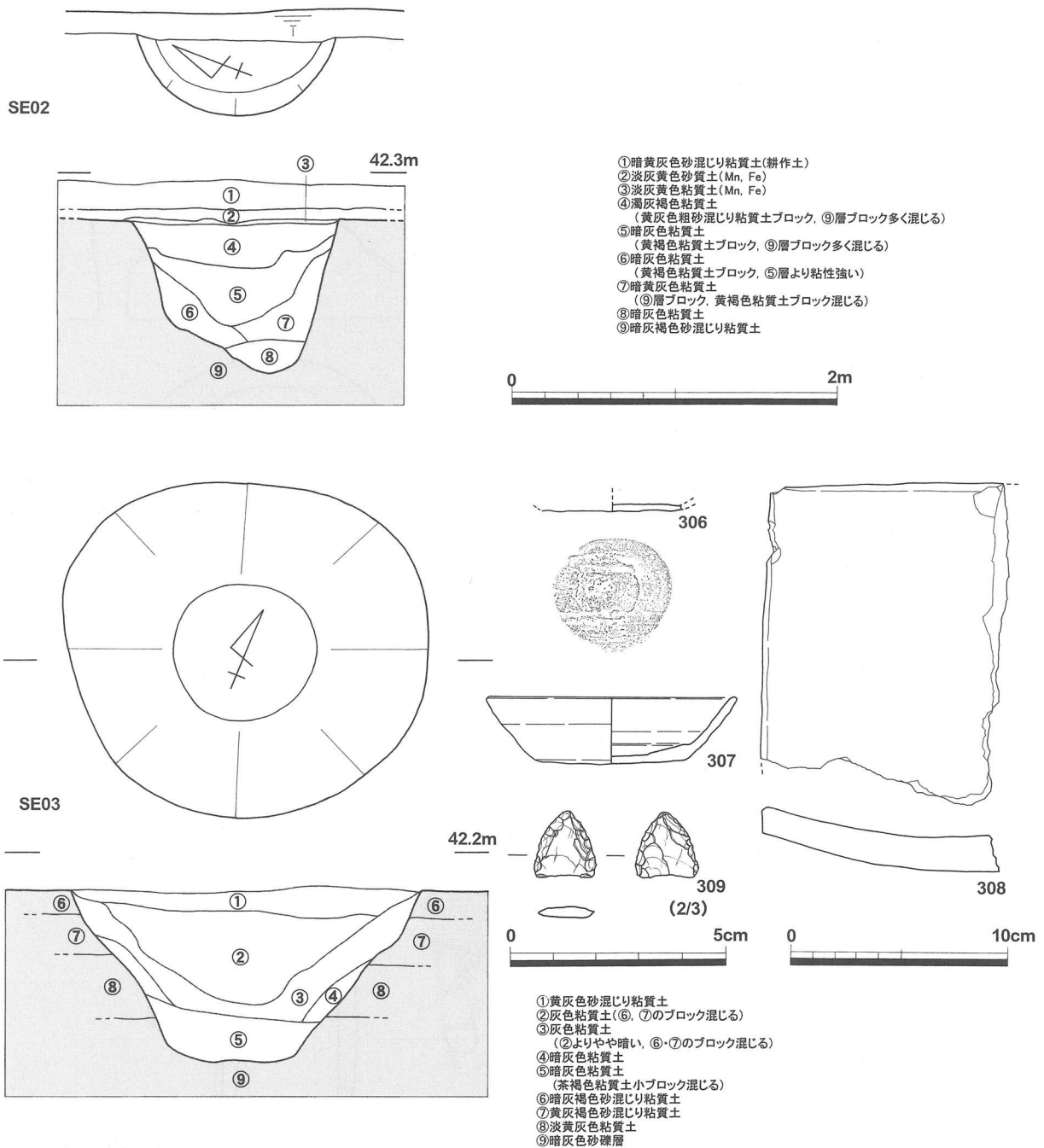
6 井戸

調査区内で検出された井戸は、石組井戸1基、素掘井戸3基の計4基である。

SE01 (第82図)

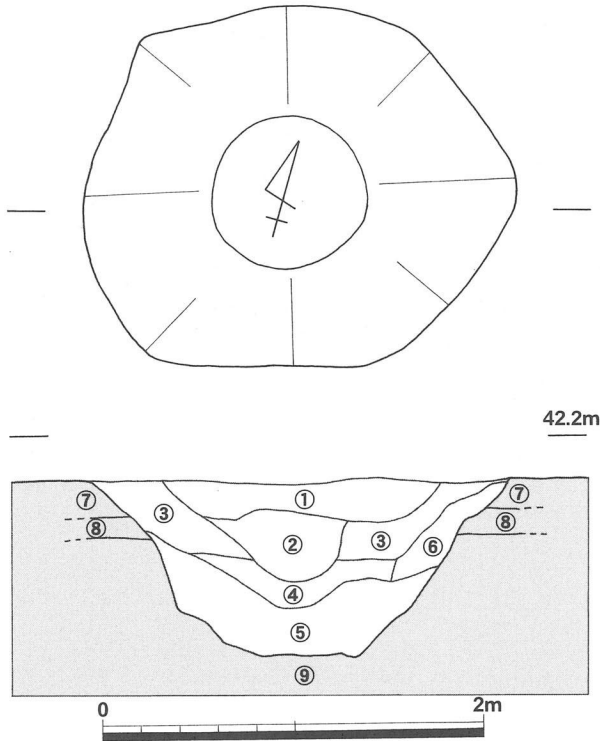
B1・2調査区で確認した。この井戸は、調査直前まで利用されていた石組井戸で、出土遺物は298～305で、花立て・染付け・土師質大甕・瓦・不明鉄製品が出土している。299は肥前系磁器皿で、コバルト呉須が用いられ、文様は型紙摺りである。明治・大正時代に位置づけられる。出土遺物からも近代以降と考えている。

SE02 (第83図)



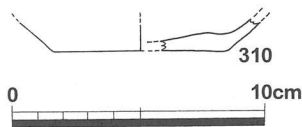
第83図 SE02・03平・断面図(1/40) SE03出土遺物実測図(1/3)

B 3 調査区で確認し、半分が調査区外である。検出部分からは、円形でやや不整形な断面形態である。埋土は5層に分かれ、徐々に埋没したことが伺われる。埋土は粘質土で構成されており、湧水が顕著であった可能性は低い。なお、出土遺物はない。



42.2m

- ① 灰色シルト(黄褐色粘質土ブロック混じり)
- ② 灰色シルト(①よりやや暗く砂質気味)
- ③ 灰色粘質土(暗褐色、暗黄褐色粘質土ブロック混じり)
- ④ 暗灰色粘質土(暗黄褐色、黒灰色粘質土ブロック混じり)
- ⑤ 濁暗灰色粘質土
- ⑥ 濁灰色粘質土(④より暗い)
- ⑦ 暗灰褐色砂混じり粘質土
- ⑧ 淡黄灰色粘質土
- ⑨ 暗灰色砂礫層(拳大以上の礫が大半)



第84図 SE04平・断面図(1/40)、
出土遺物実測図(1/3)

SE03 (第83図)

B 3 調査区で確認され、円形で逆台形の断面を呈する。埋土は5層に分かれ、徐々に埋没したことが伺われる。層9が砂礫層で、この層からの湧水を利用したものと考えられる。埋土は粘質土で構成されており、湧水が顕著であった可能性は低い。出土遺物は306~309である。306は土師器杯の底部で、ヘラ切りが見られる。307も土師器杯で、底面は糸切り、口縁部が外上方に直線的に延び、小型化すること、深さはまだ浅くないことなどからⅡ-⑧期以降、13世紀代以降と考えられるが、他の資料との関係から13世紀後半代にとどまると考えられる。308は平瓦で、近世以降と考えられる。309はやや膨らみを持つが平基式の石鏃である。いずれの資料も遺構上面で検出されており、SE03の年代決定の資料とはならない。

SE04 (第84図)

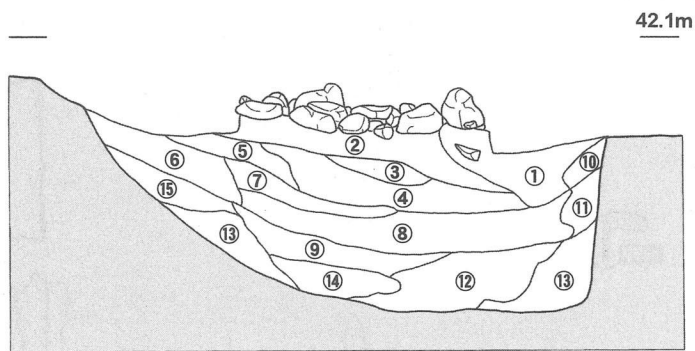
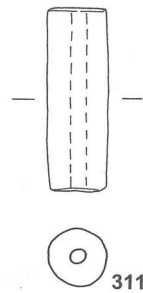
A 3・B 3 調査区で確認され、SE03同様、円形で逆台形の断面を呈する。埋土は6層に分かれ、徐々に埋没したことが伺われる。層9が砂礫層で、この層からの湧水を利用したものと考えられる。埋土は粘質土で構成されており、湧水が顕著であった可能性は低い。出土遺物は310である。310は土師器杯の底部で、ヘラ切りが見られる。年代は不詳である。

7 不明遺構

概報作成段階では、不明遺構として列記したものも多いが、その多くは遺構面に溜まった包含層であり、ここでは、遺構として位置づけられるもののみを取り上げ、前者は包含層出土遺物として次項で取り上げた。

SX01 (第85図)

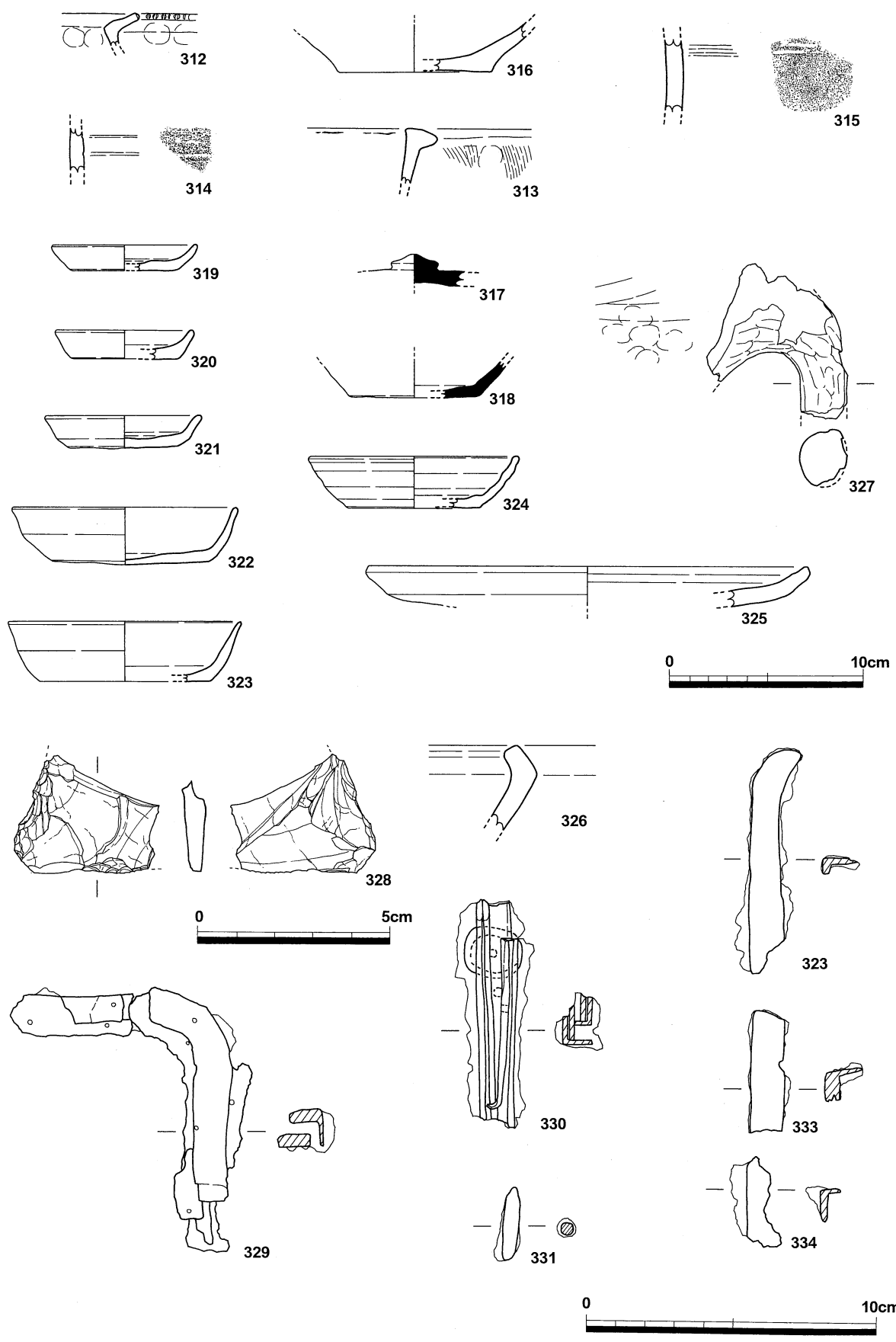
C 5 調査区で確認したSD48上層の楕円形の落ち込みで、人頭大の礫が多数出土している。この礫中からは、311の管玉が出土した。礫は、断面でも確認できるようにSD48埋没後に礫を敷いている。管玉のみの出土であり、年代は不明であるが、古墳時代の祭祀にかかわる遺構の可能性もある。



- ① 暗灰褐色粘質土(Fe)
- ② 暗灰褐色砂質土(Fe)
- ③ 暗灰褐色粗砂
- ④ 暗灰茶褐色砂質土(Fe)
- ⑤ 暗茶褐色砂質土(Fe)
- ⑥ 暗褐色シルト(Fe)
- ⑦ 暗茶褐色砂質土(Fe)
- ⑧ 暗灰色砂質土と黒灰色粘質土のラミナ
- ⑨ 暗灰色砂質土
- ⑩ 暗灰黄褐色粘質土(Fe)
- ⑪ 濁灰黄褐色シルト(Fe)
- ⑫ 灰色粗砂
- ⑬ 灰黄色シルト(Fe)
- ⑭ 黒灰色粘質土
- ⑮ 暗褐色シルト(Fe, やや粘質土気味)



第85図 SX01平・断面図 (1/30)、出土遺物実測図 (1/1)



第86図 包含層出土遺物実測図① (1/3)

8 包含層 (第86~93図)

312~417は、包含層出土の遺物である。中には遺構が検出されていない時期の資料もあり、この遺跡の成り立ちや周辺への広がりを考える上で重要である。

概報段階で上記SX01以外の不明遺構として取り扱ったものもこの中に含まれる。これは、その多くが溝状遺構の周辺で確認され、明確な掘りこみなどが確認できていないと判断した結果である。また、単独の溝に関係するとは断定できていないため、包含層資料同様の位置づけにしている。

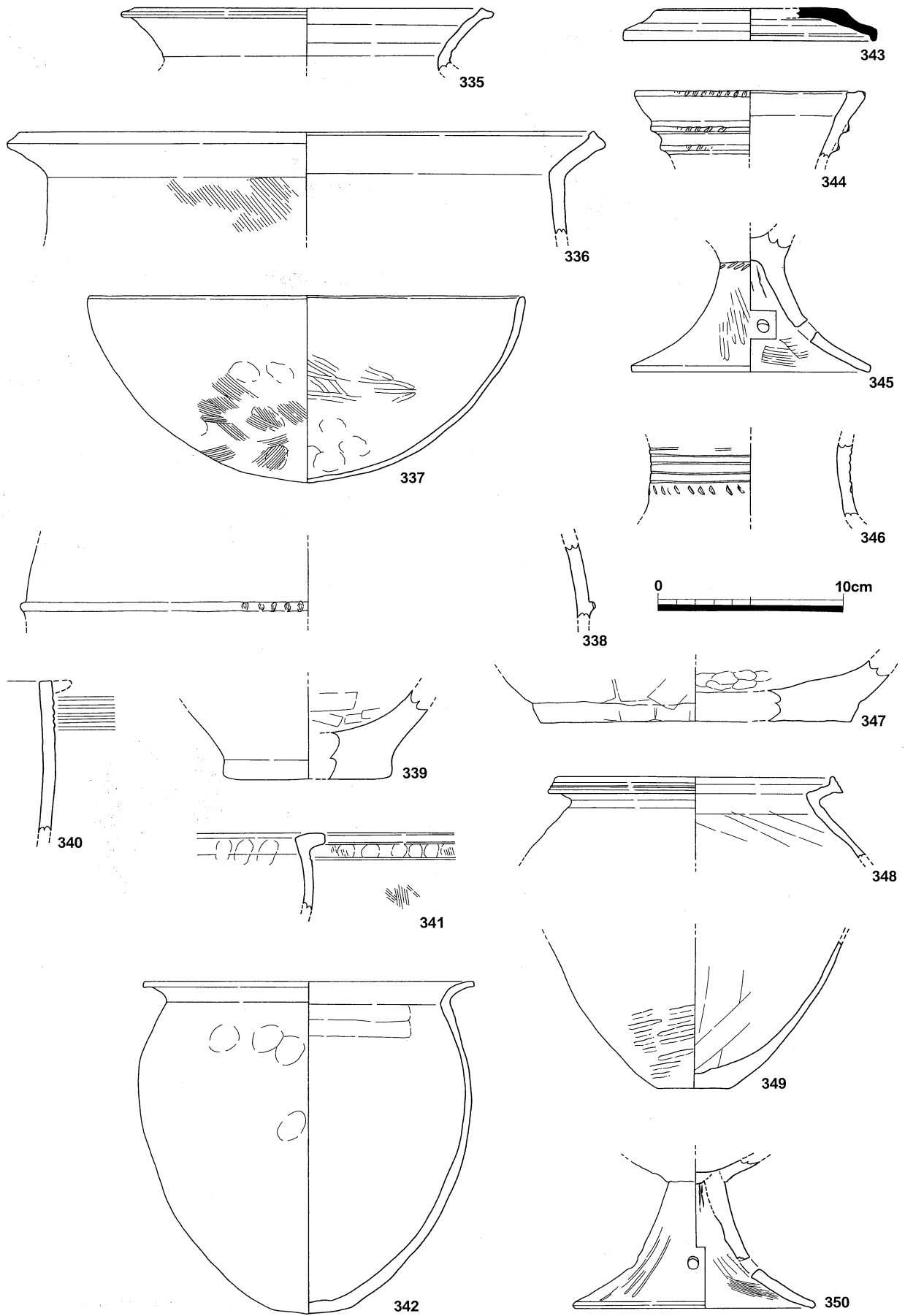
312は、弥生時代前期の甕で、口唇部に刻目が見られる。313も同時期の甕で、外面はハケ目調整である。314・315は同時期の壺体部片で、2条の沈線が見られる。316は同時期の壺底部である。317は須恵器杯蓋片で、宝珠つまみの先端が扁平になっていないことから飛鳥I~Vの範疇と考えられ、ほぼ7世紀代に位置づけられる。318は須恵器杯底部片で、時期は不詳である。319~321は土師器小皿で、319・320は底面ヘラ切りである。322~324は土師器杯で、323の底面は糸切りである。319~324は他の遺構群と同じく13世紀代に位置づけても問題ない。325は土師器皿の形態を持つが、器壁が厚く古くさかのぼるものではない。焙烙の可能性もある。時期は不明である。326には条痕は認められないが、土師質すり鉢の破片と考えられ、Ⅲ-⑦~⑨期、16世紀代の資料と考えられる327は土師質土釜の脚で年代は不詳である。328はサヌカイト製の石器片であるが、製品名は不明である。329~334は不明鉄製品で、形状からは金具と考えられるが定かではない。また年代も不詳である。335は須恵器壺の口縁部で、外反して端部に平坦面を持つものである。336は土師質土鍋の口縁部である。337~342、344~350は弥生土器である。337は鉢で、丸底を呈し、外面はハケ調整、内面にはヘラ磨きが部分的に見られる。Ⅵ様式の範疇で考えたい。338は前期の壺体部片で、1条の貼付突帯条に刻目が見られる。Ⅰ-④~⑤様式に位置づけられる。339も前期壺底部と考えられる。340・341は前期甕口縁部片である。340は5条のヘラ描き沈線を持ち、341は1条の沈線を持つ。342は後期の甕で、短く外反する口縁部を持ち、底部は限りなく丸底に近い平底である。Ⅵ-1様式頃と考えられる。343は須恵器杯蓋で、宝珠つまみ部分が欠損している。単品での評価は難しいが、天井部が平坦ではあるが、天井高が比較的高いことから平城宮土器Ⅲ頃、8世紀中葉と考えておく。344は壺口縁部で、直線的に開き、2条の貼付突帯及び口唇部に刻目が認められることから、Ⅲ-1様式に比定される。345は高杯の脚部である。「ハ」の字形に広がり円孔を持つ。Ⅴ-⑧様式頃カ。346は壺頸部で、5条の沈線と列点文が見られる。全体形状が不明であり年代は不詳である。347は壺底部で、胎土から前期と考えられる。348は甕口縁部で、口縁端部を上下に拡張し、退化した凹線文が見られる。Ⅳ~Ⅴの過渡期頃に位置づけられる。346の壺頸部も同様の時代カ。349は甕底部で、平底で外面にタタキ目が見られる。350は高杯脚部で、345とほぼ同時期の所産と考えられる。351は須恵器杯蓋片で、宝珠つまみ部分が欠損している。343と同時期と考えられる。352は須恵器杯底部である。353も須恵器杯で、直線的に外上方に広がる口縁部を有する点から9世紀の所産と考えている。354も須恵器杯で、353同様の形態と考えられる。355は須恵器皿で、高台部分から屈曲せずに水平方向にのびることから353同様の時期と考えられる。356は土師器杯で、底面には板目圧痕が見られる。357は焼締陶器で、産地は不明である。近代に位置づけられるものかもしれない。358は土師器小皿で、ヘラ切りの底面を持つ。359は肥前系陶器皿で、内野山窯系の銅緑釉皿と考えられる。蛇の目釉剥ぎが見られる。17世紀後半(末)~18世紀前半に比定される。360は肥前系磁器皿(青磁)の口縁部で、波佐見窯系と考えられる。18世紀後半カ。361は土師質の片口すり鉢で、口縁端部を厚く、丸く作っている。17世紀中葉前後の所産であろう。362は龍泉窯系青磁碗Ⅰ-4類の口縁部片と考えられ、

12世紀中頃～後半に位置づけられる。363は肥前系陶器（唐津）の刷毛目碗で、外面に波状刷毛目が見られる。18世紀前半に位置づけられる。364は施釉陶器の鉢で、見込みに複数の胎土目、底面には墨書が見られる。富田吉金窯産で、18世紀末～19世紀前半に位置づけられる。365・366は羽釜である。366には釣手が付いている。367・368は焙烙である。365～368は18世紀頃の年代が与えられる。369は火鉢で、波状文や菊花文が見られる。370は竈で内面刷毛目調整が施されている。371は土師質甕の口縁部である。372は土師質焙烙である。373は壺体部で、ヘラ描き沈線文と刺突文が見られる。弥生時代前期と考えられる。374は弥生時代後期の鉢で、くの字に外反する短い口縁部を有する。375はサヌカイト製の石鍬で、先端に研磨痕が見られる。376は石皿で、中央部が凹んでいる。377～381は不明鉄製品で時期も不明である。377はその形状から鋤先の可能性がある。382～397は石鍬である。398～403、405～407、408は二次調整のある剥片もしくは製品の破片であるが、器種は特定できない。404は磨製石斧である。406も部分的に研磨痕が見られる。409～412は、やや扁平な自然石であるが、投弾の可能性を考えている。413～417は砥石である。形状もさまざまであるが、一遺跡から出土する点数としては多い。時期は限定できない。

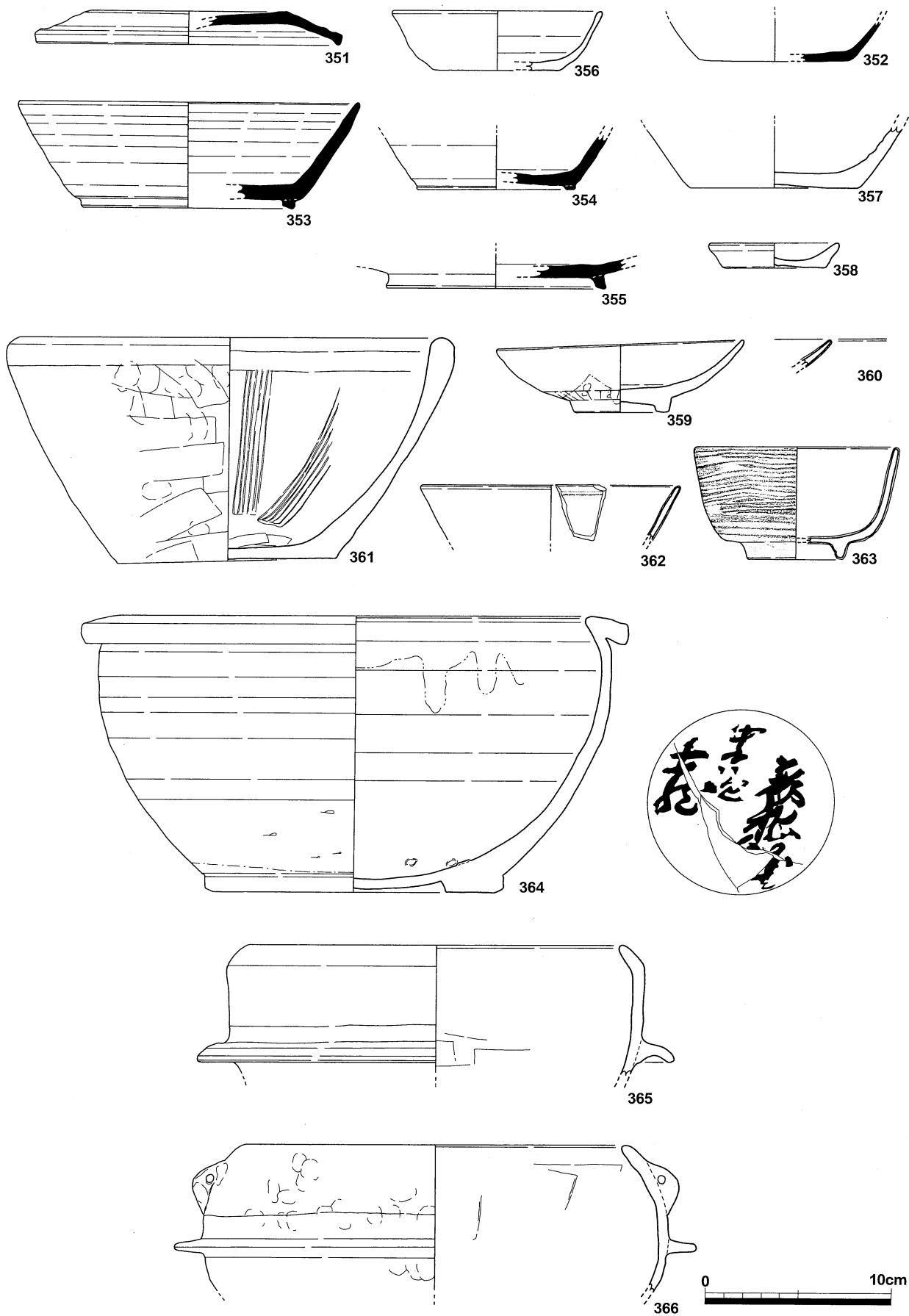
以上包含創出土資料中には、遺構が確認できていないものの、弥生時代前期・中期、奈良時代～平安時代の資料も含まれており、周辺にこれらの時期の移行の存在を推定させるものである。

片桐1992 片桐孝浩「第5章 考察 —古代から中世にかけての土器様相」『中小河川大東川改修工事（津ノ郷橋～弘光橋間）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 川津元結木遺跡』1992.1 香川県教育委員会・（財）香川県埋蔵文化財調査センター

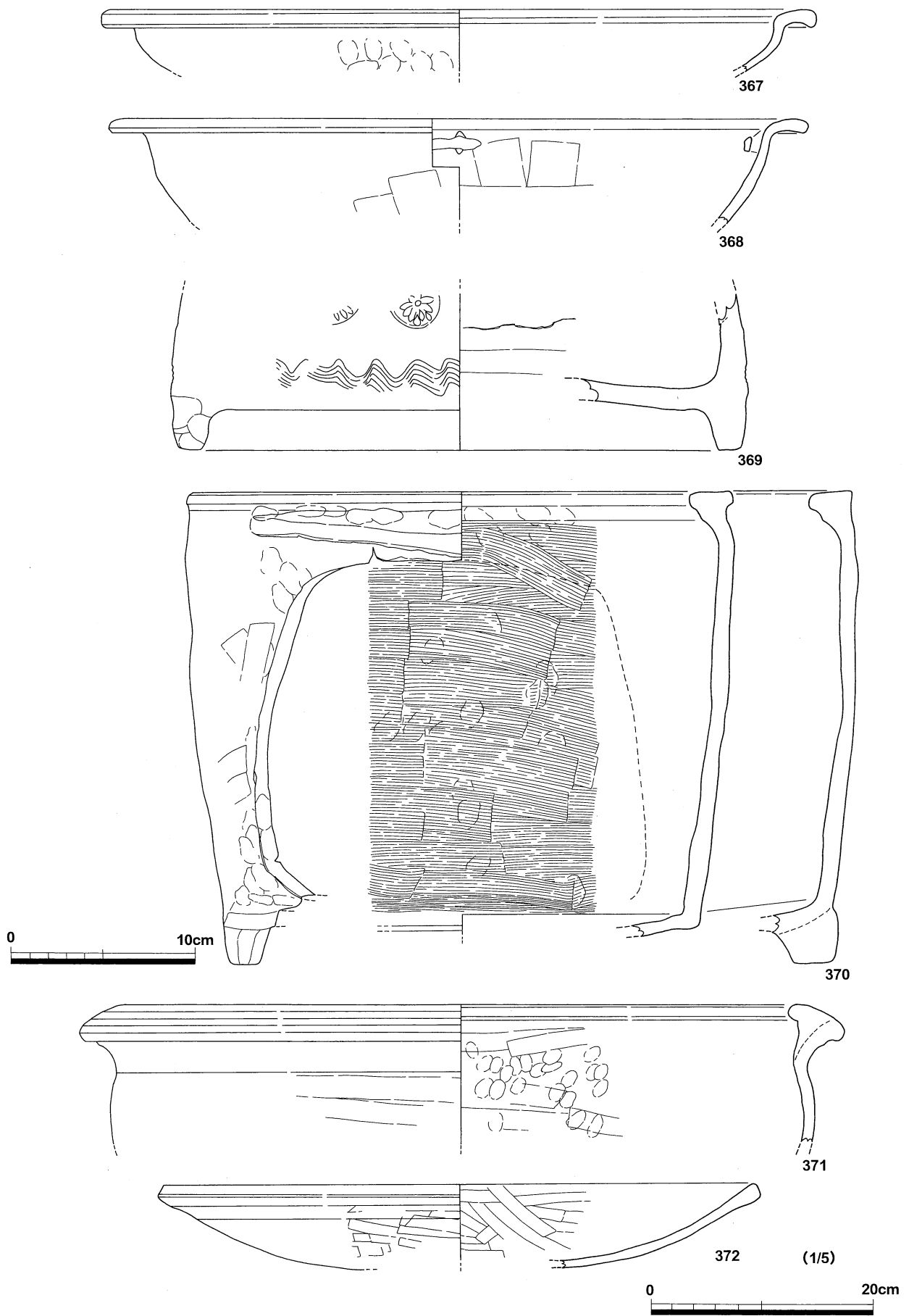
真鍋2000 真鍋昌宏「2 讃岐地域」『弥生土器の様式と編年 四国編』2000.3 木耳社



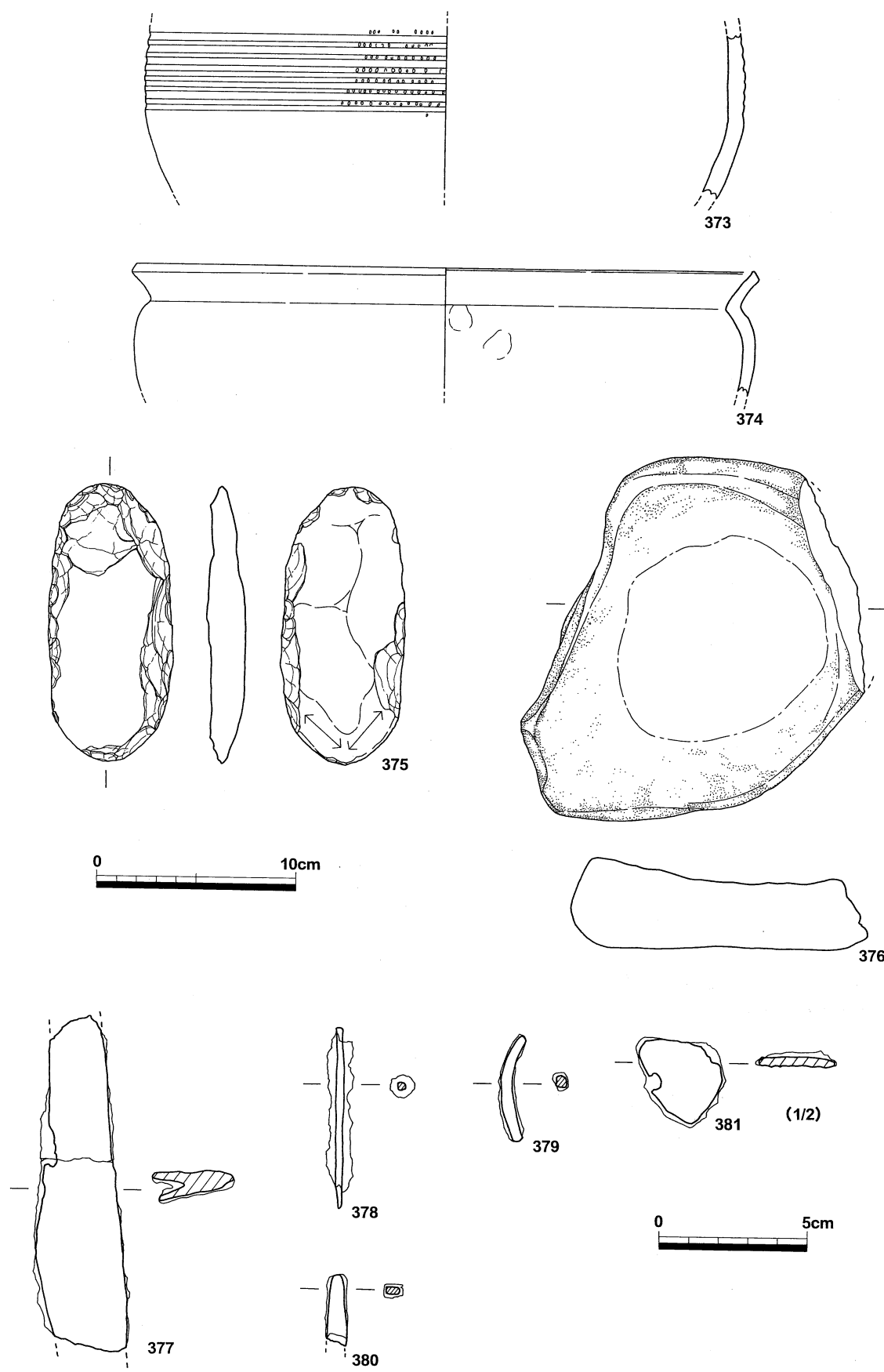
第87图 包含層出土遺物実測图② (1/3)



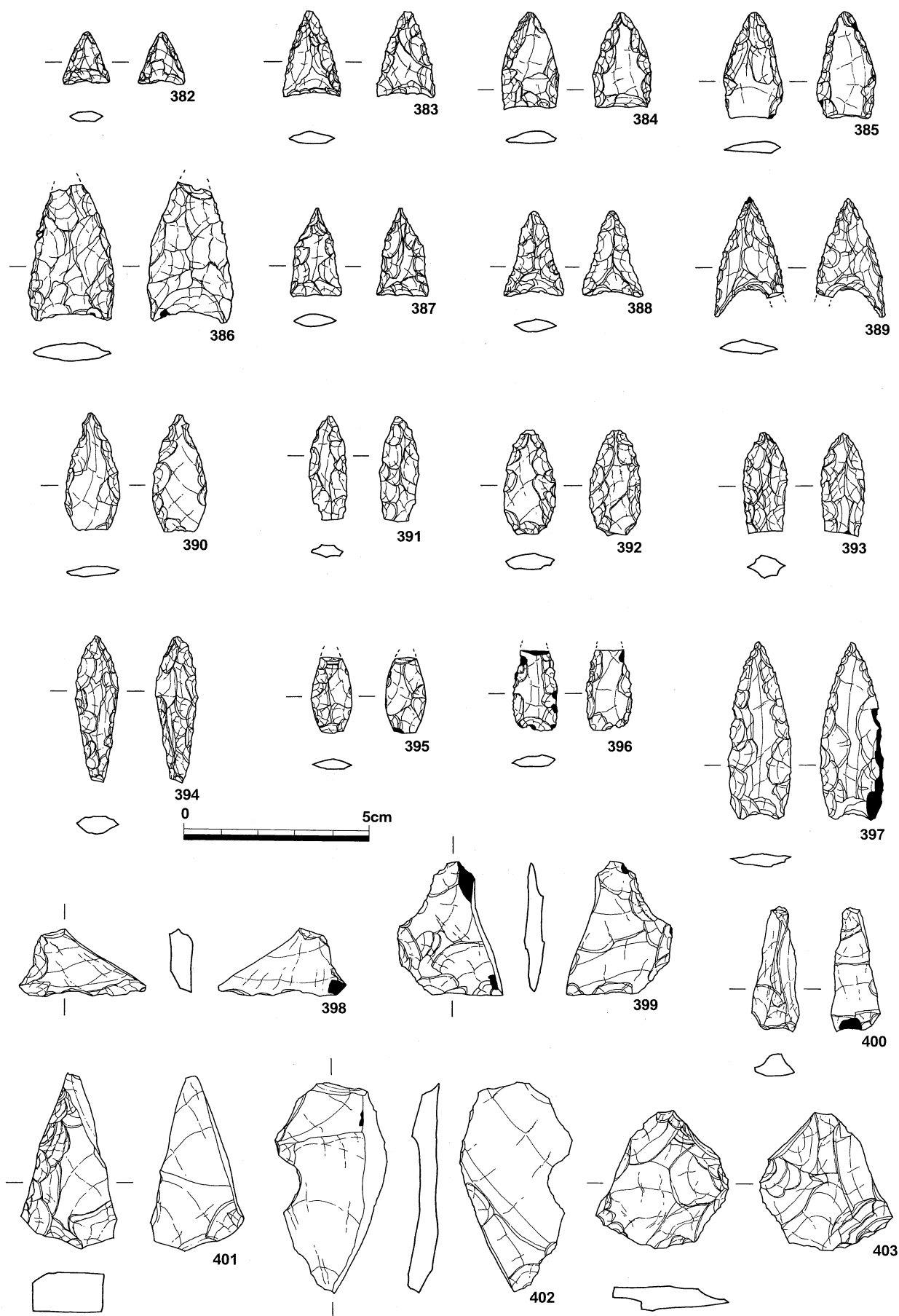
第88図 包含層出土遺物実測図③ (1/3)



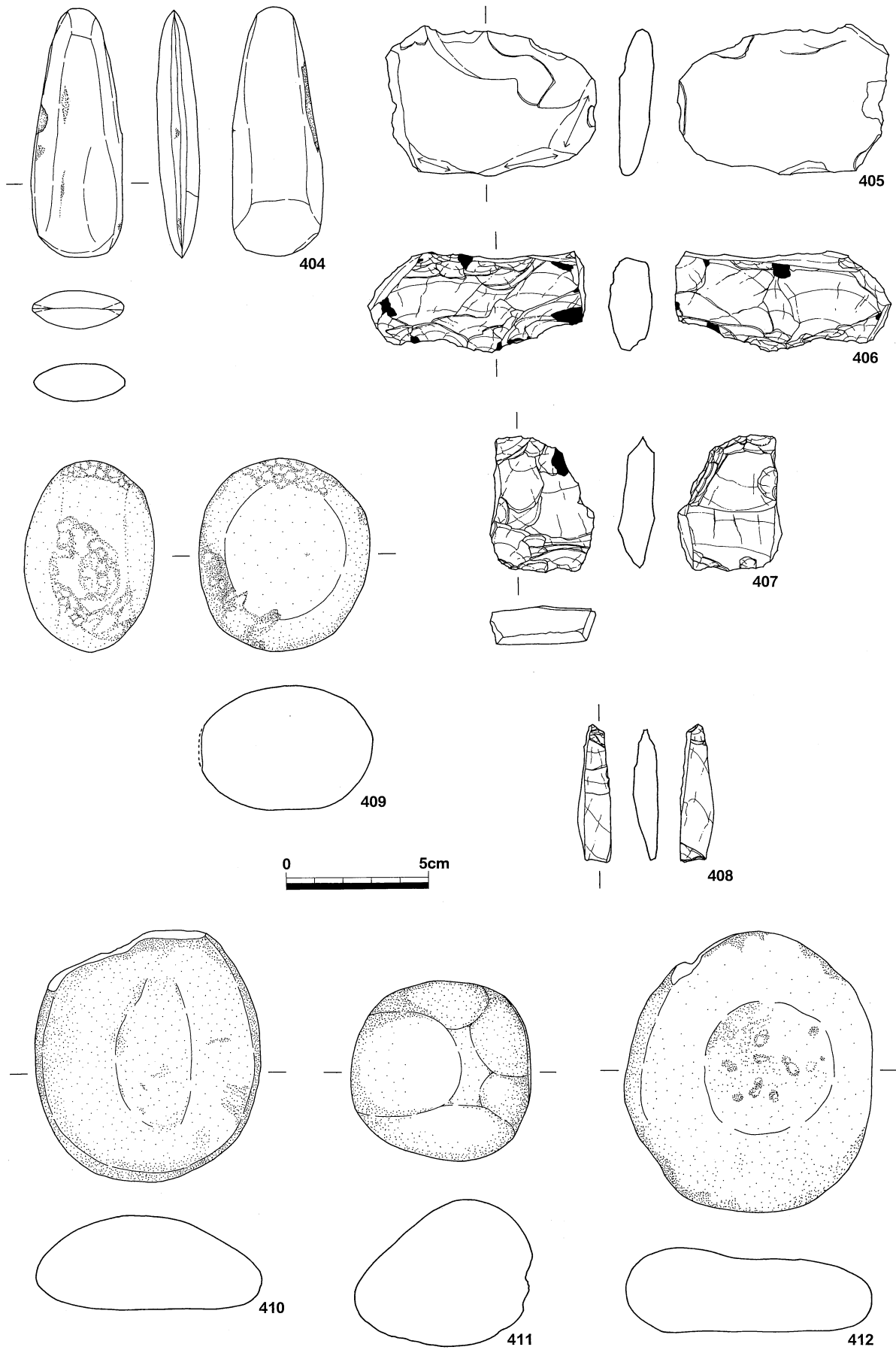
第89図 包含層出土遺物実測図④ (1/3)



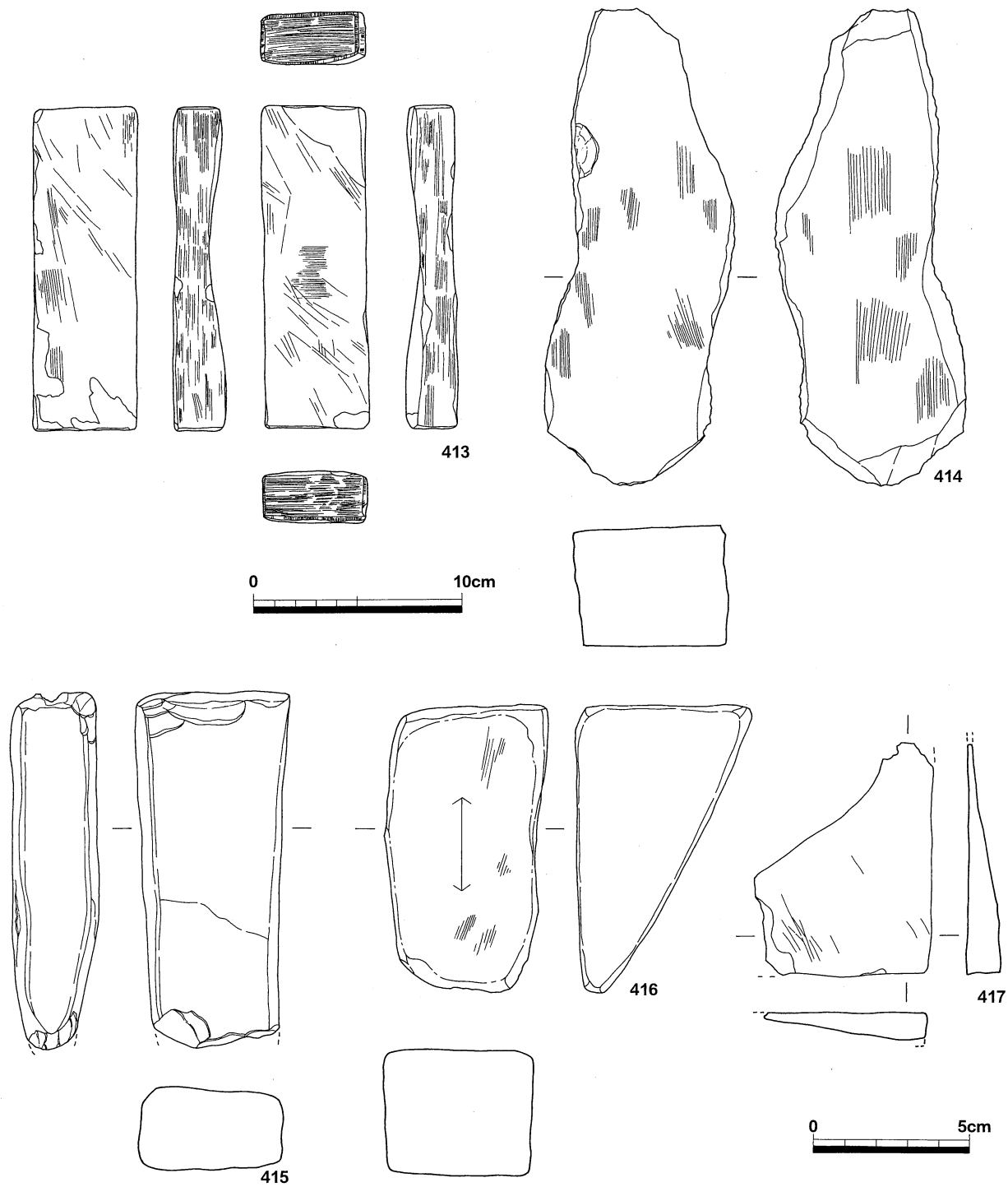
第90図 包含層出土遺物実測図⑤ (1/3)



第91图 包含層出土遺物実測図⑥ (1/3)



第92図 包含層出土遺物実測図⑦ (1/3)



第93図 包含層出土遺物実測図⑧ (1/3)

第4節 自然科学分析

香川県、山南遺跡における樹種同定

株式会社 古環境研究所

1. はじめに

木材は、セルロースを骨格とする木部細胞の集合体であり、解剖学的形質の特徴から概ね属レベルの同定が可能である。木材は花粉などの微化石と比較して移動性が少ないことから、比較的近隣の森林植生の推定が可能であり、遺跡から出土したものについては木材の利用状況や流通を探る手がかりとなる。

2. 試料

試料は、山南遺跡より出土した柱材4点である。

3. 方法

カミソリを用いて、試料の新鮮な基本的三断面（木材の横断面、放射断面、接線断面）を作製し、生物顕微鏡によって60～600倍で観察した。同定は解剖学的形質および現生標本との対比によって行った。

4. 結果

結果を第3表に示し、主要な分類群の顕微鏡写真を図版に示す。以下に同定の根拠となった特徴を記す。

第3表 樹種同定結果

No.	出土位置	種類	報文番号	結果 (和名/学名)
1	SB03	柱材	73	ヒノキ? <i>Chamaecyparis obtusa</i> Endl.?
2	SB15	柱材	76	スギ <i>Cryptomeria japonica</i> D.Don
3	SB09	柱材	75	ヒノキ <i>Chamaecyparis obtusa</i> Endl.
4	SB02	柱材	74	コウヤマキ <i>Sciadopitys verticillata</i> Sieb. et Zucc.

スギ *Cryptomeria japonica* D.Don スギ科

写真1

仮道管、樹脂細胞および放射柔細胞から構成される針葉樹材である。

横断面：早材から晩材への移行は比較的急で、晩材部の幅が広い。樹脂細胞が見られる。

放射断面：放射柔細胞の分野壁孔は典型的なスギ型で、1分野に2個存在するものがほとんどである。

接線断面：放射組織は単列の同性放射組織型で、1～15細胞高ぐらいである。樹脂細胞が存在する。

以上の形質よりスギに同定される。スギは本州、四国、九州、屋久島に分布する。日本特産の常緑高木で、高さ40m、径2mに達する。材は軽軟であるが強靱で、広く用いられる。

コウヤマキ *Sciadopitys verticillata* Sieb. et Zucc. コウヤマキ科

写真2

仮道管と放射柔細胞から構成される針葉樹材である。

横断面：早材から晩材への移行は比較的ゆるやかで、晩材部の幅は狭い。

放射断面：放射柔細胞の、分野壁孔は窓状である。

接線断面：放射組織は単列の同性放射組織型で、1～8細胞高ぐらいである。

以上の形質よりコウヤマキと同定される。コウヤマキは福島県以南の本州、四国、九州に分布する。日本特産の常緑高木で、通常高さ30m、径80cmに達する。材は木理通直、肌目緻密で強靱、耐朽、耐湿性も高い。特に耐水湿材として用いられる。

ヒノキ *Chamaecyparis obtusa* Endl. ヒノキ科

写真3

仮道管、樹脂細胞および放射柔細胞から構成される針葉樹材である。

横断面：早材から晩材への移行は比較的ゆるやかで、晩材部の幅は狭い。樹脂細胞が見られる。

放射断面：放射柔細胞の分野壁孔は、ヒノキ型で1分野に2個存在するものがほとんどである。

接線断面：放射組織は単列の同性放射組織型で、1～10細胞高ぐらいである。

以上の形質よりヒノキに同定される。なおNo 1 SB03 柱材 報73の試料は、保存状態が悪く、横断面、放射断面、接線断面共にヒノキの特徴を示すが、放射柔細胞の分野壁孔の型が不明瞭な為、ヒノキ?とした。

ヒノキは福島県以南の本州、四国、九州、屋久島に分布する。日本特産の常緑高木で、通常高さ40m、径1.5mに達する。材は木理通直、肌目緻密で強靱、耐朽、耐湿性も高い。良材であり、建築など広く用いられる。

5. 所見

同定の結果、山南遺跡出土の柱材はスギ、コウヤマキ、ヒノキ、ヒノキ?であった。いずれも針葉樹材であり、律令期以降は建築材として比較的良好に使われる材である。

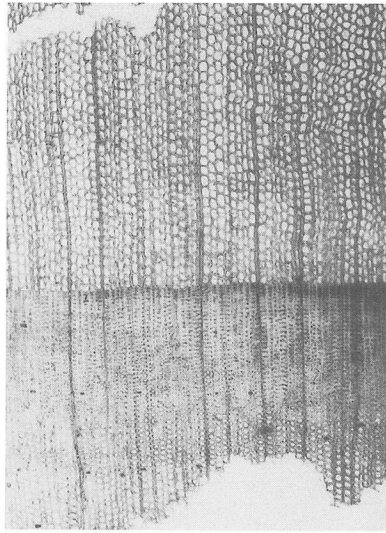
参考文献

佐伯浩・原田浩（1985）針葉樹材の細胞。木材の構造，文永堂出版，p.20-48.

佐伯浩・原田浩（1985）広葉樹材の細胞。木材の構造，文永堂出版，p.49-100.

島地謙・伊東隆夫（1988）日本の遺跡出土木製品総覧，雄山閣，296p.

山南遺跡の木材



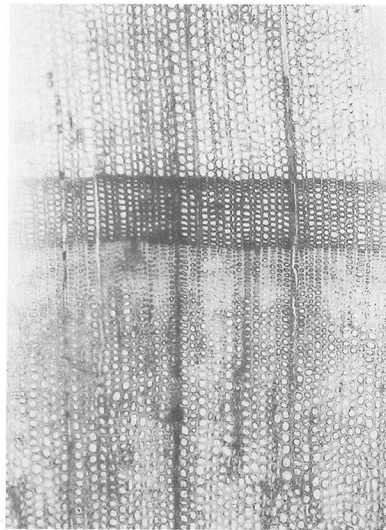
横断面 ————— : 0.5mm
1. 2 SB15 柱材 報76 スギ



放射断面 ————— : 0.05mm



接線断面 ————— : 0.2mm



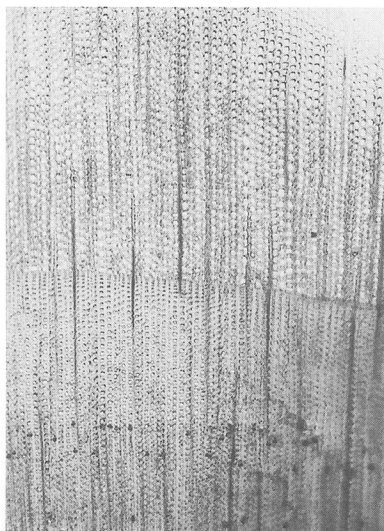
横断面 ————— : 0.5mm
2. 4 SB02 柱材 報74 コウヤマキ



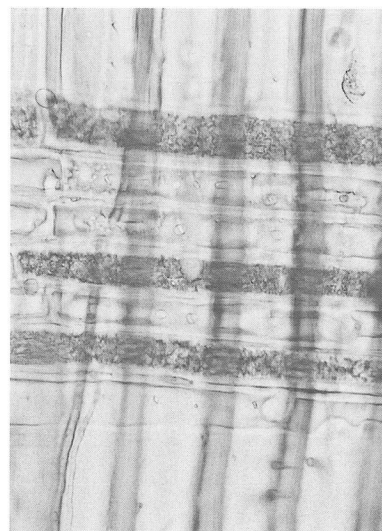
放射断面 ————— : 0.05mm



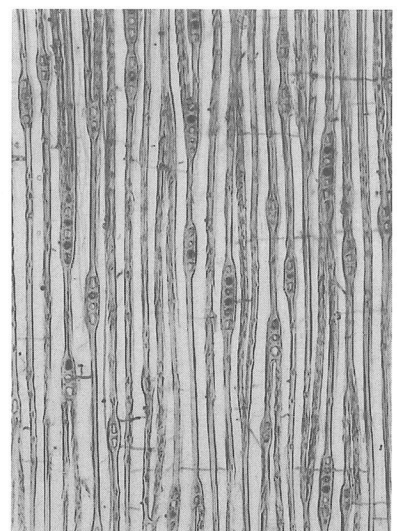
接線断面 ————— : 0.2mm



横断面 ————— : 0.5mm
3. 3 SB09 柱材 報75 ヒノキ



放射断面 ————— : 0.05mm



接線断面 ————— : 0.2mm

第4章 まとめ

山南遺跡の調査結果について、前章で遺構別に記述を行った。ここでは、同調査のまとめとして、遺跡の変遷について記述する。

当遺跡で最も古い遺物は、弥生時代前期の資料である。本調査区内では、この時期の明確な遺構を検出していないが、窪地にたまった土層中から出土している土器など、ほぼ単一時期の所産と考えてよい。第94図のように、本調査区の南側で善通寺市教育委員会が実施した調査では、同時期の土坑から壺が検出されており、この時期の遺跡が周辺に広がるのが想定されるが、本報告での遺構変遷時期では除外しておく。

今回調査で確認された遺構群は、全体でⅠ～Ⅳ期に区分される。以下、各時期について概説する。
(第95～98図)

Ⅰ期（弥生時代後期）

本調査区内で確認された遺構は溝状遺構のみである。溝状遺構は、調査区東辺を南北に延び調査区南部でやや湾曲するもののほぼ直線的に延びており、機能や性格は不明である。先に触れた善通寺市教育委員会調査区では、竪穴住居跡1棟（4.4m×4.7m、隅丸方形）が検出されており、この時期の集落の中心部が善通寺市教育委員会調査区及びその西・南側に想定される。

時期は、出土資料から弥生時代後期後半頃を中心とするが、やや前後する時期の資料も見られ、いくつかの小期が設定できるかもしれない。

Ⅱ期（古代）

古墳時代の溝状遺構が調査区西辺で確認されたこと、SX01から管玉が出土していることがあげられる。検出遺構数や出土遺物が少ないことから、集落跡の周辺とは考え難い。

また、遺構は検出されていないものの、これに後出する奈良時代～平安時代と推定される資料も出土しており、いくつかの小期が考えられることのほか、今後周辺でこの時期の遺跡が確認される可能性がある。

Ⅲ期（中世）

調査区全域で掘立柱建物跡や溝状遺構などが確認された。東辺の溝状遺構を除き、ほぼこの地域の地割に平行する形で集落が形成されている。建物の切り合い関係から数時期に区分され、出土遺物から4つの小期を設定することができる。以下、この小期により掘立柱建物跡の変遷を記す。

Ⅲ-1期（12世紀中葉～後半）

SB01・02及びSA01とSD25・26・30が当該期に位置づけられる。SB01からは遺物が出土していないが、SA01がSB02と共用されると考え、同時併存していたとしている。出土遺物からこの時期に考えているSD25・26・30は、主軸方向がN-32°-Wであり、丸亀平野の条里型地割に近い方向を示すが、SB01・02はN-13°-16°-Wと、まったく異なる方向性を持つ。この掘立柱建物跡の方向は、山南遺跡の掘立柱建物跡に共通するもので、古代～中世の過渡期にこの地域では条里型地割を基準とする土地区画が崩れたものと考えられる。

ただし、あくまでも埋土中遺物を前提としているため、掘立柱建物跡と溝状遺構が同時に併存していたかどうかは厳密には不明であり、条里型地割が先行するものと考えた場合、SD25・26・30の廃絶がこの時期で、SB01・02がこの時期に建てられたと考える考え方もある。

なお、SD23では出土遺物は無いが、次の段階に位置づけられているSD24に先行することから当該期に位置づけると考えている。このことは、先に述べたSD25・26・30の方向と矛盾しない。

Ⅲ－２期（13世紀前半～中葉）

SB04・08とSD24が当該期に位置づけられる。また、SB10は出土遺物がないが、配置からこの時期に該当するのではないかと考えている。この3棟の内、SB08が庇を持ち基底石や根石が用いられたしっかりした建物であり、この時期の中心建物と考えられる。SD24は、前段階の溝状遺構の方位にほぼ近い値を持つことから、前段階から機能していたことも想定されるが、確証が無い。

Ⅲ－３期（13世紀後半）

SB03・07・13・14とSD02・03・04・06・15・32、SE03が当該期に位置づけられる。また、SB12は出土遺物がないが、配置からこの時期に該当するのではないかと考えている。

建物跡は、北側に南北を主軸とする2棟、南側に東西を主軸とする3棟に分かれ、母屋はSB13と考えられる。北側のSB03・07の内、SB07は総柱の建物で蔵としての機能を持つとすれば、北側の一群と南側の一群の間に井戸も見られ、南北に長い屋敷地を想定することもできる。西辺はSD02・03・04により画されているが、東辺に溝が見られず、調査区東側に存在する小規模な河岸段丘による地形的な要因であると考えられる。

Ⅲ－４期（14世紀中葉～後半）

SB05・09・10・15とSD31、SK20が当該期に位置づけられる。また、SB06は出土遺物がないが、隣接するSB05との位置関係からこの時期に該当するのではないかと考えている。

建物跡は、前段階同様南北に分かれるが、母屋は北側のSB09になり、南側のSB15は総柱で蔵としての機能が考えられるが、庇もしくは縁を持つなど否定的な問題も残す。

SD31は、掘立柱建物跡と異なる方向性を持つが、先に触れた河岸段丘との関係から、これと平行する方向で掘削された可能性が高い。

なお、掘立柱建物跡の内、SB09・10・15の3棟は14世紀前半の遺物も含むため、14世紀前半が空白期になることは無いと考えている。

SK20は、前章でも触れたように、墓としての可能性を考えており、明確な屋敷地を復元することはできないが、屋敷墓の可能性が高いと考えられる。

なお、柱穴や建物周辺の溝状遺構の出土遺物からは、16世紀代に位置づけられる遺構は見られず、この段階で集落が廃絶し、新たな選地が行われたものと考えられる。今後、この時期の土器編年等が確立し、先にも述べたように、建物を復元できない数多くの柱穴の解釈が可能となれば、より集落の変遷が明らかになる。

Ⅳ期（近世以降）

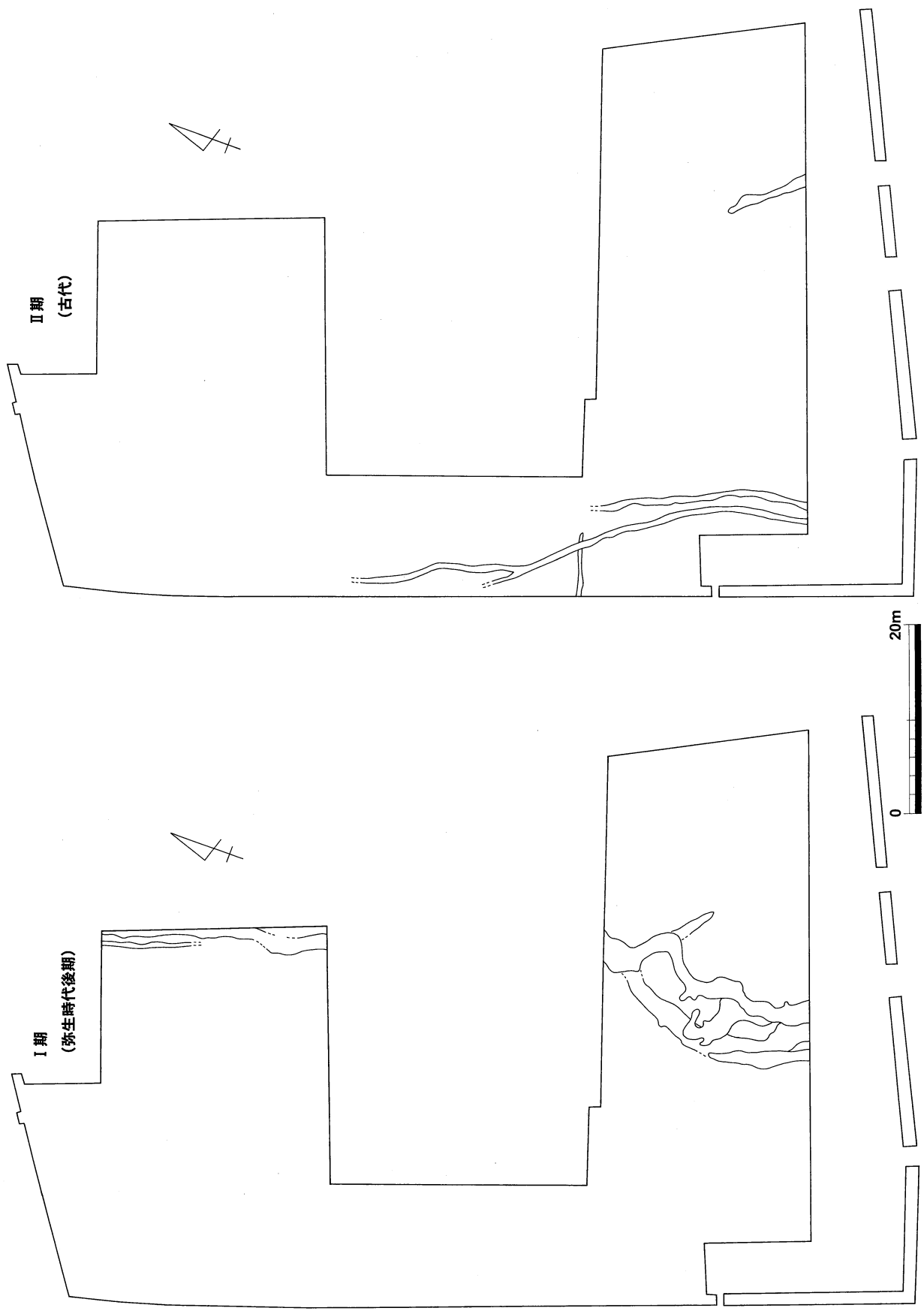
近世以降に位置づけられる遺構は、大半が土坑で、検出状態も散発的である。この段階では、現状の田畑として機能した土地であると判断できる。

出土遺物からは、18世紀代以降に形成された遺構が多い。

以上のように、山南遺跡は今回の調査や善通寺市教育委員会調査によって、遺跡の一端が明らかになった。弥生時代前期を含めると5期にわたる複合遺跡であり、本調査区の周辺を含めて数期の集落が展開する可能性が高い。ただし、河岸段丘の存在から、その多くは本調査区の南側に広がることが想定される。



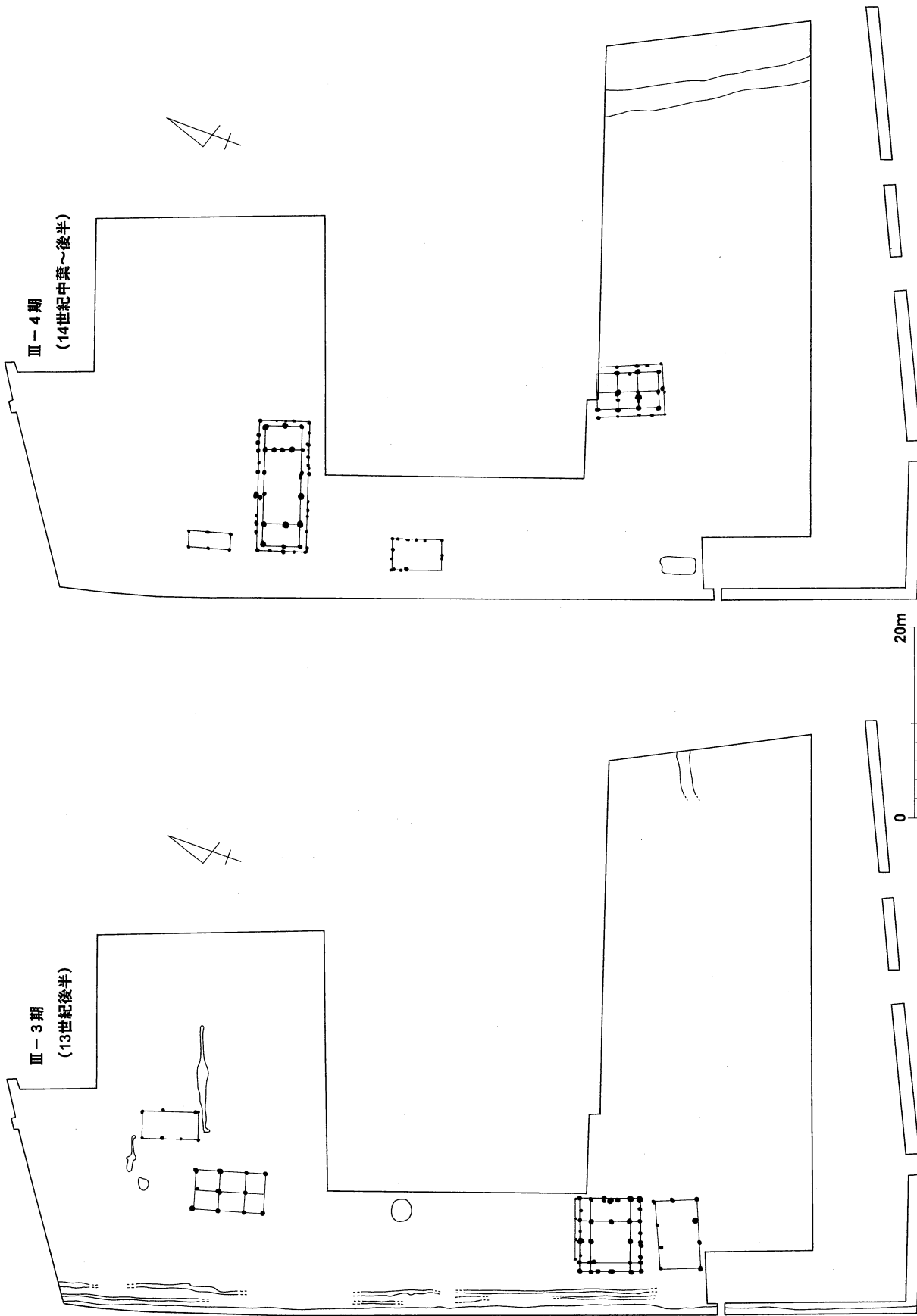
第94図 調査区全体図



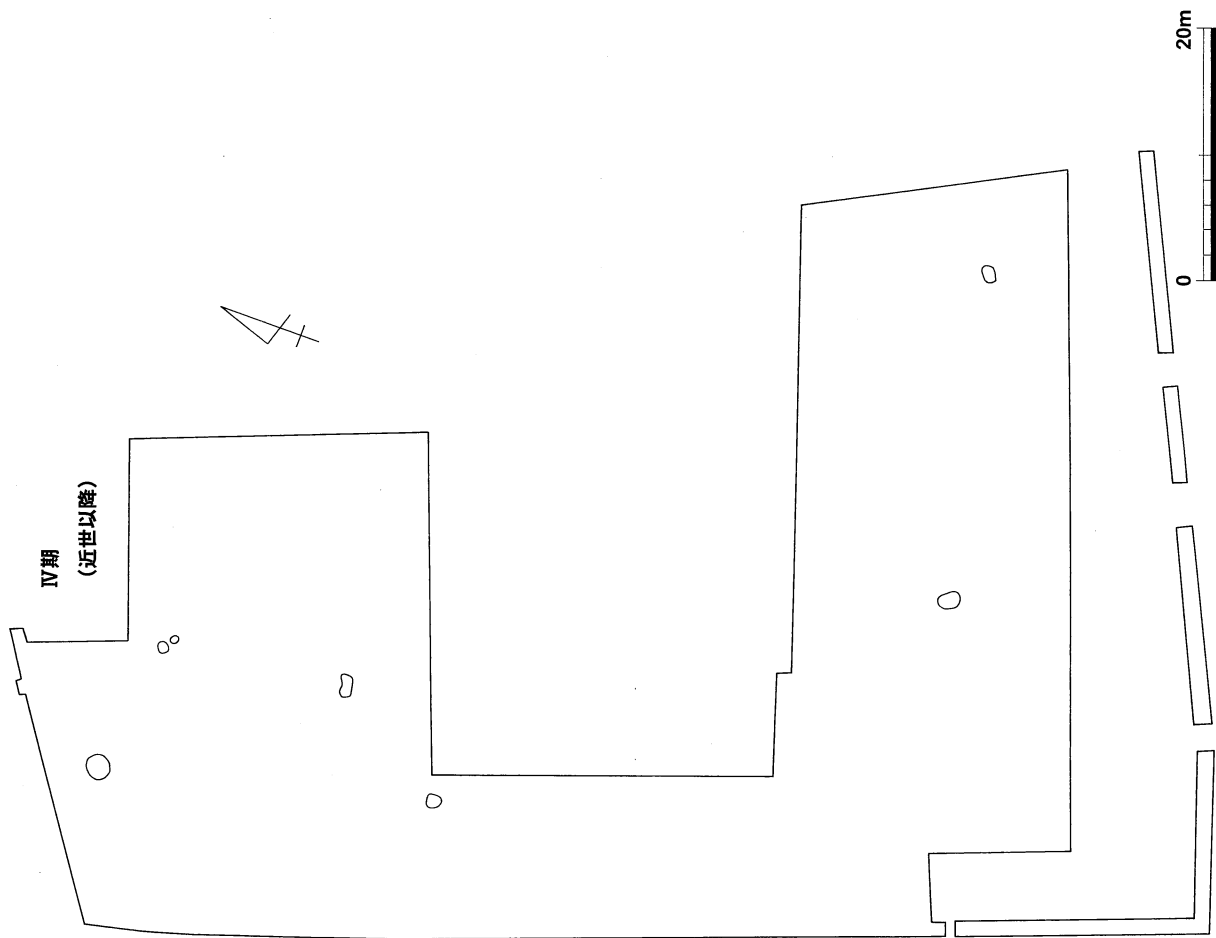
第95図 遺構変遷図① (1/600)



第96図 遺構変遷図② (1/600)



第97図 遺構変遷図③ (1/600)



第98図 遺構変遷図④ (1/600)

山南遺跡 観察表

第4表 土器観察表

報文No.	挿図No.	新遺構名	旧遺構名	器種	口径	器高	底径	外面調整	内面調整	残存率
1	9	SB01	II区SP288 (SB05) 第1遺構面	弥生土器 甕	8.0		6.2	摩滅、ヘラミガキ	摩滅	底部1/8
2	9	SB01	II区SP298第1遺構面	土師器 杯				ナデ	ナデ	口縁部1/8
3	11	SB02	II区SP457 (SB09) 第1遺構面	土師器 杯	10.2	2.9	7.6	ナデ、板目圧痕、摩滅	ナデ、摩滅	6/8
4	11	SB02	II区SP460 (SB09) 第1遺構面	土師器 土釜				指押さえ、板ナデ		胴1本
5	11	SB02	II区SP364 (SB09) 第1遺構面	東播系 乙ね鉢				ナデ		口縁部1/8
6	11	SB02	II区SP364 (SB09) 第1遺構面	土師器 小皿	7.4	1.2	6.2	ナデ、ヘラ切り後ナデ?	ナデ	3/8
7	11	SB02	II区SP364 (SB09) 第1遺構面	土師器 小皿	6.4	1.1	4.7	ナデ、摩滅	ナデ	1/8
8	11	SB02	II区SP364 (SB09) 第1遺構面	土師器 杯	8.4	1.4	6.6	ナデ	ナデ	底部1/8
9	11	SB02	II区SP364 (SB09) 第1遺構面	土師器 小皿	7.6	1.7	6.5	ナデ、糸切り、板目圧痕	ナデ	3/8
10	11	SB02	II区SP364 (SB09) 第1遺構面	土師器 小皿	11.1	2.8	6.2	ナデ、ヘラ切り	ナデ	4/8
11	11	SB02	II区SP364 (SB09) 第1遺構面	土師器 土鍋	29.8			横ナデ、板ナデ	板ナデ	1/8
12	11	SB02	II区SP465 (SB09) 第1遺構面	土師器 土器				指押さえ	横ナデ、板ナデ	口縁部1/8
13	11	SB02	II区SP465 (SB09) 第1遺構面	土師器 土器				指押さえ	ナデ	口縁部1/8
14	11	SB02	II区SP465 (SB09) 第1遺構面	土師器 小皿	7.9	1.3	6.0	ナデ	ナデ	6/8
15	11	SB02	II区SP465 (SB09) 第1遺構面	土師器 小皿	7.3	1.8	6.2	ナデ、ヘラ切り	ナデ	口縁部1/8
16	11	SB02	II区SP465 (SB09) 第1遺構面	土師器 小皿	7.9	1.5	5.8	ナデ、ヘラ切り	ナデ	口縁部1/8
17	11	SB02	II区SP465 (SB09) 第1遺構面	土師器 小皿	10.0	2.7	6.0	ナデ、摩滅	ナデ	口縁部2/8
18	12	SB03	II区SP582 (SB14) 仮SB16第1遺構面	土師器 杯	10.4			ナデ	ナデ、摩滅	口縁部2/8
19	12	SB03	II区SP582 (SB14) 仮SB16第1遺構面	土師器 杯	11.4	3.1	8.4	ナデ、糸切り後ナデ、板目状圧痕	ナデ	3/8
20	12	SB03	II区SP516 (SB14) 仮SB16第1遺構面	土師器 杯	11.1	3.0	5.7	ナデ、糸切り後ナデ	ナデ	6/8
21	12	SB03	II区SP516 (SB14) 仮SB16第1遺構面	土師器 杯	11.3	3.0	7.0	ナデ、ヘラ切り	ナデ	口縁部1/8
22	12	SB03	II区SP517第1遺構面	土師器 杯	11.9			ナデ	ナデ	口縁部7/8
23	12	SB03	II区SP517第1遺構面	土師器 杯				ナデ	ナデ	口縁部1/8
24	13	SB04	II区SP523 (SB14) 仮SB16第1遺構面	土師器 杯	10.9	2.8	7.2	ナデ、糸切り、板目圧痕	ナデ	底部2/8
25	13	SB04	II区SP523 (SB14) 仮SB16第1遺構面	土師器 杯	11.8	2.7	7.4	ナデ、糸切り後ナデ、板目圧痕	ナデ	3/8
26	13	SB04	II区SP523 (SB14) 仮SB16第1遺構面	土師器 杯	11.8	3.2	9.0	ナデ、糸切り	ナデ	2/8
27	13	SB04	II区SP523 (SB14) 仮SB16第1遺構面	土師器 杯	13.0	3.1	8.0	ナデ、糸切り	ナデ	1/8
28	13	SB04	II区SP466 (SB11) 第1遺構面	土師器 杯	10.6	3.5	9.0	ナデ、摩滅、ヘラ切り	ナデ、摩滅	2/8
29	14	SB05	II区SP215 (SB04) 第1遺構面	土師器 杯				ナデ、糸切り	ナデ	底部1/8
30	14	SB05	II区SP215 (SB04) 第1遺構面	須置器 甕				ナデ、板目圧痕	ナデ	口縁部1/8
31	14	SB05	II区SP226 (SB04) 第1遺構面	土師器 杯				ナデ、自然釉付着	ナデ	口縁部1/8
32	14	SB05	II区SP226 (SB04) 第1遺構面	土師器 杯				ナデ、糸切り	ナデ	底部1/8
33	15	SB06	II区SP251 (SB03) 第1遺構面	土師器 杯	10.8		6.0	ナデ	ナデ	口縁部1/8
34	17	SB07	II区SP356 (SB07) 第1遺構面	土師器 土器				ナデ	ナデ	底部2/8
35	17	SB07	II区SP356 (SB07) 第1遺構面	土師器 土器				ナデ	ナデ	胴1本6/8
36	17	SB07	II区SP356 (SB07) 第1遺構面	土師器 土器	7.2	1.3	6.0	ナデ、摩滅	ナデ	1/8
37	17	SB07	II区SP354 (SB07) 第1遺構面	土師器 土器				ナデ、ヘラ切り	ナデ	4/8
38	17	SB07	II区SP354 (SB07) 第1遺構面	土師器 土器	36.2			ナデ、指押さえ後ナデ	ナデ	口縁部1/8
39	17	SB07	II区SP323 (SB07) 第1遺構面	土師器 杯	10.5	2.3	6.0	ナデ、ヘラ切り	ナデ	2/8
40	17	SB07	II区SP323 (SB07) 第1遺構面	土師器 小皿	7.0	1.7	5.6	ナデ、糸切り	ナデ	3/8
41	17	SB07	II区SP325 (SB07) 第1遺構面	土師器 小皿	10.2	3.2	7.0	ナデ、糸切り	ナデ	1/8
42	17	SB07	II区SP325 (SB07) 第1遺構面	土師器 小皿	7.4	1.4	5.8	ナデ、静止ヘラ切り	ナデ	口縁部8/8
43	17	SB07	II区SP200 (SB07) 第1遺構面	土師器 杯	10.5	3.5	7.6	ナデ、摩滅、糸切り	ナデ	1/8
44	17	SB07	II区SP341 (SB07) 第1遺構面	土師器 杯	9.8	3.4	7.0	ナデ、糸切り	ナデ	2/8
45	17	SB07	II区SP331 (SB07) 第1遺構面	土師器 小皿	7.4	1.2	6.0	ナデ、糸切り、板目圧痕	ナデ	4/8
46	17	SB07	II区SP331 (SB07) 第1遺構面	土師器 杯	10.8	2.8	6.6	ナデ、糸切り	ナデ	5/8
47	17	SB07	II区SP331 (SB07) 第1遺構面	土師器 杯	7.1	1.4	5.9	ナデ、糸切り	ナデ	3/8
48	19	SB08	II区SP675 (SB15) 仮SB17第1遺構面	東播系 乙ね鉢	27.2			ナデ、重ね焼き痕	ナデ	7/8
49	19	SB08	II区SP660 (SB15) 仮SB17第1遺構面	東播系 乙ね鉢	24.0			ナデ	ナデ	口縁部1/8
50	19	SB08	II区SP677 (SB15) 仮SB17第1遺構面	土師器 小皿	7.0	1.2	5.8	ナデ、摩滅、糸切り	ナデ	口縁部1/8
51	20	SB09	II区SP142 (SB06) 第1遺構面	土師器 杯	11.6			ナデ	ナデ	2/8
52	20	SB09	II区SP390 (SB06) 第1遺構面	土師器 杯	11.1	2.5	5.8	ナデ、ヘラ切り、板目圧痕	ナデ	1/8
53	20	SB09	II区SP337第1遺構面	土師器 小皿	6.3	0.8	5.0	ナデ、後施釉	ナデ	底部1/8
54	20	SB09	II区SP648 (SB06) 第1遺構面	土師器 杯	12.0			ナデ	ナデ	口縁部1/8
55	20	SB09	II区SP648 (SB06) 第1遺構面	土師器 杯				ナデ	ナデ	底部1/8
56	20	SB09	II区SP648 (SB06) 第1遺構面	土師器 杯				ナデ	ナデ	1/8
57	20	SB09	II区SP396 (SB06) 第1遺構面	土師器 杯	8.7	2.3	5.0	ナデ、板目圧痕	ナデ	4/8
58	22	SB11	II区SP107 (SB10) 第1遺構面	土師器 小皿	7.1	1.4	5.9	ナデ、ヘラ切り	ナデ	口縁部6/8
61	24	SB13	I区SP089 (SB01)	土師器 杯	11.1	3.9	7.6	ナデ、ヘラ切り	ナデ	1/8
62	24	SB13	I区SP075 (SB01)	土師器 杯	10.2	2.9	7.4	ナデ	ナデ	口縁部1/8
63	25	SB14	I区SP097	土師器 杯				6.2ナデ、板目圧痕	ナデ	底部8/8
64	26	SB15	I区SP193	土師器 杯				5.7ナデ、ヘラ切り後板目圧痕	ナデ	底部8/8
65	26	SB15	I区SP193	土師器 杯					ナデ	底部8/8

新選構名	旧選構名	器種	口径	器高	底径	外面調整	内面調整	残存率
66	I区SP193	東播系 土師器 小皿	22.6	7.4	1.3	ナデ	ナデ	口縁部1/8
70	I区SP190	土師器 杯	9.7			ナデ	ナデ	口縁部1/8
71	I区SP190	土師器 杯	9.7			ナデ	ナデ	口縁部1/8
72	II区SA02	土師器 杯	9.6	3.3	7.2	ナデ	ナデ	2/8
78	II区SA02	土師器 杯	10.8	3.5	7.0	ナデ	ナデ	2/8
79	II区SP773第2遺構面	弥生土器 壺				ナデ	ナデ	1/8
80	II区SP666第1遺構面	土師器 杯	9.6	3.1	6.5	ナデ	ナデ	口縁部1/8
81	II区SP660第1遺構面	土師器 土釜	25.2			ナデ	ナデ	口縁部1/8
82	II区SP526第1遺構面	土師器 杯	14.1			ナデ	ナデ	口縁部1/8
83	II区SP586第1遺構面	土師器 小皿	7.0	1.3	5.3	ナデ	ナデ	底部2/8
84	II区SP530第1遺構面	土師器 杯				ナデ	ナデ	2/8
86	II区SP474 (SB15) 仮SB17第1遺構面	土師器 杯	10.2	3.1	7.2	ナデ	ナデ	2/8
87	II区SP123	土師器 杯	10.6	3.1	7.6	ナデ	ナデ	口縁部1/8
88	II区SP515第1遺構面	龍泉系 土師器 杯				ナデ	ナデ	2/8
89	II区SP515第1遺構面	土師器 杯	9.8	2.8	7.0	ナデ	ナデ	口縁部1/8
90	II区SP361 (SB08) 第1遺構面	土師器 杯	10.2	3.4	8.0	ナデ	ナデ	2/8
91	II区SP374第1遺構面	土師器 杯	12.4			ナデ	ナデ	口縁部1/8
92	II区SP334第1遺構面	須恵器 林蓋				ナデ	ナデ	口縁部1/8
93	II区SP456	土師器 杯			8.4	ナデ	ナデ	2/8
94	II区SP503	土師器 杯				ナデ	ナデ	2/8
95	II区SP505	土師器 杯				ナデ	ナデ	2/8
96	II区SP529	土師器 杯				ナデ	ナデ	底部2/8
97	II区SP560	土師器 杯				ナデ	ナデ	底部2/8
99	II区SP776	土師器 小皿	6.6	1.4	5.2	ナデ	ナデ	2/8
100	I区SP100	須恵器 林蓋	14.6			ナデ	ナデ	口縁部1/8
101	I区SP100	土師器 小皿	7.0	1.1	6.0	ナデ	ナデ	1/8
102	I区SP227	土師器 小皿	7.6	1.1	6.0	ナデ	ナデ	底部8/8
103	I区SP123	土師器 杯				ナデ	ナデ	1/8
104	I区SP227	土師器 杯	10.9	2.7	7.0	ナデ	ナデ	1/8
105	I区SP216	土師器 杯			8.8	ナデ	ナデ	2/8
108	II区SD02	土師器 土釜	21.0			ナデ	ナデ	1/8
109	II区SD02	土師器 土釜	21.8			ナデ	ナデ	2/8
110	II区SD02	土師器 土釜	22.0			ナデ	ナデ	口縁部4/8
111	II区SD02	土師器 土釜	27.3			ナデ	ナデ	1/8
112	II区SD02	土師器 土釜				ナデ	ナデ	口縁部2/8
113	II区SD02	土師器 土釜	13.0			ナデ	ナデ	口縁部1/8
114	II区SD02	土師器 土釜				ナデ	ナデ	口縁部1/8
115	II区SD02	土師器 土釜				ナデ	ナデ	口縁部1/8
116	II区SD02	土師器 土釜	16.4			ナデ	ナデ	口縁部1/8
117	II区SD02	土師器 土釜	26.2			ナデ	ナデ	口縁部1/8
118	II区SD02	土師器 土釜	30.4			ナデ	ナデ	口縁部1/8
119	II区SD02	土師器 土釜				ナデ	ナデ	2/8
121	II区SD03	土師器 土釜	22.9			ナデ	ナデ	底部1/8
122	II区SD03	土師器 土釜	6.6	1.3	5.6	ナデ	ナデ	口縁部1/8
124	II区SD09	土師器 小皿				ナデ	ナデ	1/8
125	II区SD15	土師器 小皿				ナデ	ナデ	口縁部1/8
129	II区SD19	土師器 土釜	27.6			ナデ	ナデ	口縁部6/8
134	II区SD24	土師器 土釜	36.0			ナデ	ナデ	口縁部1/8
135	II区SD24	土師器 土釜	36.0			ナデ	ナデ	口縁部1/8
136	II区SD24	土師器 土釜	36.0			ナデ	ナデ	口縁部1/8
137	II区SD24	土師器 土釜	36.0	8.9		ナデ	ナデ	口縁部1/8
138	II区SD24	土師器 小皿			5.4	ナデ	ナデ	底部6/8
139	II区SD24	土師器 小皿			5.0	ナデ	ナデ	底部8/8
140	II区SD24	土師器 小皿			5.0	ナデ	ナデ	底部8/8
141	II区SD24	土師器 小皿			8.4	ナデ	ナデ	底部1/8
142	II区SD24	土師器 小皿			8.4	ナデ	ナデ	3/8
143	II区SD24	土師器 小皿	10.8	2.6	8.0	ナデ	ナデ	4/8
144	II区SD24	土師器 小皿	11.8	2.8	9.2	ナデ	ナデ	口縁部4/8
145	II区SD24	土師器 小皿	13.1	3.3	7.9	ナデ	ナデ	5/8
146	II区SD24	土師器 小皿	11.4	3.5	5.0	ナデ	ナデ	底部3/8
147	II区SD24	土師器 小皿			6.3	ナデ	ナデ	底部7/8
148	II区SD24	土師器 小皿			6.4	ナデ	ナデ	底部1/8
149	II区SD24	土師器 小皿			5.1	ナデ	ナデ	底部6/8

報文No.	挿入No.	新選構名	日選構名	器種	口径	器高	底径	外面調整	内面調整	残存率
150	39	SD24	II区SD01第一遺構面	須臾器 高台			8.3	ハラケズリ、ナデ	ナデ	底部1/8
151	39	SD24	II区SD01第一遺構面	須臾器 青磁 椀	14.9		6.3	施釉、削り出し高台	施釉	2/8
152	39	SD24	II区SD01第一遺構面上層	土師器 椀				ナデ	ナデ	口縁部1/8
153	39	SD24	II区SD01第一遺構面上層	須臾器 (底部) 壺			9.0	ナデ、ハラケズリ、ハラ切り、板目圧痕	ナデ	底部5/8
154	39	SD24	II区SD01第一遺構面上層	十瓶山窯 壺			8.7	ナデ、糸切り、自然釉付着	板ナデ	底部4/8
155	39	SD24	II区SD01第一遺構面上層	瓦質土器 壺			10.0	ナデ後指押さえ、ハラ切り	板ナデ	底部7/8
156	39	SD24	II区SD01第一遺構面上層	瓦質土器 壺	24.4	10.9	12.9	指押さえ、ハラケズリ	板ナデ	1/8
157	39	SD24	II区SD01第一遺構面	土師質土器 土釜				指押さえ、ナデ	板ナデ	脚1本5/8
158	39	SD24	II区SD01第一遺構面	土師質土器 土釜				指押さえ	指押さえ	脚1本6/8
164	41	SD25	甍壁調査区ZSD06	土師質土器 土釜				摩滅	摩滅	体部破片
165	41	SD26	I区SD16	須臾器 椀			6.8	摩滅、ナデ	摩滅、ハラミミガキ?	1/8
166	42		I区SD18	須臾器 甕				格子タタキ目	摩滅、刷毛目	体部破片
167	42		I区SD18	土師器 椀	13.0			ナデ	ナデ	口縁部3/8
168	44	SD31	I区SD13	龜山焼 椀				格子タタキ目	摩滅	体部破片
169	44	SD31	I区SD13	土師器 椀			5.7	ナデ、摩滅	ナデ、摩滅	底部8/8
170	44	SD31	I区SD13	肥前系磁器 皿 (青磁)	13.8			施釉、ナデ	施釉、ナデ	口縁部1/8
171	44	SD31	I区SD13	土師器 壺	14.8			摩滅著しく調整不明	摩滅著しく調整不明	口縁部1/8
172	44	SD31	I区SD13	土師質土器 甕	17.8		13.0	横ナデ、指押さえ	横ナデ、横ナデ後指押目	口縁部2/8
173	44	SD31	I区SD13	土師質土器 甕				指押さえ	ナデ、板ナデ	底部5/8
174	44	SD31	I区SD13	土師質土器 土釜	23.4			指押さえ	ナデ、板ナデ	口縁部1/8
175	44	SD31	I区SD13	土師質土器 土釜	27.6			ナデ、指押さえ	指押さえ、板ナデ	口縁部2/8
176	44	SD31	I区SD13	土師質土器 土釜	27.6			指押さえ	指押さえ、板ナデ	口縁部1/8
177	45	SD31	I区SD13	土師質土器 土釜	27.6			横ナデ、指押さえ	横ナデ、板ナデ	7/8
178	45	SD31	I区SD13	土師質土器 土釜	27.6			指押さえ	板ナデ、刷毛目	口縁部1/8
179	45	SD31	I区SD13	土師質土器 土鍋	44.9			ナデ、指押さえ後板ナデ	板ナデ	口縁部1/8
180	45	SD31	I区SD13	土師質土器 土鍋	48.4			ナデ、指押さえ	板ナデ	口縁部2/8
185	46	SD30	I区SD15	ミナチユ土器 鉢	5.2	2.3	3.6	ナデ、ハラケズリ	ナデ	8/8
186	46	SD30	I区SD15	土師器 小皿	8.5	1.6	5.8	ナデ、ハラ切り後ナデ	ナデ	1/8
187	46	SD32	I区SD14サブトレンチ	土師器 小皿	5.8	1.4	5.0	ナデ、摩滅、ハラ切り	ナデ、摩滅	口縁部8/8
188	46	SD32	I区SD14サブトレンチ	土師器 小皿	7.0	1.2	5.5	ナデ、ハラ切り、刷毛目	ナデ	口縁部6/8
189	46	SD32	I区SD14サブトレンチ	土師器 杯	10.0	3.1	5.3	ナデ、ハラ切り、板目圧痕、刷毛目	ナデ	口縁部1/8
190	46	SD32	I区SD14サブトレンチ	土師器 椀	15.0			ナデ、指押さえナデ	ナデ、摩滅	口縁部1/8
191	46	SD32	I区SD14サブトレンチ	瓦器 椀	16.9			ナデ、摩滅	ナデ、摩滅	口縁部1/8
192	48	SD37	II区SD21第一遺構面	弥生土器 高杯	13.0			摩滅	指押さえ、摩滅	口縁部1/8
193	48	SD37	II区SD21第一遺構面	弥生土器 甕	14.6			ナデ	指押さえ、摩滅	2/8
194	48	SD37	II区SD21第一遺構面	弥生土器 甕			4.4	横ナデ	横ナデ、指押さえ	頸部2/8
195	48	SD37	II区SD21第一遺構面	弥生土器 甕				刷毛目	ナデ	底部2/8
196	48	SD37	II区SD21第一遺構面	弥生土器 甕	23.6			ナデ	ナデ	1/8
197	48	SD37	II区SD21第一遺構面	須臾器 平瓶or提瓶	8.0			ナデ	ナデ	口縁部4/8
200	51	SD41	I区SD20	須臾器 平瓶or提瓶	10.4			ナデ	ナデ	口縁部1/8
201	51	SD41	I区SD20	須臾器 杯蓋	13.6	3.5	10.4	ナデ、ハラ切り後ナデ、火瘻あり	ナデ	2/8
202	51	SD41	I区SD20	須臾器 杯蓋	17.0			剥離	剥離、刷毛目後ハラミガキ、摩滅	口縁部2/8
203	54	SD45	I区SD29第二遺構面	弥生土器 高杯	18.8		11.7	板ナデ、摩滅、穿孔4ヶ所	摩滅	4/8
204	54	SD45	I区SD29第二遺構面	弥生土器 高杯				ナデ、摩滅	ナデ、摩滅、竹管文	口縁部1/8
208	55	SD45	I区SD29第二遺構面	弥生土器 壺	19.2			横溝波状文、摩滅、板ナデ	摩滅、ハラミミガキ	口縁部1/8
209	55	SD45	I区SD29第二遺構面	弥生土器 壺				回転横ナデ、刷毛目	回転横ナデ、板ナデ、指押さえ	口縁部1/8
210	55	SD45	I区SD29第二遺構面上・中層	弥生土器 壺			5.0	摩滅、刷毛目、ハラミガキ	摩滅、刷毛目、板ナデ	口縁部8/8
211	55	SD45	I区SD29第二遺構面上・中層	弥生土器 壺			5.0	ナデ、刷毛目、ハラミガキ	ナデ、ハラケズリ、指押さえ	1/8
212	55	SD45	I区SD29第二遺構面上・中層	弥生土器 甕			4.8	板ナデ後ナデ、ナデ	摩滅	3/8
213	55	SD45	I区SD29第二遺構面上・中層	弥生土器 甕			4.2	刷毛目、摩滅	ハラケズリ	2/8
214	55	SD45	I区SD29第二遺構面上・中層	弥生土器 甕			5.0	タタキ目後板ナデ、板ナデ	ハラケズリ	底部8/8
215	55	SD45	I区SD29第二遺構面上・中層	弥生土器 甕			3.8	摩滅、板ナデ	摩滅、板ナデ	底部8/8
216	55	SD45	I区SD29第二遺構面上・中層	弥生土器 甕			3.7	タタキ目後刷毛目	ハラケズリ	底部8/8
217	55	SD45	I区SD29第二遺構面上・中層	弥生土器 甕	13.0			ナデ	ナデ、指押さえナデ	口縁部4/8
218	56	SD45	I区SD29第二遺構面上・中層	弥生土器 甕	14.6			横ナデ、摩滅	ナデ	口縁部3/8
219	56	SD45	I区SD29第二遺構面上・中層	弥生土器 甕	18.9			ナデ、刷毛目	ナデ後刷毛目、指押さえ後刷毛目	口縁部2/8
220	56	SD45	I区SD29第二遺構面上・中層	弥生土器 甕	17.6			ナデ、摩滅、刷毛目	ナデ、摩滅、指押さえ、ハラケズリ	口縁部1/8
221	56	SD45	I区SD29第二遺構面上・中層	弥生土器 甕	13.5			ナデ、摩滅、刷毛目	ナデ、摩滅、刷毛目、刷毛目後ハラケズリ	口縁部3/8
222	56	SD45	I区SD29第二遺構面上・中層	弥生土器 甕	13.7			ナデ、摩滅、タタキ目、タタキ目後刷毛目	ナデ、摩滅、指押さえ	口縁部7/8
223	56	SD45	I区SD29第二遺構面上・中層	弥生土器 甕	17.4			横ナデ、刷毛目	横ナデ、ハラケズリ	口縁部2/8
224	56	SD45	I区SD29第二遺構面上・中層	弥生土器 甕	15.7			ナデ、ナデ後刷毛目、刷毛目	刷毛目、ハラケズリ	4/8
225	56	SD45	I区SD29第二遺構面上・中層	弥生土器 甕	17.6	21.8	3.7	回転横ナデ、刷毛目	回転横ナデ、板ナデ、ハラケズリ	口縁部5/8
226	56	SD45	I区SD29第二遺構面上・中層	弥生土器 甕	12.7			横ナデ、指ナデ	横ナデ、ナデ	口縁部1/8
227	57	SD45	I区SD29第二遺構面上・中層	弥生土器 鉢				横ナデ、指ナデ	横ナデ、ナデ	口縁部1/8

親文No.	押印No.	新選構名	日選構名	器種	口径	器高	底径	外面調整	内面調整	残存率
228	57	SD45	I区SD29第三遺構面下層	弥生土器 鉢	16.2	5.4		板ナデ、指押さえ後副毛目	ハラミガキ	8/8
229	57	SD45	I区SD29第三遺構面下層	弥生土器 鉢	18.6	7.6		剥落、摩滅、副毛目、副毛目後ナデ	ナデ、指押さえ後ナデ、ミガキ	4/8
230	57	SD45	I区SD29第三遺構面下層	弥生土器 鉢	19.0	5.8		ナデ、摩滅、ハラケズリ、板ナデ	ナデ、ハラミガキ、板ナデ後ナデ	8/8
231	57	SD45	I区SD29第三遺構面中層	弥生土器 鉢	20.4			ナデ、摩滅、ハラケズリ	ナデ、摩滅、副毛目後ハラミガキ、ハラケズリ	口縁部3/8
232	57	SD45	I区SD29第三遺構面下層	弥生土器 鉢	21.0			摩滅、ハラケズリ	摩滅	口縁部2/8
233	57	SD45	I区SD29第三遺構面中層	弥生土器 鉢	28.3			ナデ	板ナデ	1/8
234	57	SD45	I区SD29第三遺構面北中層	弥生土器 鉢	23.8			ナデ、一部摩滅、剥離、板ナデ	ハラミガキ、1部副毛目	口縁部2/8
235	57	SD45	I区SD29第三遺構面南中層	弥生土器 鉢	13.6			剥離、副毛目	副毛目、摩滅	口縁部2/8
236	57	SD45	I区SD29第三遺構面上・中層	弥生土器 鉢	23.4			摩滅、指押さえ、板ナデ	摩滅、指押さえ、板ナデ	口縁部4/8
237	57	SD45	I区SD29第三遺構面中層	弥生土器 鉢	24.6			ナデ、指押さえ後ナデ、副毛目	ナデ、副毛目	2/8
238	57	SD45	I区SD29第三遺構面	弥生土器 鉢	30.6			横ナデ、副毛目後ナデ	横ナデ、板ナデ、副毛目、板ナデ後副毛目、指押さえ後ナデ	3/8
239	58	SD45	I区SD29第三遺構面南中層・下層	弥生土器 鉢	35.2			ナデ、ハラミガキ(あて具痕見られず)	ナデ、指押さえ後ナデ	口縁部2/8
240	58	SD45	I区SD29第三遺構面南中層	弥生土器 鉢	29.6	23.4	7.8	副毛目、タタキ目後副毛目、ハラケズリ	副毛目、ハラケズリ	3/8
241	58	SD45	I区SD29第三遺構面北下層	弥生土器 鉢	43.8			ナデ、副毛目、ハラケズリ、一部ハラミガキ	ナデ、副毛目	2/8
242	60	SD48	I区SD24第二遺構面	弥生土器 広口壺	18.0			摩滅、ナデ、副毛目	摩滅、ナデ、副毛目	口縁部1/8
243	60	SD48	I区SD24第二遺構面	弥生土器 甕	15.6			横ナデ、副毛目後ナデ	横ナデ、副毛目後ナデ、指押さえ後ナデ	2/8
244	60	SD48	I区SD24北端部第2遺構面	弥生土器 甕	14.2			摩滅	剥落、横ナデ、指押さえ	3/8
245	60	SD48	I区SD24北端部第2遺構面	弥生土器 甕			3.0	ナデ、板ナデ後ナデ	指押さえ後ハラケズリ後ナデ	5/8
246	60	SD48	I区SD24北端部第2遺構面	弥生土器 鉢			9.6	ハラケズリ	副毛目	底部8/8
254	63	SD53	須恵器 高台付壺	須恵器 杯			9.9	ナデ、ハラ切り	ナデ	底部1/8
255	63	SD53	辨壁調査区3(4)SD08	須恵器 高台付壺			8.6	ナデ、貼り付け高台	ナデ	底部2/8
257	65	SK01	辨壁調査区3(4)SD08	土師器 風呂釜			46.3	摩滅、剥離、凸帯、板ナデ、一部波状文、穿孔1ヶ所、底部煤付窟	摩滅、指押さえ、貼付凸帯3ヶ所、ナデ	4/8
263	67	SK02	II区SK04第一遺構面	土製 甕	69.0		48.0	口縁部：横ナデ、横描文底部：ナデ	口縁部：板ナデ底部：副毛目、ナデ	1/8
264	68	SK04	II区SK09第一遺構面	東濠系 ちね鉢	23.4			横ナデ	横ナデ、副毛目	口縁部1/8
265	68	SK06	II区SK11第一遺構面	土師器 杯	9.9	3.4	5.6	摩滅	摩滅	1/8
266	68	SK06	II区SK11第一遺構面	土師器 杯	12.0	3.4	9.2	ナデ、ハラ切り、板目圧痕	ナデ	8/8
267	68	SK06	II区SK11第一遺構面	土師器 杯	12.2	3.7	8.8	ナデ	ナデ	6/8
268	71	SK11	II区SK10第一遺構面	土師器 羽釜	23.0			指押さえ後ナデ	ナデ	口縁部1/8
271	74	SK17	II区SK04第一遺構面	土師器 杯	9.6	3.0	6.6	ナデ、糸切り	ナデ	3/8
272	74	SK17	II区SK04第一遺構面	瓦質土器 土鍋	36.0			ナデ、剥落	ナデ	口縁部1/8
273	75	SK20	I区SK01	土師器 小皿	7.2	1.0	6.0	ナデ、ハラ切り後副毛目	ナデ	4/8
274	75	SK20	I区SK01	土師器 小皿	6.9	0.9	5.0	ナデ、ハラ切り	ナデ	6/8
275	75	SK20	I区SK01	土師器 杯	10.8	3.1	6.4	ナデ、ハラ切り、板目圧痕	ナデ	5/8
276	75	SK20	I区SK01	土師器 杯	11.0	3.2	7.2	ナデ、ハラ切り	ナデ	6/8
277	75	SK20	I区SK01	土師器 杯	10.4	2.8	6.0	ナデ、ハラ切り	ナデ	4/8
278	75	SK20	I区SK01	土師器 杯	10.8	2.6	6.6	ナデ、摩滅	ナデ、摩滅	口縁部1/8
279	75	SK20	I区SK01	土師器 杯	11.4	2.7	5.8	ナデ、ハラ切り?	ナデ	口縁部3/8
280	75	SK20	I区SK01	土師器 杯	13.4			ナデ、ハラ切り	ナデ	1/8
281	75	SK20	I区SK01	土師器 杯	12.9	3.2	7.6	ナデ、ハラ切り	ナデ	口縁部2/8
282	75	SK20	I区SK01	土師器 杯	10.4	2.5	5.0	ナデ、ハラ切り後ナデ、板目圧痕	ナデ	口縁部4/8
283	75	SK20	I区SK01	土師器 杯	10.1	2.7	4.7	ナデ、ハラ切り	ナデ	口縁部2/8
284	75	SK20	I区SK01	土師器 杯	9.9			ナデ	ナデ	口縁部1/8
285	75	SK20	I区SK01	土師器 杯	10.9			指ナデ	ナデ	口縁部1/8
286	76	SK22	I区SK07	土師質土器 土釜				ナデ	ナデ	脚1本/18
287	77	SK25	I区SK05	備前系 灯明皿	11.2	1.6	5.7	ナデ、ハラケズリ	ナデ	1/8
288	77	SK25	I区SK05	肥前系陶胎染付 火入れ			6.0	ナデ、施釉、削り出し高台	ナデ	底部2/8
290	79	SK29	I区SK06	土師質土器 羽釜	9.9	6.2	5.1	ナデ、指押さえ	板ナデ	体部破片
291	79	SK29	I区SK06	肥前系陶胎染付 火入れ	9.0	5.5	3.8	ナデ、施釉	ナデ	4/8
292	79	SK29	I区SK06	瀬戸・美濃系陶器 椀	26.4			施釉、沈線3条	施釉	1/8
293	79	SK29	I区SK06	土師質土器 甕				ハラ描沈線帯6~7条、ハラ描波状文、板ナデ	板ナデ、指押さえ	3/8
294	79	SK29	I区SK06	土師質土器 焙烙	34.4			横ナデ、指押さえ	横ナデ、板ナデ、1部副毛目	2/8
295	80	SK30	辨壁調査区4南辺SX	土師質土器 甕	69.3		49.9	口縁部：ナデ、板ナデ底部：板ナデ、摩滅	口縁部：指押さえ、ナデ、板ナデ	底部7/8
296	80	SK30	辨壁調査区4東辺SX	土師質土器 風呂			51.5	ナデ、貼付凸帯、穿孔2ヶ所、底部煤付窟	穿孔2個1組3ヶ所	底部3/8
297	80	SK30	辨壁調査区4南辺SX	土師質土器 甕	96.0			口縁部：横ナデ底部：ナデ、板ナデ後ナデ	口縁部：横ナデ、指押さえ、指押さえ、副毛目後指押さえ、指押さえ、ナデ	底部3/8
298	82	SE01	II区SE04第一遺構面	土師器 花たて	10.2	19.7	1.0	板ナデ	板ナデ	8/8
299	82	SE01	II区SE04第一遺構面	肥前系陶器 皿				施釉	施釉	口縁部1/8
300	82	SE01	II区SE04第一遺構面	土師器 杯	31.0			横ナデ	横ナデ、副毛目後指押さえ	口縁部2/8
306	83	SE03	II区SE02第一遺構面	土師器 杯			5.3	ナデ、ハラ切り後ナデ、板目圧痕	ナデ	底部8/8
307	83	SE03	II区SE02第一遺構面	土師器 杯	11.2	3.1	6.4	ナデ、糸切り	ナデ	5/8

報文No.	挿図No.	新選構名	日選構名	器種	口径	器高	底径	外面調整	内面調整	残存率
310	84	SE04	Ⅱ区SE01第一遺構面	土師器 杯			6.8	ナデ 板目圧痕、ヘラ切り	ナデ 指押さえ	底部4/8
312	86	包含層	Ⅱ区SX05第一遺構面	弥生土器 甕				刻み目、指押さえ	ナデ、指押さえ	口縁部1/8
313	86	包含層	擁壁調査区1SX13第2遺構面	弥生土器 甕				横ナデ	横ナデ	口縁部1/8
314	86	包含層	擁壁調査区1SX13第2遺構面	弥生土器 甕				摩滅・沈線2条	摩滅	体部破片
315	86	包含層	Ⅱ区SX05第一遺構面	弥生土器 甕			8.0	摩滅・沈線2条	摩滅	体部破片
316	86	包含層	Ⅱ区SX05第二遺構面	弥生土器 甕				剥離	摩滅	底部1/8
317	86	包含層	Ⅰ区SX04	須恵器 杯蓋				ナデ	ナデ	つまみ部8/8
318	86	包含層	Ⅰ区SX04	須恵器 杯			6.8	ナデ ヘラ切り	ナデ	底部3/8
319	86	包含層	Ⅱ区SX01第一遺構面	土師器 小皿		7.1	5.6	ナデ、摩滅、ヘラ切り	ナデ、摩滅	2/8
320	86	包含層	Ⅱ区SX01第二遺構面	土師器 小皿		8.0	1.7	ナデ、摩滅、ヘラ切り	ナデ、摩滅	2/8
321	86	包含層	Ⅱ区SX01第一遺構面	土師器 小皿		12.0	3.1	ナデ、摩滅	ナデ、摩滅	口縁部1/8
322	86	包含層	Ⅱ区SX01第一遺構面	土師器 杯		11.6	3.0	ナデ、糸切り、ナデ	ナデ、摩滅	5/8
323	86	包含層	Ⅱ区SX01第一遺構面	土師器 杯		10.8	2.7	ナデ、ヘラ切り、板目圧痕	ナデ	3/8
324	86	包含層	Ⅰ区SX04	土師器 皿		22.6		横ナデ、摩滅	横ナデ、摩滅	口縁部1/8
325	86	包含層	Ⅱ区SX02第一遺構面	土師質土器 播鉢				ナデ	ナデ	口縁部1/8
326	86	包含層	Ⅰ区SX04	土師質土器 土釜		18.8		指押さえ、ナデ	指押さえ、ナデ	胴1本1/8
327	86	包含層	Ⅰ区SX04	須恵器 土器		31.0		ナデ	ナデ	口縁部1/8
335	87	包含層	Ⅱ区A-2・3第二遺構面機械掘削古代包含層	土師質土器 土鍋		23.4	10.1	横ナデ、ナデ、指押さえ後刷毛目後ナデ	横ナデ、ナデ、ヘラミガキ後ナデ、指押さえ後ナデ	1/8
336	87	包含層	Ⅰ区A-2・3第二遺構面古代包含層	弥生土器 鉢				ナデ	ナデ	1/8
337	87	包含層	Ⅰ区A-2・3第二遺構面	弥生土器 鉢				摩滅、貼付凸帯・刻み目	摩滅	体部1/8
338	87	包含層	擁壁調査区1弥生包含層	弥生土器 甕			9.1	ナデ、摩滅	板ナデ	底部1/8
339	87	包含層	擁壁調査区1第2遺構面弥生包含層	弥生土器 甕				ナデ、摩滅	摩滅	体部破片
340	87	包含層	Ⅱ区A-1弥生包含層	弥生土器 甕				ナデ、摩滅	ナデ	口縁部1/8
341	87	包含層	擁壁調査区2弥生包含層	弥生土器 甕				ナデ、指押さえ、刷毛目、摩滅	刷毛目、指押さえ後ナデ	口縁部1/8
342	87	包含層	Ⅰ区B-4西端第2遺構面弥生包含層	弥生土器 甕		17.8	18.0	横ナデ、指押さえ後ナデ、ナデ、摩滅	横ナデ、板ナデ	7/8
343	87	包含層	Ⅰ区B-4第2遺構面機械掘削古代包含層	須恵器 杯蓋		13.6	1.7	ナデ	ナデ	2/8
344	87	包含層	Ⅱ区A-2・3第二遺構面古代包含層	弥生土器 高杯		12.3		ナデ	ナデ	口縁部1/8
345	87	包含層	Ⅰ区A-1弥生包含層	弥生土器 甕			12.8	ナデ、貼付凸帯・刻み目	ナデ、摩滅	底部2/8
346	87	包含層	Ⅱ区A-1弥生包含層	弥生土器 甕				ナデ、摩滅	ナデ	口縁部1/8
347	87	包含層	擁壁調査区1弥生包含層	弥生土器 甕			16.8	摩滅、沈線5条、列点文	横ナデ、板ナデ	類部破片
348	87	包含層	Ⅰ区B-4第2遺構面弥生包含層	弥生土器 甕		14.8		横ナデ、ナデ、凹線文	指押さえ後ナデ	底部1/8
349	87	包含層	Ⅰ区B-4第3遺構面弥生包含層	弥生土器 甕			4.0	摩滅、タタキ目	横ナデ、板ナデ	口縁部3/8
350	87	包含層	Ⅰ区B-4第2遺構面弥生包含層	弥生土器 高杯			13.1	ナデ、ヘラミガキ、摩滅	横ナデ、板ナデ	底部1/8
351	88	包含層	Ⅰ区B-4第2遺構面機械掘削古代包含層	須恵器 杯蓋		16.0		ナデ、ヘラ切り	刷毛目	底部4/8
352	88	包含層	Ⅰ区B-4遺構面精査	須恵器 杯			8.0	ナデ、ヘラ切り	ナデ	1/8
353	88	包含層	擁壁調査区4東辺	須恵器 杯		18.2	5.7	ナデ、ヘラ切り後ナデ	ナデ	底部1/8
354	88	包含層	Ⅱ区A-2・3第二遺構面遺構面精査	須恵器 皿				ナデ、ヘラ切り	ナデ	底部2/8
355	88	包含層	Ⅰ区B-4遺構面精査	須恵器 皿			11.6	ナデ、ヘラ切り	ナデ	底部2/8
356	88	包含層	Ⅱ区B-1・2第二遺構面遺構面精査	土師器 杯		11.2	3.2	ナデ、板目圧痕	ナデ	1/8
357	88	包含層	擁壁調査区4機械掘削東辺(造成土)	土師器 杯		6.8	1.4	ナデ、ヘラ切り	ナデ	2/8
358	88	包含層	擁壁調査区2壁切り	肥前系陶器 皿		13.2	3.9	ナデ、削り出し高台、施釉、蛇の目釉	ナデ、施釉	2/8
359	88	包含層	Ⅰ区C-4横乱C	黒系銅緑釉 皿				剥ぎ	ナデ	4/8
360	88	包含層	Ⅰ区C-4	肥前系陶器 皿(青磁)		22.6	12.0	施釉	施釉	口縁部1/8
361	88	包含層	Ⅰ区横乱F	土師質土器 播鉢(片口)			11.7	ナデ、指押さえ	ナデ、摩滅	口縁部5/8
362	88	包含層	Ⅰ区C-4横乱C	龍泉系青磁 碗		10.7	5.1	施釉	施釉	口縁部1/8
363	88	包含層	Ⅰ区C-4横乱C	施釉陶器 刷毛目椀		25.2	14.9	ナデ	施釉	2/8
364	88	包含層	Ⅱ区第一遺構面北辺御溝・横乱	土師質土器 羽釜		20.0		ナデ	施釉	5/8
365	88	包含層	擁壁調査区2遺構面精査弥生包含層	土師質土器 羽釜		20.0		横ナデ、指押さえ	横ナデ、板ナデ	口縁部5/8
366	88	包含層	Ⅰ区C-4横乱C	土師器 焙烙		38.7		ナデ、指押さえ	横ナデ、板ナデ	口縁部2/8
367	89	包含層	Ⅰ区C-4横乱C	土師器 焙烙		37.8		ナデ、摩滅、板ナデ	ナデ	口縁部5/8
368	89	包含層	擁壁調査区4南辺(造成土)	土師器 甕			30.6	ナデ、波状立6条、板ナデ	横ナデ	底部2/8
369	89	包含層	Ⅱ区C-4横乱D	土師質土器 甕		29.0	25.8	指押さえナデ、指押さえ板ナデ	指押さえナデ、指押さえ後刷毛目	6/8
370	89	包含層	擁壁調査区4機械掘削、東辺(造成土)	土師質土器 甕		60.4		板ナデ、ナデ	指押さえ後板ナデ	口縁部1/8
371	89	包含層	擁壁調査区4壁切り、機械掘削、南辺(造成土)	弥生土器 甕		53.0		ナデ	横ナデ、ナデ	2/8
372	89	包含層	擁壁調査区1弥生包含層	弥生土器 甕				ヘラ描沈線現存/条、摩滅	摩滅	体部破片
373	90	包含層	Ⅰ区B-4第2遺構面弥生包含層	弥生土器 鉢		31.0		ナデ、摩滅	ナデ、指押さえ、摩滅	口縁部1/8
374	90	包含層	Ⅰ区B-4第2遺構面弥生包含層	弥生土器 鉢				ナデ、摩滅	ナデ、指押さえ、摩滅	口縁部1/8

第5表 石器調査表

報告No.	標目No.	新遺構名	日遺構名	器種	現存長	最大幅	最大厚
60	23	SB12	Ⅱ区SP31第一遺構面	石鏃	2.9	1.1	0.5
72	26	SB15	Ⅰ区SP190 (SB02)	丸石	8.9	8.3	5.2
85	31	SP123	第一遺構面SP474	円礫	8.4	7.3	4.3
98	31	SP560	Ⅱ区SP559第一遺構面	不明	12.1	3.1	3.3
106	31	SP1161	擁壁調査区2 3-④SP42	石鏃	2.0	1.7	0.3
120	34	SD02	擁壁調査区SD01	円礫	9.0	8.6	5.6
123	36	SD07	Ⅱ区SD02第一遺構面	石鏃	1.5	1.7	0.3
127	36	SD19	Ⅰ区SD05第一遺構面	棒状石	6.9	3.2	4.5
130	37	SD23	Ⅰ区SD19第一遺構面	石鏃	3.4	1.6	0.7
159	40	SD24	Ⅰ区SD01第一遺構面	石筒丁 or スクレイバー	6.4	14.4	2.6
160	40	SD24	Ⅰ区SD01上層	砥石	18.3	6.8	4.6
161	40	SD24	Ⅰ区SD01上層	砥石	24.2	5.0	5.1
162	40	SD24	Ⅰ区SD01上層	砥石	16.9	9.3	4.6
163	40	SD24	Ⅰ区SD01第一遺構面上層	砥石	11.4	7.3	6.7
183	45	SD31	Ⅰ区SD13	石筒丁	5.2	3.7	1.0
184	45	SD31	Ⅰ区SD13	円礫	9.6	7.9	6.6
198	49	SD37	Ⅰ区SD21第二遺構面	スクレイバー	9.3	5.0	1.2
199	49	SD37	Ⅱ区SD21第二遺構面	スクレイバー	8.4	4.2	1.2
205	54	SD45	Ⅰ区SD29第三遺構面上・中層	石鏃	2.1	1.4	0.3
206	54	SD45	Ⅰ区SD29第三遺構面下層	石鏃	1.9	2.3	0.2
207	54	SD45	Ⅰ区SD29第三遺構面下層	スクレイバー	6.0	7.8	0.6
247	60	SD48	Ⅰ区第二遺構面SD24	碁石?	1.6	1.8	0.6
248	61	SD48	Ⅰ区SD24集石第二遺構面	砥石	21.0	12.8	7.8
249	61	SD48	Ⅰ区SD24集石第二遺構面	砥石	20.5	13.2	8.1
250	61	SD48	Ⅰ区SD24集石第二遺構面	砥石	24.3	10.0	9.4
251	61	SD48	Ⅰ区SD24集石第二遺構面	砥石	14.9	12.4	8.4
252	61	SD48	Ⅰ区SD24集石第二遺構面	砥石	20.0	8.4	5.3
253	61	SD48	Ⅰ区SD24集石第二遺構面	砥石	11.1	9.0	7.1
270	72	SK12	Ⅱ区SK13第一遺構面	石鏃	3.7	2.5	0.7
289	77	SK25	Ⅰ区SX05掘り方	スクレイバー	3.2	6.2	1.1
309	83	SE03	Ⅱ区SE02第一遺構面	石鏃	1.1	1.5	0.3
328	86	包舍層	Ⅰ区SX04	不明	3.1	3.8	0.6
375	90	包舍層	Ⅰ区B-4南壁包舍層	石鏃	14.0	6.2	1.9
376	90	包舍層	擁壁調査区3-⑤上面精査	石皿	17.8	15.8	4.5
382	91	包舍層	Ⅰ区A-3遺構面精査	石鏃	1.3	1.3	0.3
383	91	包舍層	擁壁調査区2弥生包舍層	石鏃	2.4	2.1	0.4
384	91	包舍層	不明	石鏃	2.6	1.5	0.3
385	91	包舍層	Ⅰ区B1、B2遺構面精査	石鏃	3.0	1.6	0.3
386	91	包舍層	Ⅱ区A-3弥生包舍層	石鏃	3.5	2.3	0.5
387	91	包舍層	Ⅰ区A-1弥生包舍層	石鏃	2.9	1.9	0.4
388	91	包舍層	擁壁調査区1遺構面精査	石鏃	2.3	1.6	0.3
389	91	包舍層	擁壁調査区2機械掘削及び壁切り	石鏃	3.3	1.9	0.4
390	91	包舍層	Ⅰ区A-4遺構面精査	石鏃	3.2	1.5	0.3
391	91	包舍層	擁壁調査区1弥生包舍層	石鏃	2.9	1.0	0.3
392	91	包舍層	Ⅰ区機械掘削古代包舍層	石鏃	2.8	1.4	0.4
393	91	包舍層	Ⅰ区第二遺構面弥生包舍層	石鏃	2.7	1.2	0.6
394	91	包舍層	擁壁調査区1弥生包舍層	石鏃	5.0	1.2	0.5
395	91	包舍層	擁壁調査区2弥生包舍層	石鏃	2.2	1.1	0.3
396	91	包舍層	擁壁調査区1弥生包舍層	石鏃	2.2	1.3	0.3
397	91	包舍層	Ⅱ区A-2南壁側溝第一遺構面暗褐色包舍層	石鏃	4.9	1.7	0.4
398	91	包舍層	Ⅰ区排土中	二次加工のある剥片	3.5	1.9	0.7
399	91	包舍層	擁壁調査区3機械掘削主に包舍層	製品の破片	2.9	3.7	0.5
400	91	包舍層	Ⅰ区C-3遺構面精査	製品の破片	3.5	1.1	0.6
401	91	包舍層	擁壁調査区3-④	二次加工のある剥片	4.8	2.6	1.1
402	91	包舍層	擁壁調査区2	製品の破片	5.8	3.0	0.7
403	91	包舍層	Ⅰ区A-4古代包舍層機械掘削	製品の破片	3.7	3.3	0.6
404	92	包舍層	Ⅰ区B-4南側包舍層	石器、磨製石斧	6.8	3.2	1.3
405	92	包舍層	Ⅰ区B-3北壁包舍層	製品の破片	5.1	7.4	1.2
406	92	包舍層	Ⅰ区C-4攪乱A-B	製品の破片	3.3	7.6	1.6
407	92	包舍層	Ⅰ区C-4攪乱	製品の破片	4.8	3.7	1.4
408	92	包舍層	本調査1(北壁)壁切り	製品の破片	4.9	1.2	0.9
409	92	包舍層	Ⅰ区遺構面精査	不明	6.8	6.1	4.4
410	92	包舍層	擁壁調査区3-⑤上面精査	不明	7.9	7.9	3.3

第5表 石器觀察表

報文No.	挿図No.	新遺構名	旧遺構名	器種	現存長	最大幅	最大厚
411	92	包含層	調査区1壁切1	不明	63	6.4	5.2
412	92	包含層	I区側溝(北辺)	不明	99	8.7	3.0
413	93	包含層	I区C-4攪乱D	砥石	15.6	5.0	2.6
414	93	包含層	I区C-4攪乱A-B	砥石	23.0	9.1	5.9
415	93	包含層	I区B-4南壁包含層	砥石	11.5	4.9	2.6
416	93	包含層	攪乱	砥石	9.3	5.3	4.1
417	93	包含層	I区C-4攪乱D	砥石	7.4	5.6	0.9

第6表 管玉觀察表

報文No.	挿図No.	新遺構名	旧遺構名	器種	現存長	最大幅	最大厚
311	89	SX01	I区SX11第二遺構面	管玉	2.4	0.8	0.3

第7表 金屬器觀察表

報文No.	挿図No.	新遺構名	旧遺構名	器種	現存長	最大幅	最大厚
51	19	SB08	II区第一面SP674	不明	2.5	0.4	0.5
67	26	SB15	I区SP193 (SB02)	刀子	5.4	1.2	0.4
68	26	SB15	I区SP146	刀子	6.8	1.8	0.4
69	26	SB15	II区第一遺構面SD12畔	針	1.4	0.6	0.5
126	36	SD15	II区第一遺構面SD05畔③	針	2.2	0.6	0.5
128	36	SD19	II区第一遺構面SD19	不明	2.5	1.4	0.2
131	37	SD23	II区第一遺構面SD19	針?	4.5	0.7	0.4
132	37	SD23	II区第一遺構面SD19	不明	6.7	1.6	0.7
133	37	SD23	II区第一遺構面SD19	不明	4.9	0.8	0.7
181	45	SD31	I区CA SD1.3	不明	3.3	0.5	0.6
182	45	SD31	II区SD13	不明	8.5	3.9	0.6
258	65	SK01	II区第一遺構面SX03	針先?	2.0	0.3	0.2
259	65	SK01	II区第一遺構面SX03	不明	21.1	3.3	
260	66	SK02	II区第一遺構面SX04	不明	20.0	3.9	
261	66	SK02	II区第一遺構面SX04	不明	8.7	0.4	0.4
305	82	SE01	II区第一遺構面SE04	不明	9.1		
329	86	包含層	II区第一遺構面SX02	不明	7.9	2.0	1.8
330	86	包含層	II区第一遺構面SX02	不明	2.5	0.7	0.4
331	86	包含層	II区第一遺構面SX02	不明	7.9	1.3	0.5
332	86	包含層	II区第一遺構面SX02	不明	4.2	1.2	1.0
333	86	包含層	II区第一遺構面SX02	不明	3.2	1.2	1.1
334	86	包含層	II区A2 A3第一遺構面精査	不明	11.2	2.9	0.8
377	90	包含層	I区B4遺構面精査	不明	6.1	0.3	2.5
378	90	包含層	II区第一遺構面精査A1, A2遺構面精査	不明	3.6	0.4	0.4
379	90	包含層	撿査調査区1	不明	2.3	0.7	0.2
380	90	包含層	撿査調査区1	不明	2.2	2.6	0.3
381	90	包含層	I区B-4遺構面精査	不明			

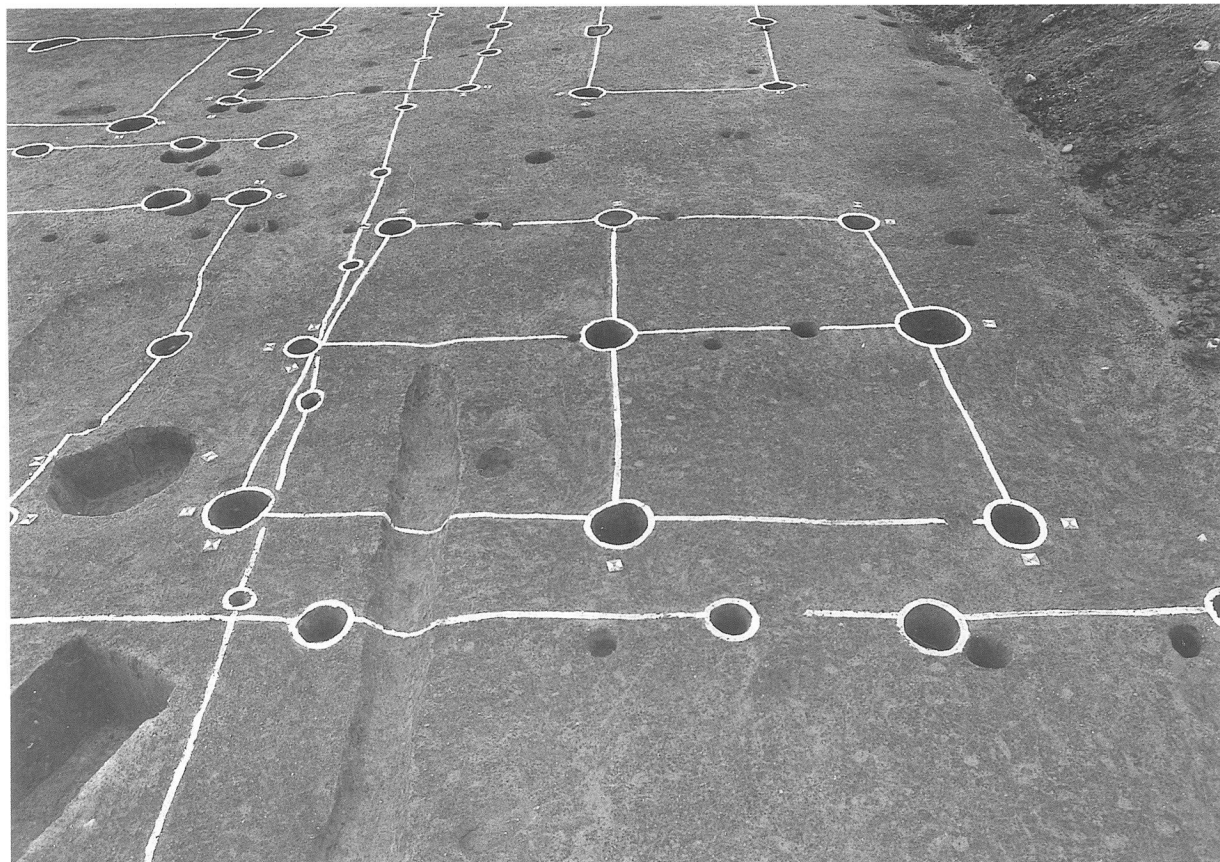
第8表 木器觀察表

報文No.	挿図No.	新遺構名	旧遺構名	器種	現存長	最大幅	最大厚
73	27	SB03	II区第一遺構面SP475 (SA07)	杭?	16.3	7.1	6.8
74	27	SB02	II区SB09 SP304	柱根	4.3	9.1	6.7
75	27	SB09	SP154 (SB06)	柱根	23.2	13.1	13.8
76	27	SB15	I区SA02?SP194	柱根	33.5	6.8	3.8

第9表 瓦觀察表

報文No.	挿図No.	新遺構名	旧遺構名	器種	現存長	筒部径	厚さ
107	32	SP403	II区SP159	軒丸瓦	28.5	12.5	1.7
303	82	SE01	II区SE04第一遺構面	軒丸瓦	11.0		1.5
256	65	SK01	II区SX03第一遺構面	平瓦	15.9		1.6
262	67	SK02	II区SX04第一遺構面	平瓦	25.7		1.6
269	72	SK12	II区SK13第一遺構面	平瓦	23.9		1.6
301	82	SE01	II区SE04第一遺構面	平瓦	20.2		1.2
302	82	SE01	II区SE04第一遺構面	丸瓦	1.6		1.6
304	82	SE01	II区SE04第一遺構面	丸瓦	12.5	9.4	
308	83	SE03	II区SE02第一遺構面	平瓦	14.9		1.7

山南遺跡 図版

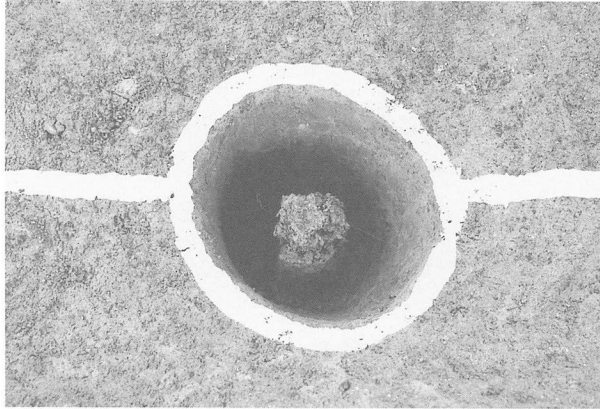


SB01全景（北から）

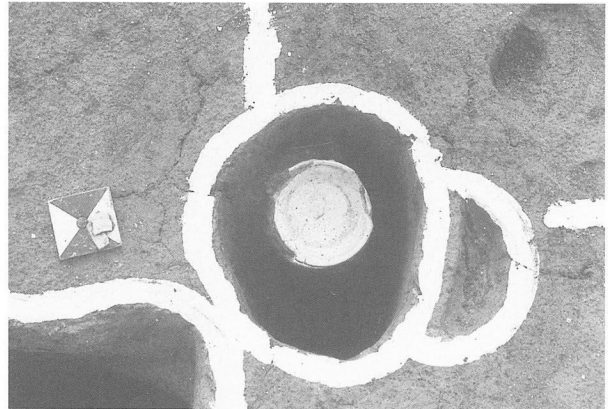


SB02全景（南東から）

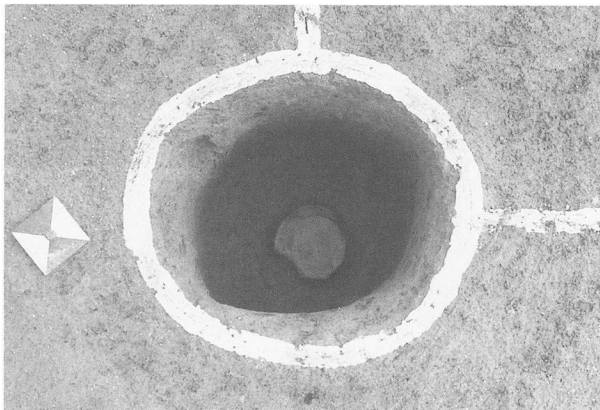
図版2



SB02 (SP153) 柱痕検出状態 (西から)



SB03 (SP137) 遺物出土状態 (北から)



SB04 (SP97) 遺物出土状態 (西から)



SB05・06全景 (東から)



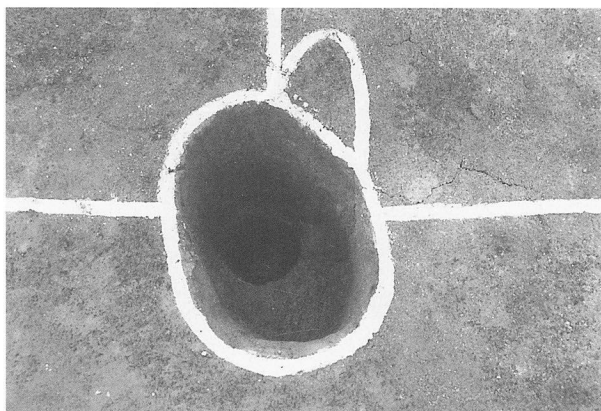
SB07全景（東から）



SB07 (SP271) 完掘状態（南西から）



SB07 (SP277) 遺物出土状態（西から）



SB07 (SP279) 完掘状態（西から）



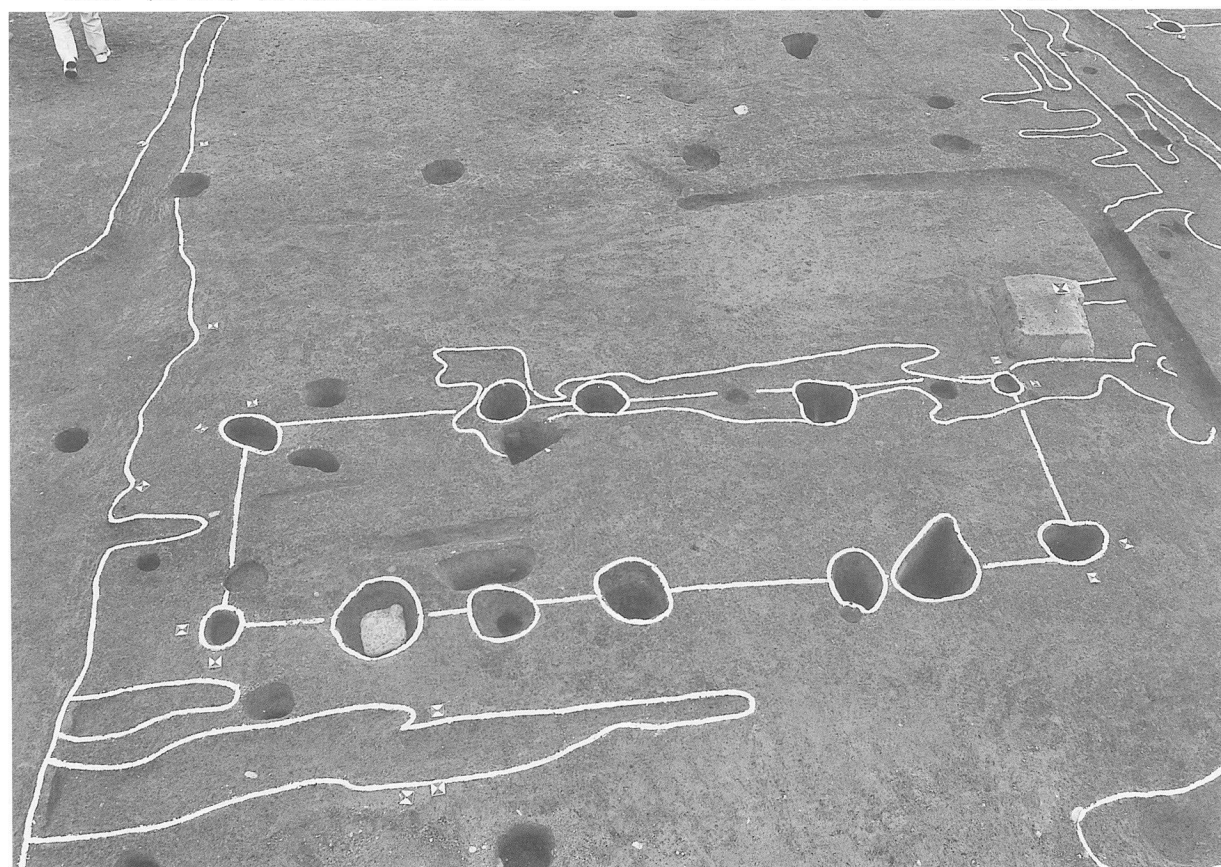
SB07 (SP287) 根石検出状態（西から）



SB07 (SP291) 根石検出状態 (南から)



SB07 (SP300) 完掘状態 (北西から)



SB08全景 (西から)

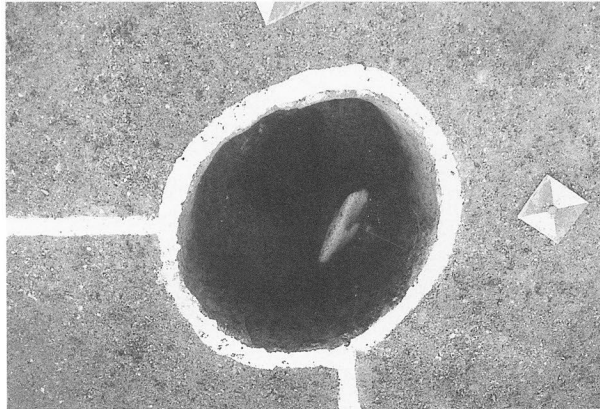


SB09全景（南から）

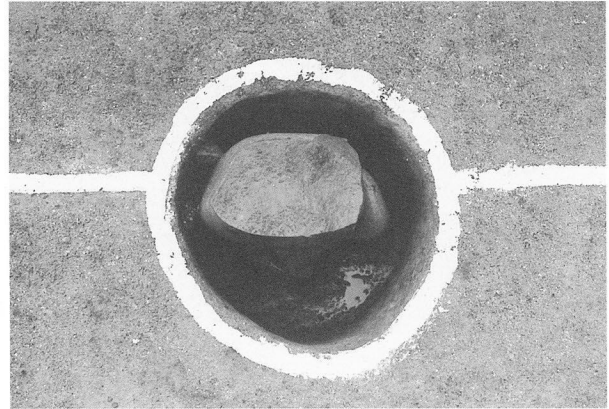


SB09全景（西から）

図版6



SB09 (SP367) 根石検出状態 (西から)



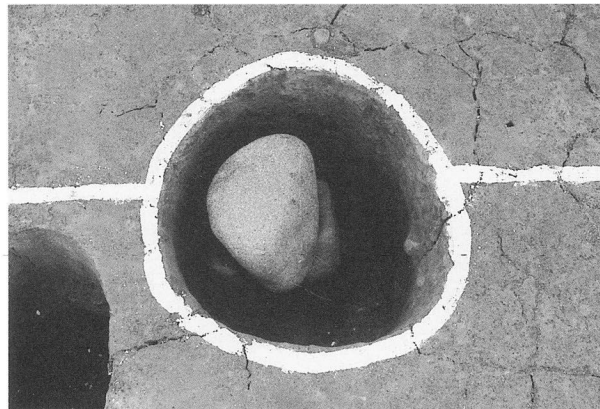
SB09 (SP369) 根石検出状態 (東から)



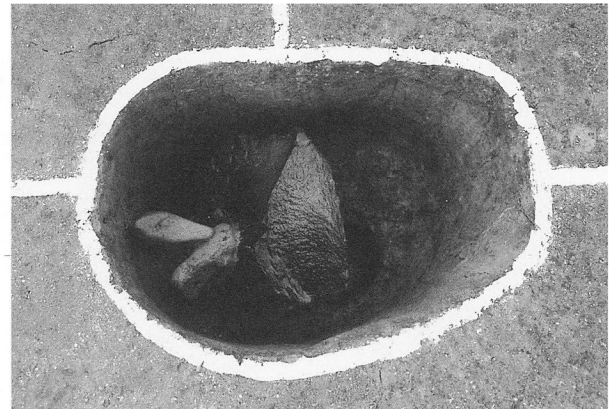
SB09 (SP372) 根石検出状態 (西から)



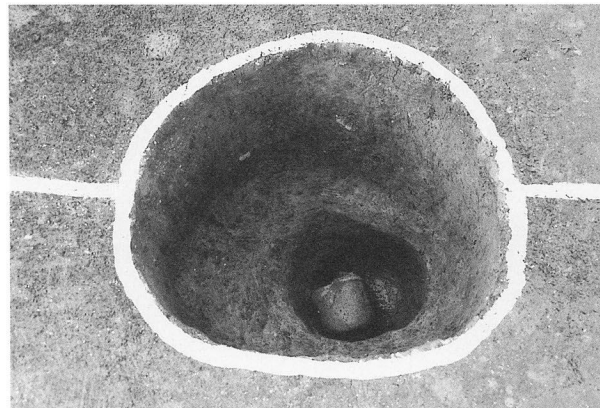
SB09 (SP395) 根石検出状態 (北から)



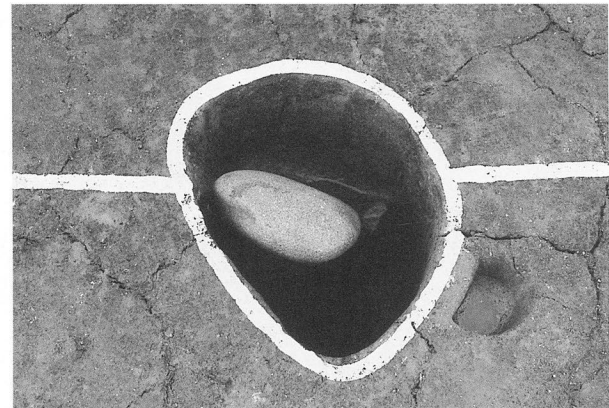
SB09 (SP396) 根石検出状態 (北から)



SB09 (SP410) 根石検出状態 (南から)



SB09 (SP411) 根石検出状態 (南から)



SB09 (SP412) 根石検出状態 (南から)



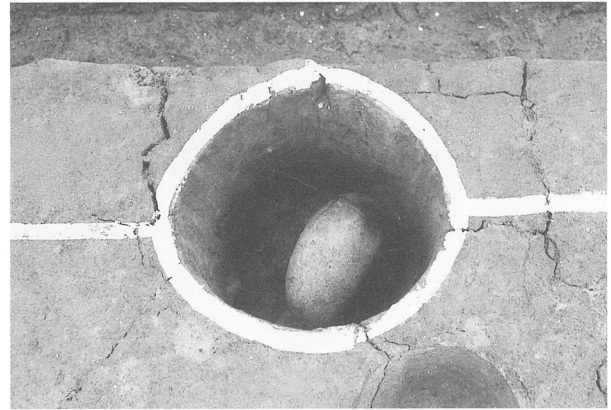
SB09 (SP420) 根石検出状態 (南から)



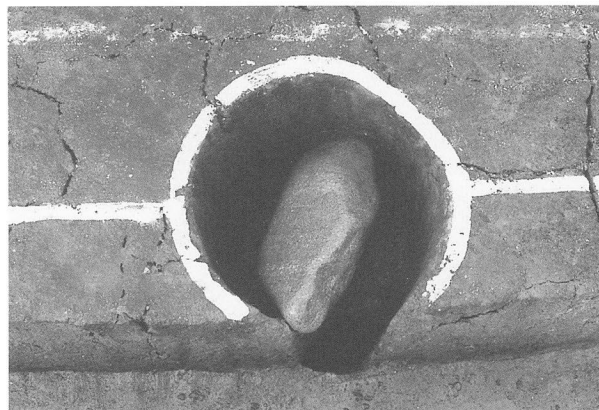
SB09 (SP421) 根石検出状態 (南から)



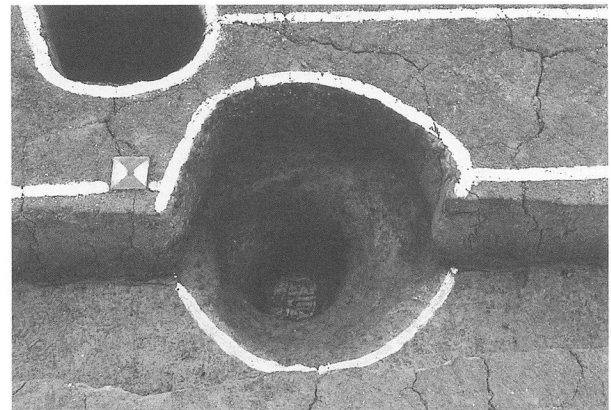
SB09 (SP423) 根石検出状態 (北から)



SB09 (SP424) 根石検出状態 (北から)



SB09 (SP426) 根石検出状態 (南から)



SB09 (SP427) 根石検出状態 (南から)



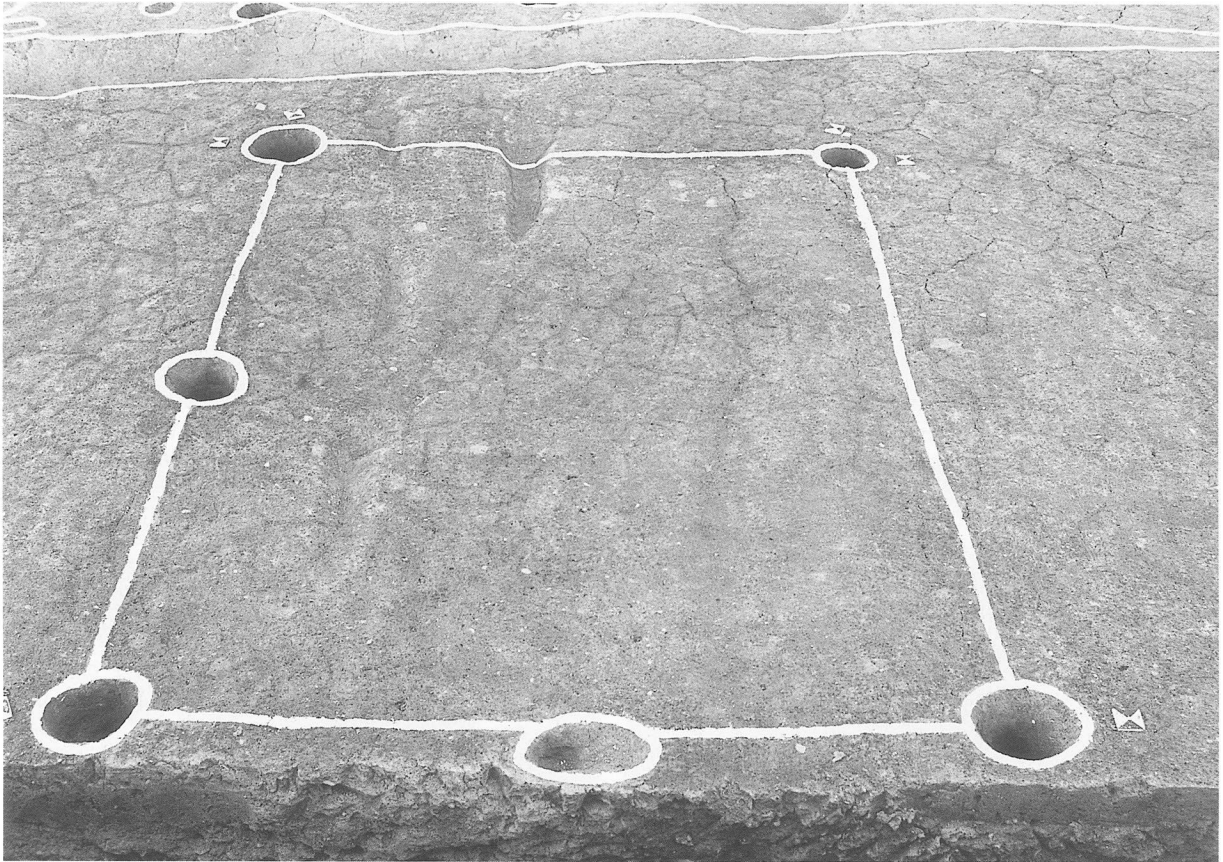
SB09 (SP431) 柱痕検出状態 (南から)



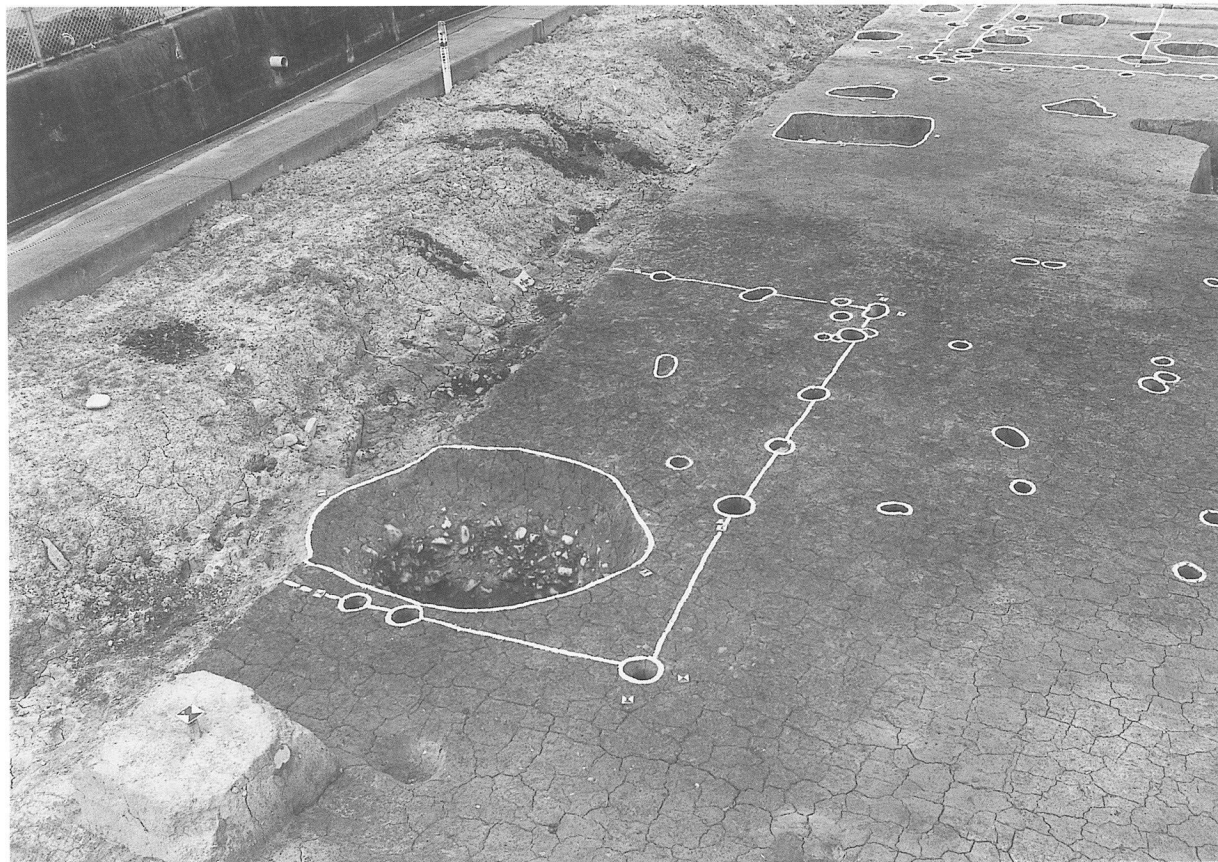
SB09 (SP434) 根石検出状態 (西から)



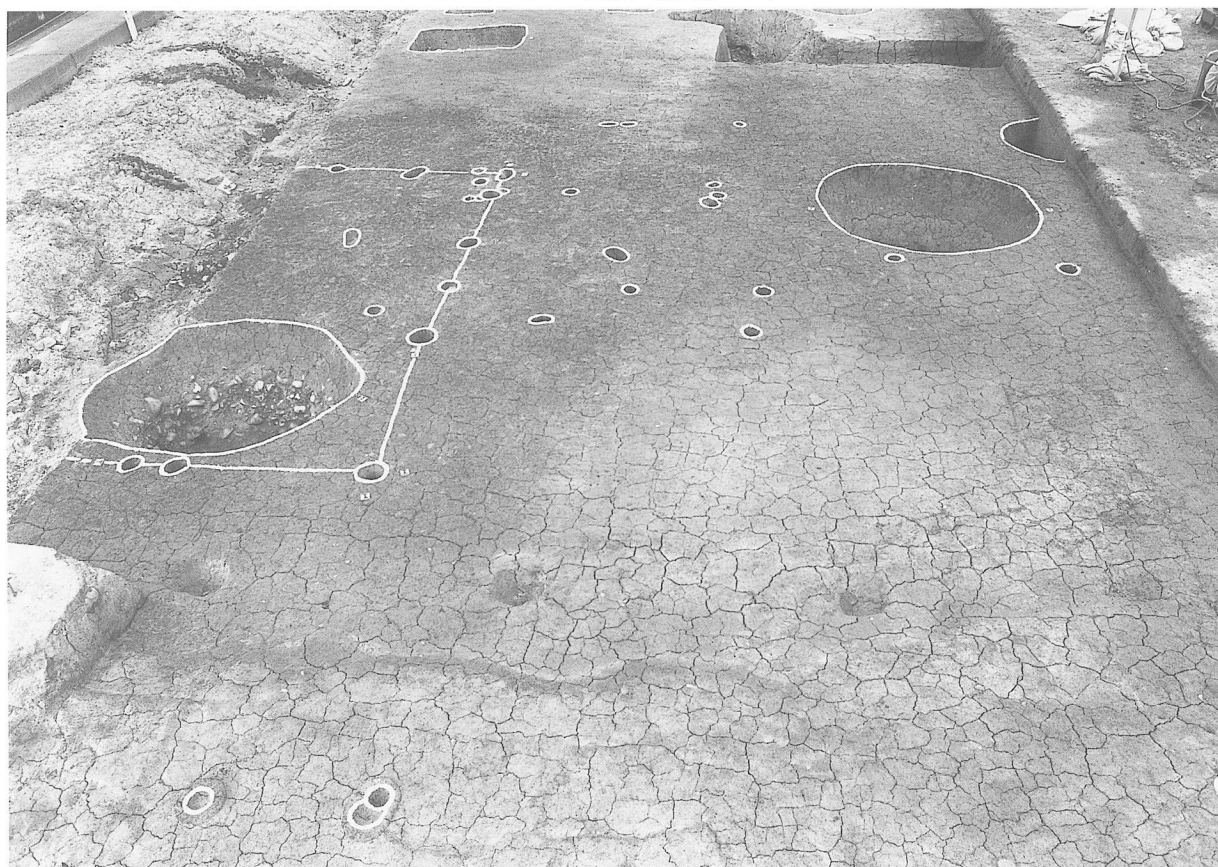
SB09 (SP454) 完掘状態 (西から)



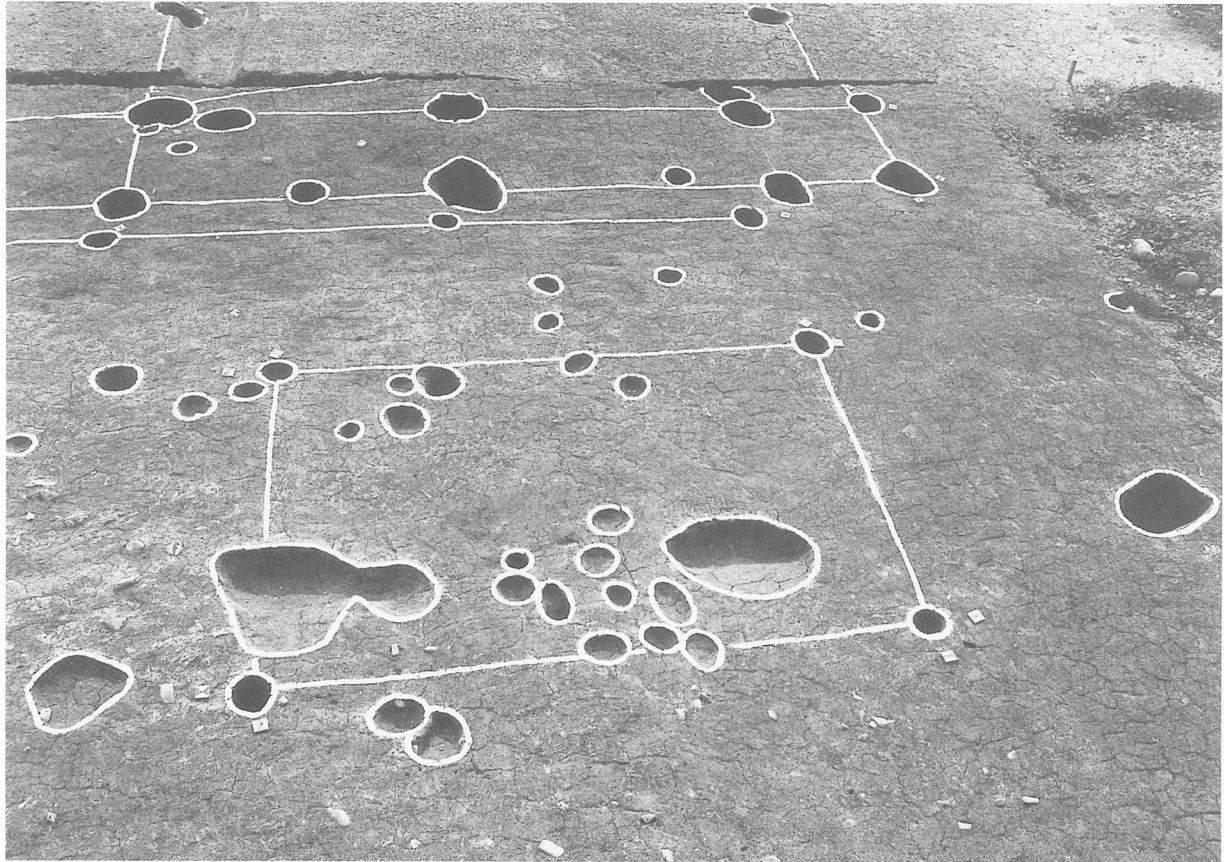
SB10全景 (南から)



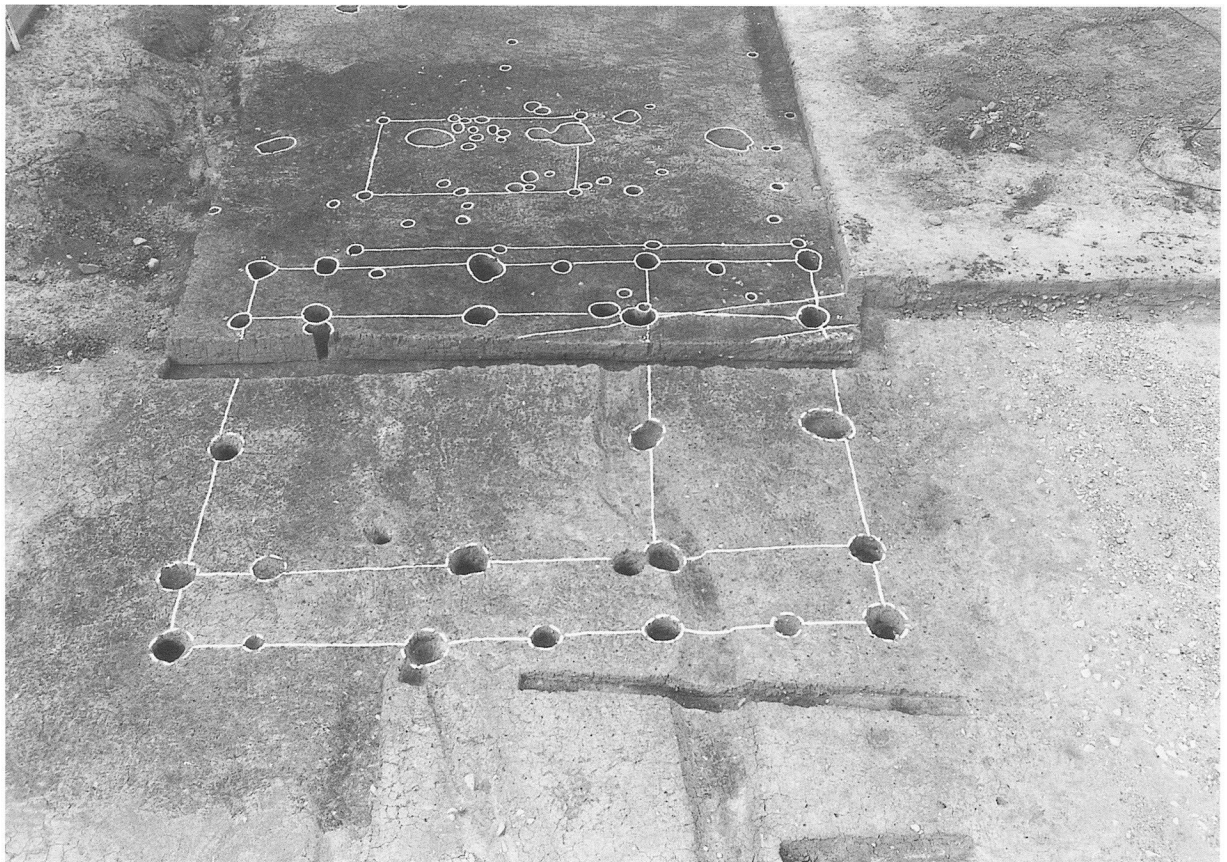
SB11・SE04全景（南東から）



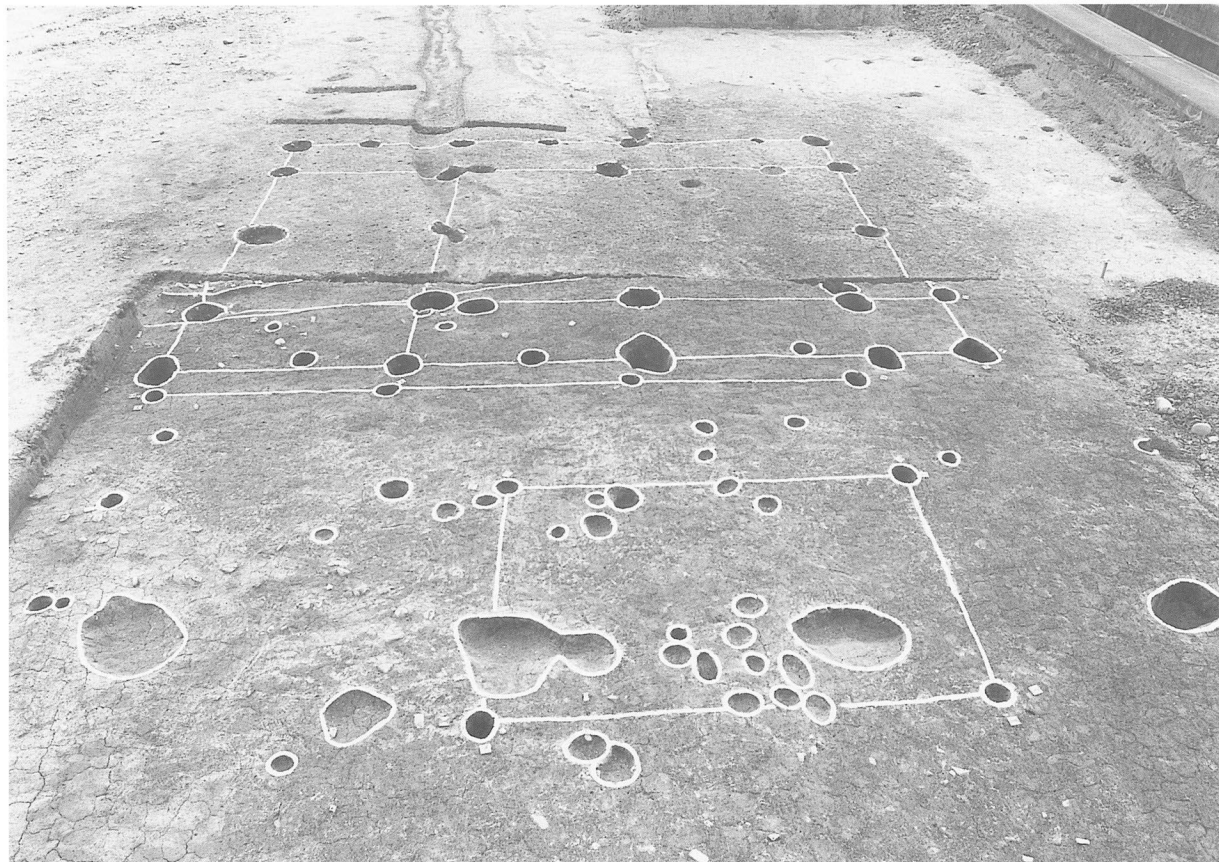
SB11・SE03・04全景（南から）



SB12全景（北から）



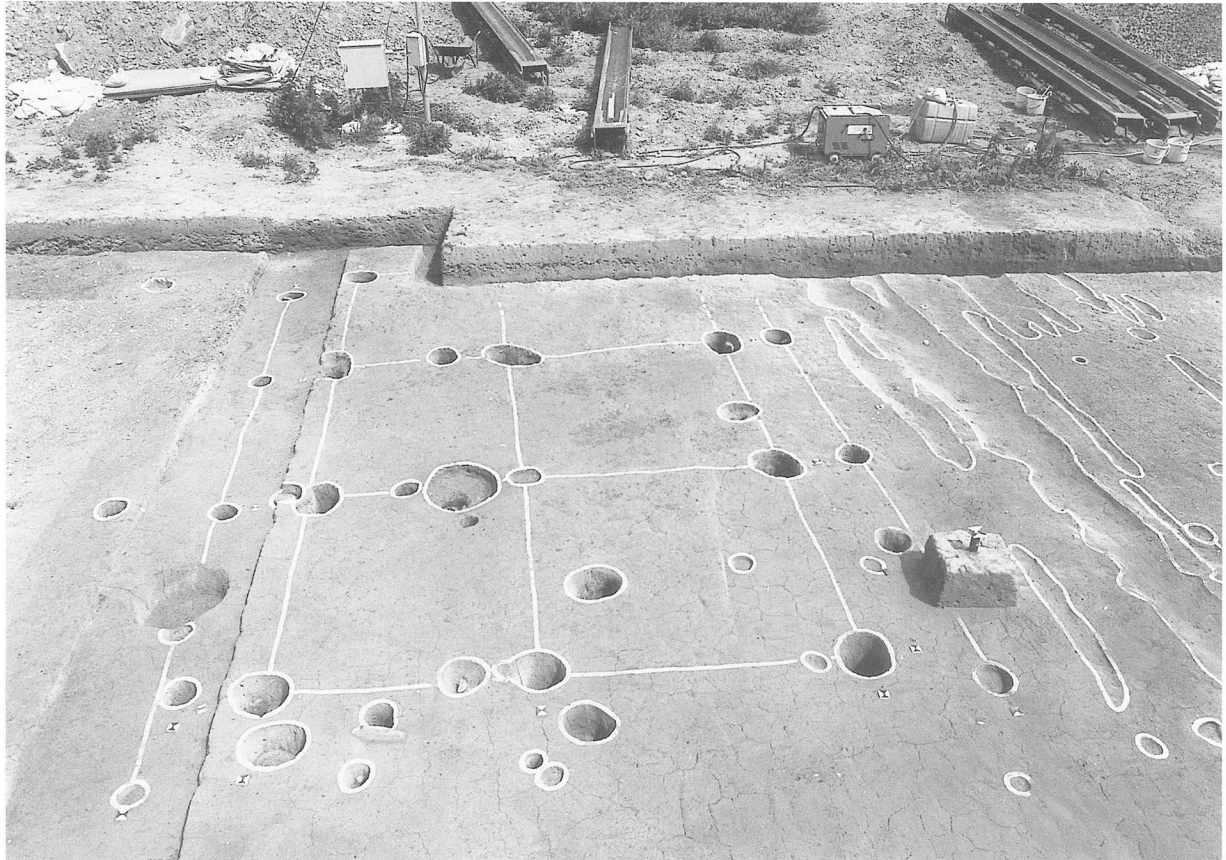
SB12・13全景（南から）



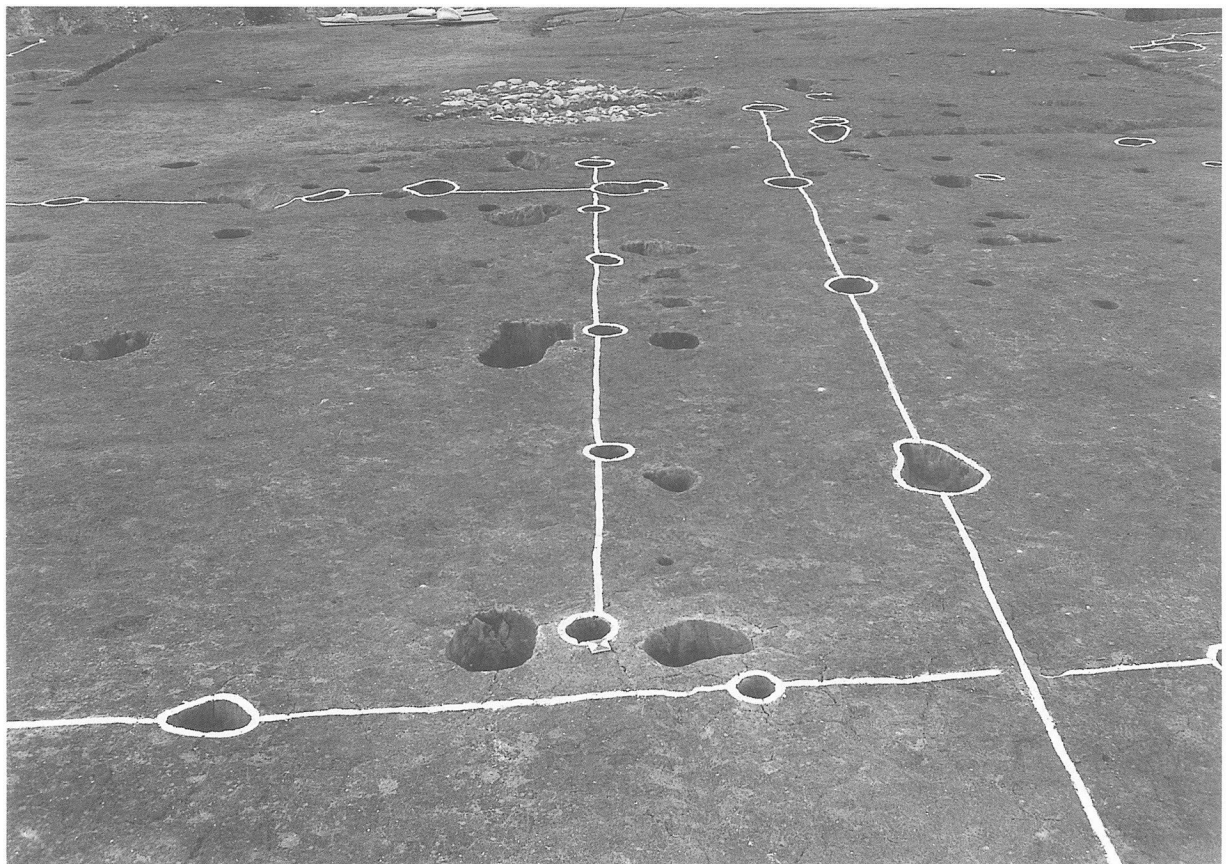
SB12・13全景（北から）



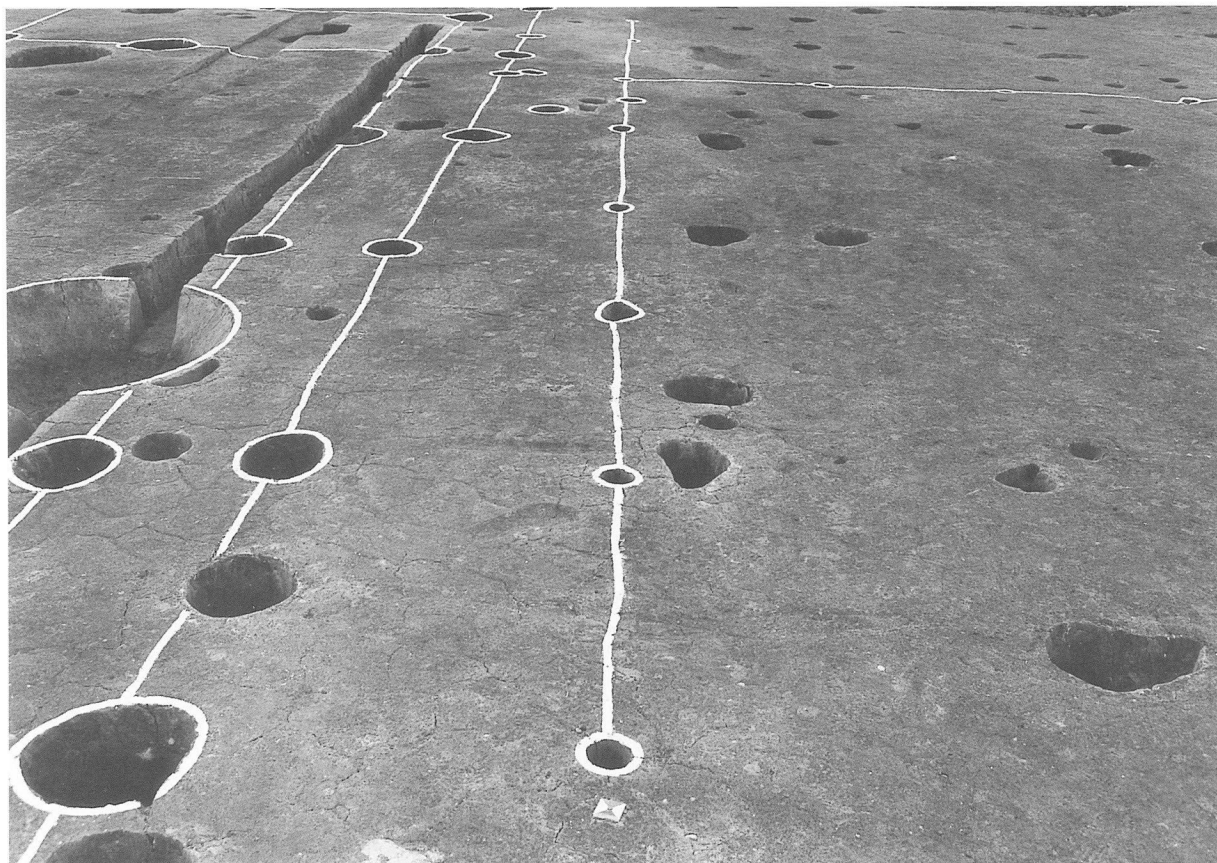
SB13全景（南から）



SB15全景 (南から)



SA02全景 (南から)



SA03全景（東から）



SD15全景（東から）